
スマブラ × 逃走中in大学キャンパス

リリカルショーバイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラx逃走中in大学キャンパス

【Nコード】

N9420M

【作者名】

リリカルシヨーバイ

【あらすじ】

ある日の深夜、とある大学キャンパスにて恐怖と欲望が絡み合う逃走劇が幕を開ける！

北エリアと南エリアに分かれてのオープニングゲームを初め、様々なミッションが36人の逃走者に襲い掛かる！

果たして、140分間逃げ切り賞金を獲得する者は現れるのか！？

エリア配分& a m p・逃走者紹介（前書き）

処女作となります。温かい目で目守っていただけると嬉しいです

エリア配分& a m p・逃走者紹介

北エリア

ヨッシー

口に入る物なら何でも食べてしまう恐竜
足は結構速い

ドンキーコング

バナナが好物のジャングルの王者
図体がでかい割に結構速い

クッパ

逃走者1の身体大きさを誇る亀
賞金にかなり貪欲である

ピカチュウ

とてもすばしっこい黄色のネズミ
瞬発力ではハンターにも勝る(らしい・・・)

ルカリオ

波導の使い手
臨機応変に作戦を考えている

カービィ

大食い且つすばしっこいピンク玉
常に隠れ場所を探す臆病な一面も

デデデ

ププランドの大王

足が非常に遅く持久力も無い

フォックス

スターフォックスのリーダー

抜群の瞬発力を誇る

ファルコ

スターフォックスのエースパイロット

かなりの行動派

ウルフ

スターウルフのリーダー

底知れぬ持久力を具^{そな}えている

リンク

ハイラルの勇者

積極性がある

マルス

正義感の強い王子

瞬発力を生かしてゲームに挑む

アイク

クールな青年

意外にもビビリである

ロボット

片言を話す機械

機械的に逃走する

ネス

超能力少年

怖がりだが行動的である

ポポ

アイスクライマーの男の方

運はあまり無い

スネーク

隠密潜入のエキスパート

動かずに隠れている事が多い

ソニック

逃走者1の瞬発力を誇る青いハリネズミ

逃走成功の大本命

南エリア

マリオ

全てにおいて平均的な配管工の双子の兄
鬼ごっこは基本的に得意としている

ルイージ

永遠の2番手と揶揄される配管工の双子の弟
かなりのビビリである

ピーチ

キノコ王国の姫

足の遅さは行動でカバーする

ワリオ

マリオの永遠のライバル
足はかなり遅い

ディディーコング
ドンキーコングの弟分
小柄で足は速い方

プリン
小柄な風船ポケモン
隠れるのは得意だが足は速くない

レッド（ポケモントレーナー）
ポケモンを操る少年
運動していないので足は遅い

メタナイト
クールな仮面の剣士
積極的に動く

ゼルダ
ハイラル王国の姫
積極性があるが瞬発力は乏しい

ガノンドロフ
リンクの永遠のライバル
デデデと同じくらい足が遅い

トゥーンリンク
小柄な勇者
かなり消極的である

サムス

女性バウンティハンター

機敏な動きでゲームに挑む

キャプテン・ファルコン

筋肉質なレーサー

ハンターと同等の瞬発力を持つ

Mr・ゲーム&amp;ウォッチ

片言を話す黒い2次元

深夜のエリアに溶け込む作戦

リユカ

かなり臆病な超能力少年

ハンターにもビビりまくる

ナナ

アイスクライマーの女の方

ポポ同様に運はあまり無い

ピット

パルテナの親衛隊長

俊敏性を遺憾無く発揮する

オリマー

マイペースな宇宙飛行士

家族の為に逃走成功を誓う

エリア配分& a m p・逃走者紹介（後書き）

次回から、いよいよ恐怖と欲望が渦巻く逃走心理劇が始まります！

恐怖のオープニングゲーム（1）（前書き）

愈々ゲームが始まります！

果たして、オープニングゲームの結末は！？

恐怖のオープニングゲーム(1)

ひとけ
人氣が全く感じられない深夜のとある大学キャンパス・・・
その工学部棟1号館前に、18人の逃走者が集められた・・・
彼らの視線の先には、サングラスに黒スーツという出で立ちのハンターが4体が、観音開きのボックスの中に収納されている・・・

「これより、ゲームを始める・・・」

スネーク「来たぞ・・・！」

フォックス「愈々か・・・」

ピカチュウ「ヤバイ・・・！怖くなってきた・・・！」

不気味な低い声のアナウンスが聞こえると、18人に緊張が走る。

「君達の前にいる4体のハンターは、ボックスの中に閉じ込められている・・・」

目の前にある色分けされた鎖は全部で18本・・・
その内1本だけが、ボックスの扉を開放するハズレの鎖・・・
それを引くと4体のハンターが解き放たれ、ゲームがスタートする・・・」

アナウンスが終わると、18人は一斉にざわめく。

ハンターまでは20m。逃走者は1人ずつ鎖を引き抜かなければならない。ハズレを引けば、ハンターが目の中の逃走者に襲い掛かる。

クッパ「おおっ！16番！吾輩はやはりクジ運がいい！」

ロボット「エエエ！？1番デスカ！？コレハ酷過ギマス・・・」

ファルコ「10番か・・・微妙な順番だな・・・」

鎖を引く順番は、事前に行ったくじ引きにより既に決定している。

すると、またしてもアナウンスが・・・

「しかし、今回このゲームに挑むのは君達だけでは無い・・・」

カービィ「ええ！？」

ヨッシー「どういう事？」

ネス「どういう事！？」

すると、スタート地点に地味に置かれていたモニターが突如発光し、ある映像を映した。そこには、同じ大学キャンパスの教育学部棟1号館の前にいる別の18人の姿が・・・

ソニック「ああ！何だこりゃ！？」

デデデ「何ぞい、これは！？」

アイク「こいつらは一体・・・！？」

プリン「何でしゅか、これ・・・？」

ナナ「何これ？」

ルイージ「えっ？別にいるの、逃走者！？」

ファルコン「どういう事だよ！？」

どちらも、不可解な出来事に戸惑いを隠せない。

実は、逃走者には伝わっていなかったが、この逃走中のエリアは北と南に分けられており、それぞれ18人の逃走者がスタンバイしていたのだ。そして、2つのステージを逃げ切らなければ賞金を獲得できないシステムなのだ。

賞金は1秒100円ずつ上昇。1stステージは50分。2ndステージは90分。合計140分間ハンターに捕まらなければ84万円を獲得できる。

南北両エリアには、ハンターボックスが4つずつ設置されており、それぞれが交互に鎖を引いていき、先にハンターを放出してしまうたエリアが1stステージとなる。一方、ハンターを放出しなかったエリアの逃走者達は、無条件で2ndステージへと進める。

先攻か後攻かは、それぞれ18番目に鎖を引く者が代表となり、モニター越しにじゃんけんで決める。

北エリア代表はスネーク、南エリア代表はレッド。

スネーク・レッド「最初はグー……じゃんけんポン！」

スネークはチョキ、レッドはグーを出した。

リンク「負けた！」

リンクの一言で、北エリアの者達はスネークを一斉に叩く。

一方、勝った南エリアは有利な後攻を選択。

北エリア 1人目・ロボット

ロボット「スネークサン！コレデハズレ引イタラ、アナタノ事一生恨ミマスカラネ！」

スネーク「何だよ、それ！勘弁してくれよ！」

ポポ「引かないでよ！絶対だよ！」

ドンキー「何色？何色？」

ロボット「ソレデハ・・・今日ハ才月様モ、才星様モ綺麗ナノデ・・・月ト星ノ色ノ黄色ヲ引キマス！」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

ロボット「行キマス！」

ジャラララッ・・・

シーン・・・

北エリア セーフ

17人はロボットを快く迎え入れる。

ウォッチ「セーフデス」・・・」

リュカ「次こつちだ・・・」

マリオ「誰だよ、1番目は？」

ガノンドロフ「俺だ・・・」

南エリア 1人目・ガノンドロフ

メタナイト「いきなりハズレは勘弁してくれ・・・」

サムス「これでハズレ引いたら、レッドが勝った意味が無くなっちゃうものね」

ピット「何色ですか？」

ガノンドロフ「黒！これ引くぞ！」

ワリオ「一寸待て！黒はハンターの服の色じゃねえかよ！」

ピーチ「そうよ！絶対それハズレじゃない！」

ガノンドロフ「そんなこじ付けがあつてたまるか！引くぞ！」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

ジャラン！

シーン・・・

南エリア セーフ

17人はガノンドロフを快く迎え入れる。

ガノンドロフ「だから言ったじゃねえか・・・黒は絶対ねえって」

ディディー「引くなら直前に引くって言うてよ・・・腰抜けたじゃん・・・」

ルカリオ「あゝ・・・セーフだゝ・・・」

マルス「うわゝ・・・!」

ウルフ「マジかよゝ!ちくしょう!」

北エリア 2人目・ヨッシー

リンク「何色ですか?」

ヨッシー「んゝ・・・やっぱりこは、自分の色の黄緑を!」

ポポ「単純過ぎ・・・」

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

ヨッシー「せーの・・・」

ジャラッ!

シーン・・・

北エリア セーフ

17人はヨッシーを快く迎え入れる。

レッド「うわぁー！最悪だー！」

トウーンリンク「また回って来たよ、こっちに！」

オリマー「悔しいですー！」

南エリア 2人目・ナナ

ゼルダ「何色？」

ナナ「それじゃあ・・・私が着ているエスキモーの色、ピンクを引きます！」

プリン「こっちも単純過ぎ・・・」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

ナナ「行きます！」

ジャラン！

シーン・・・

南エリア セーフ

17人はナナを快く迎え入れる。

ナナ「怖い・・・！ハンター怖過ぎ・・・！」

この後、北エリア・ポポは茶色を引きセーフ。南エリア・ファルコンも水色を引きセーフ。

北エリア・ピカチュウが白を引きセーフ。南エリア・マリオもゼブラを引きセーフ。

これで、残る鎖は互いに14本。ハンター放出の危険性は徐々に高まる。

果たして、どちらのエリアが1stステージを行う事となるのか！
？

恐怖のオープニングゲーム（1）（後書き）

次回、ハンターが放出！犠牲者は誰！？

因みに、鎖を引く順番は作者の私が本当にくじ引きで決めました（笑）

なので、私にとっても誰が何番目に引くのか運任せだったのです
本当にくじ引きで決めると、疲れるし尚且つしっくりとした順番になりませんね・・・そこが面白いんでしょうけど（笑）

恐怖のオープニングゲーム(2) (前書き)

誰がハズレを引くのか!?

しかし・・・テスト期間中に何やってんだろう・・・自分は・・・
まだ夏休みまで1週間以上あるというのに・・・

恐怖のオープニングゲーム(2)

北エリア 5人目・ウルフ

ウルフ「それじゃ・・・青を引くぞ!」

フォックス「何でだ?」

ウルフ「空と海の色だからだ!」

ファルコ「何だそれ?」

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

ウルフ「行くぞ!」

ジャラツ!

シーン・・・

北エリア セーフ

17人はウルフを快く迎え入れる。

アイク「もういい加減、向こう引いてくれよ・・・」

マルス「ホントだよ。これ以上続けられたら、精神的にスタスタになる・・・」

ピット「ええゝ!?!」

ルイーダ「何あの、クジ運の良さ!?!」

マリオ「次は?」

オリマー「私ですね・・・」

南エリア 5人目・オリマー

トゥーンリンク「何色?」

オリマー「緑を引きます!」

ピーチ「何で緑?」

オリマー「連れているピクミンに無い色なんで・・・いたらいいなと・・・」

ワリオ「ただの願望じゃねえかよ・・・」

オリマー「お願いします・・・もう1回向こうに回して下さい・・・」

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

オリマー「行きます!」

ジャラン!

シーン・・・

南エリア セーフ

17人はオリマーを快く迎え入れる。

ガノンドロフ「もうそろそろ引く頃だろ？」

サムス「そうね。もう引いてもおかしくないわよ。6人目だし・・・」

北エリア 6人目・フォックス

リンク「何色ですか？」

フォックス「カーキ！」

ピカチュウ「何でそんな汚らしい色を・・・」

フォックス「これハズレだったら、俺気を疑うよ！」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

フォックス「行くぜ！」

ジャラッ！

シーン・・・

北エリア セーフ

17人はフォックスを快く迎え入れる。

フォックス「よっしゃー！」

ポポ「もう大丈夫でしょ？」

ドンキー「もしこれで向こうが引いてくれなかったら、次多分こっちが引きそう・・・」

デデデ「不吉な事を言うでないぞい」

ソニック「そうだよ」

南エリア 6人目・プリン

プリン「こ・・・怖いでしゅ・・・ハンター・・・怖過ぎるでしゅ・・・」

ゼルダ「気を引き締めて！」

ウォッチ「何色デスカ？」

プリン「そ・・・それじゃあ・・・あ・・・赤を・・・」

ナナ「何で？」

ディディー「聞かない方がいいよ。かなりビビってるもん」

リュカ「ビビってるのは、ボクだって一緒だよ・・・」

プリン「怖いでしゅ．．．！」

クリアか．．．？ハンター放出か．．．？

プリン「い．．．行きます．．．！せーの．．．」

ジャラララララ．．．

シーン．．．

南エリア セーフ

17人はプリンを快く迎え入れる。

プリン「怖かったでしゅー！」

レッド「泣いてる．．．」

メタナイト「まあ無理もないだろう．．．」

ガノンドロフ「もう次で7人目か．．．」

ファルコン「もう観念してハズレ引けよ、ホントに．．．」

北エリア 7人目・ネス

ルカリオ「ネス、結構引きいいからな．．．」

クッパ「引きそうだな．．．」

ヨッシー「怖いですぅ……」

ネス「紫！」

スネーク「何故紫という中途半端な色を？」

ネス「紫好きだから」

カービィ「ヤバい、多分引く……！」

アイク「もうダメだ……足が^{すく}竦みそうだ……」

クリアか……？ハンター放出か……？

ネス「行くよ！」

ジャラッ！

シーン……

北エリア セーフ

17人はネスを快く迎え入れる。

ソニック「もう心臓に悪いぜ、これ」

カービィ「早く終わって」

ロボット「向コウガ引イテクレバ、ソレディインデスヨ」

ルカリオ「確かに・・・もう回って来てほしくない」

リンク「これで引いてくれなかったら、俺絶対吐く・・・」

ヨッシー「ボクもです・・・」

南エリア 7人目・ピット

ピット「じゃあ引こう！銀を！」

マリオ「何で？」

ピット「鎖って普通銀色してるでしょ？」

ルイージ「え・・・？意味分かんない・・・」

ピット「これ！これ引く！」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

ピット「引くよ！」

ジャラッ！ ガコン！

南エリアの逃走者全員「わああー！！！」

門^{かんぬき}が外れてしまい、南エリアで4体のハンターが放出。

1stステージが始まった・・・

南エリアの逃走者が逃げ惑う姿をモニター越しに見て、北エリアの逃走者達は抱き合って大喜びした。

北エリア 1stステージ免除

ピカチュウ「向こう引いた！」

カービィ「やったー！」

ファルコ「よっしゃー！」

ロボット「ヤリマシター！」

歓喜に包まれる北エリアとは裏腹に、悲鳴を上げながら一目散に逃げる南エリアの逃走者達。

ハンターが視界に捉えたのは・・・ピット・・・

ピット「わあー！来るなー！」

一目散に逃げるピット。しかし、ハンターとの距離は徐々に縮まる。最早、逃走不可能・・・

ピット「ああー！」 ポンッ

1stステージ残り時間 49分28秒 ピット確保 残り17人

ピット「嘘っ！ハンター速っ！あんなに速いの！？目付けられたら終わりじゃん・・・！」

一方、1stステージを免除となった北エリアの逃走者達は安堵の表情が零れていた。

ネス「良かった。嬉しい」

デデデ「天はワシ達を見放さなかったみたいだぞい」

スネーク「そうみたいだな」

クッパ「悪運が強いというのは、正にこの事を言っただけ」

ウルフ「それにしても、向こうは大パニックだな」

マルス「そりやそうでしょ。ハンターに追われてるんですから」

ルカリオ「あの無愛想な顔でスプリンター並みに追っかけられたら、悲鳴上げない方がおかしいしな」

トウーンリンク「まさか・・・ピットが・・・引くなんて思わないもん・・・！怖いよ・・・！」

ウォッチ「ピットサン・・・ナンテ酷イ事ヲ・・・！」

ワリオ「あつ・・・メール来た・・・！」

確保情報はメールで知らされる。

ゼルダ「『教育学部4号館前にてピット確保、残り17人』」

ガノンドルフ」とうとう始まった・・・！」

マリオ「さあどうするっ？」

遂に幕を開けた逃走中・・・

生き残るのは誰だ！？

恐怖のオープニングゲーム(2) (後書き)

テストが終わるまで、暫く自粛しようかな・・・？

でも、土日は出来る限り上げようと考えてます。

ミッション1発動！（前書き）

漸く今週分のテストが終わりました。

とりあえず、ほっと一息。

恐らく単位は全て取れてると思います。自分の中では・・・

兎にも角にも、再開します！

愈々幕を開けた1stステージ。17人の運命はいかに！？

因みに逃走者には、いつもなら一緒にいるスタッフはいないという設定です。誰かに話し掛けている様な台詞は、独り言だと思って下さい。

ミッション1発動！

1stステージが南エリアで始まり、2ndステージは北エリアに決定。

南エリアの逃走者達は、50分間生き残らなければ次のステージには進めない。2ndステージは90分。逃げ切れば84万円を獲得できる。

1stステージとなる南エリアは、教育学部・理学部・法文学部などの建物を含み、広さは東京ドームおよそ10個分。建物内は、教育学部・理学部・法文学部の1～4号館の1階のみ進入可能。

リユカ「何で深夜にスタートなんだろう・・・？もう暗くて尚更怖い・・・！」

ルイージ「街灯は点いてるけど・・・遠くが全然見えない・・・！ハンター来そうで怖過ぎ・・・！」

ハンターと暗闇に怯える2人。

メタナイト「ん・・・？こんな所に信号があるが・・・」

エリア内には、数ヶ所に信号が設置されている。無論、逃走者もハンターもその交通法規を遵守しなければならない。

ワリオ「おつ、もう少しで1万円だ・・・！これは宝探しやゲーム開発よりいい金稼ぎだ・・・！」

賞金は1秒ごとに100円ずつ常に上昇している。

一方、1stステージを免除となった北エリアの逃走者達は・・・

スネーク「今から50分間は、俺達はこの状況だ」

18人は工学部1号館前のカフェテラスに腰掛け、手元のアイズドリンクを飲んでいる。彼等は1stステージの間、何もせずに、上昇する賞金・・・最高30万円・・・を獲得できる。

ポポ「向こうは、すごい血相をして走ってるよね」

ファルコ「もう息切らしてると思うぜ」

ピカチュウ「ねえ」

デデデ「逃げ惑う姿が目につかぶぞい」

マリオ「絶対逃げ切って、84万円ゲットするぞ・・・！」

気合い十分なマリオ。

トゥーンリンク「とりあえず、最初のうちは隠れておこう・・・」

法文学部3号館の階段の陰に隠れるトゥーンリンク。

プリン「私は絶対・・・ここにいた方がいいでしゅ・・・」

こちらは、教育学部2号館の長椅子の下に隠れているプリン。身体が異常なまでに震えている。

ウォッチ「私ニツテ、コノ闇夜ハ絶好ノ隠レ場デス」

街灯の当たらない駐車場に身を潜めるウォッチ。確かにこれなら、ハンターには気付かれにくい。

ハンターはエリアを隈なく搜索。視界に入った逃走者を見失うまで追跡する。

ガノンドロフ「今は・・・図書館か・・・」

ガノンの前から、ナナ・・・

ナナ「あつ、ガノン・・・」

ガノンドロフ「ああ、ナナか・・・お前、何処行こうとしてるんだ？」

ナナ「とりあえず、エリアの最南端まで・・・」

ガノンドロフ「ふん・・・」

特に興味は無い様だ・・・

ゼルダ「自首は絶対しない！そんなつまらない事したくない」

逃げ切りを宣言したゼルダ。

彼女が言う自首とはゲームからのリタイア。南門か東門に掛かっているダイヤルキーを外して門を開け、エリア外へ脱出すれば、その

時点までの賞金を獲得できる。

ピーチ「20万円もらえればいいかな・・・？でも、ゼルダより先には絶対捕まらない！やっぱり同じ姫として負けられない！」

ゼルダに對抗心を抱くピーチ。果たして、姫同士の勝負の行方は。

サムス「もうすぐ2万円・・・！こんないい賞金稼ぎ無いわ・・・！」

100円ずつ上がる賞金に心が躍るサムス。

オリマー「目標は勿論84万円。その賞金で、女房と子供に何かプレゼントを買いたい」

家族の為に逃げるオリマー。

理学部棟が見えるループ道路を移動するレッド。彼は何故か、ディイーと行動を共にしている。

レッド「あんまりここにいない方がいいんじゃないか？」

ディイー「何で？」

レッド「だってさ、ここループ道路であそこが理学部棟1号館だろ？これでハンターに来られたら、多分撒き切れないぞ」

ディイー「ホントだ、小道が殆ど無い。移動した方がいいね」

そこへ、メタナイトが合流。

メタナイト「2人で行動しているのか？」

ディディー「うん」

レッド「そっちはハンターいたか？」

メタナイト「いや、こっちは大丈夫だが・・・」

ハンターの有無を確認し合う3人。そこへ近付く黒い影・・・

レッド「やっぱり、建物内が安全かな？」

メタナイト「いや、ハンターも建物内を探すから、絶対安全という事はない」

ディディー「そっか・・・じゃあどうすれば・・・って来たー！」

メタナイト「うおおー！」

レッド「マジでか!？」

ハンターに見つかり、3人は別方向に逃げる。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーーー

レッド「俺かよー!？」

レッドだ・・・

レッド「何だよ、あれ！？反則だろ！速過ぎるー！」

一目散に逃げるレッド。しかし、その差は徐々に縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

レッド「やあー！」 ポンッ

1stステージ残り時間46分7秒 レッド確保 残り16人

レッド「速過ぎっ！何あれ！？ていうか・・・お金ー！何でー！？もう終わり！？最悪ー！」

デイディー「危なかった・・・！」

メタナイト「レッド捕まったんじゃないのか・・・？」

ブルル プルルルルル

プリン「わっ・・・！？な・・・何でしゅか、この着信音・・・！音大き過ぎるでしゅ・・・！」

ルイージ「『理学部棟駐車場付近にてレッド確保、残り16人』・・・！」

ウォッチ「ア・・・アワワワワワ・・・」

目の前で確保を見たウォッチ。幸いハンターには気付かれていない様だ。

ウォッチ「ハンター・・・アンナニ速インデスカ・・・？オ・・・
恐ロシイデス・・・」

ハンターの恐怖を目の当たりにし、不安を隠せない2次元。

ガノンドロフ「3万円行つた・・・！」

プルル プルルルルル

ガノンドロフ「ん・・・？何だ？」

メールだ・・・

サムス「あつ・・・来た、ミッション1」

マリオ「『エリア内に9つのハンターボックスを設置した』・・・」

ファルコン「『残り35分になると、扉が開きハンターが放出される』・・・マジかよ・・・！？」

ナナ「『阻止するには、それぞれの横にあるレバーを下ろし、ボックスを封印しなければならない』・・・」

リユカ「『但し、レバーは？？？までナンバリングされており、順番に下ろさなければならない』・・・」

スネーク「『また、増えたハンターは2ndステージにも引き継がれる。急ぎたまえ！』」

ロボット「エッ！？」

カービィ「最悪！」

アイク「マジで!？」

『2ndステージに引き継がれる』という言葉に、北エリアの18人全員が凍り付く。

MISSION? ハンター放出を阻止せよ!

エリア内に設置された9つのハンターボックス。残り35分になると、それぞれのボックスの扉が開き、9体のハンターがエリアに解き放たれる。阻止するには、それぞれのボックスの横にあるレバーを下げ、封印しなければならぬ。但しレバーは、?から?まで表示されている番号順に下ろしていかなければならぬ。全てのレバーを下せなければ、ハンターは最大13体となり、ハンターの数に2ndステージにも引き継がれる。

ゼルダ「あと10分足らずで9体が出てくるの!?!それはいくらなんでもきつ過ぎる!」

メタナイト「さあどうする?」

ミッションに動けば、ハンターに遭遇する危険が高まる。

ハンター放出まで、およそ9分。

ハンター放出を防げるのか!?

ミッション1発動！（後書き）

8月28日の逃走中では、どんなドラマが展開されるんでしょうか？

放送が楽しみです！（＾o＾）

ハンター放出阻止へ！（前書き）

リアルルイーダさん、感想有難う御座います

発動されたミッション。16人はどう動く！？

ハンター放出阻止へ！

残り35分までに、ボックスの横のレバーを番号順に下ろしていかなければ、最大9体のハンターが放出。ハンターの数引き継がれる為、既に2ndステージ進出が決まっている北エリアの逃走者にとっても、他人事ではない。

フォックス「という事は・・・1体でもハンターが出てきちゃったら、俺達にも被害が及ぶって事だろ？」

マルス「迷惑ですよネ？」

ヨッシー「でも番号順についているのが酷くないですか？」

ソニック「だよな？」

カービィ「まあ、誰かやるよ。ボク達がジュース飲んでる間にさ」

クッパ「随分と呑気だな、お前は・・・」

トウーンリンク「ええ？ヤダよ。ここから動きたくないよ」

プリン「無理でしゅ、こんなの・・・どのボックスからも遠いでしゅよ、ここは・・・」

隠れている2人は、ミッションに動かない。

リュカ「行かないでいよう・・・近くにハンターいそうだもん」

デイディー「動いたら、確実に迷うし捕まるよね……このミッションはやらない」

ウォッチ「折角せうかくいい隠レ場所ヲ見ツケタノニ……動キタクアリマセン……」

ワリオ「誰かやるだろうよ。なあ……頼むぜ、誰か」

ガノンドロフ「ボックスが遠いな……任せるか」

続々とミッションを諦める逃走者達。

動けばハンターに見つかる危険が高まる。ミッションに行くか行かないかは逃走者の自由だ。

ファルコン「これやらないといけねえな……ハンター出てきたら最悪だよ……よしっ、行くか。少しぐらい見つかったても、逃げれると思うけどな……」

真っ先に動いた俊足のレーサー。

メタナイト「行くしかないな」

サ姆斯「やるでしょ、これ。やらないって人いるの？いないでしょ？」

ゼルダ「行こう！」

ピーチ「あっ、一番近い……！行こう！」

メタナイト・サムス・ゼルダ・ピーチもハンター放出阻止に向かう。

ファルコン「1番と2番遠いな……誰かに電話して、『行け』
って言おう」

ファルコンは電話を掛ける。相手は……

メタナイト「ん……？ファルコンから……もしもし？」

ファルコン「おお、メタナイト？今何処だ？」

メタナイト「今はな……えっと、本部の所なんだよ」

ファルコン「本部……あつ、という事は2番の近くか？」

メタナイト「ああ、そうだ」

ファルコン「じゃあ、そこで待機してくれ。俺3番がある第2体育館の方へ行くから、もう1人に電話して1番封印してもらう様に
言っておく」

メタナイト「おお、頼んだぞ」

ファルコン「任せとけ！」

2人は電話を切った。

ファルコン「よしつ。これで2番は确实だな……でも、1番の近くに誰がいるんだ？」

ピーチ「もう少し・・・もう少し・・・」

1番のハンターボックスに向かう姫。しかし、その近くにハンター・

ピーチ「あつた!」

漸く、東門近くの駐車場に設置された1番のハンターボックスに到着。

しかし、ハンターに見つかった・・・が、ピーチは気付かない・・・

ピーチ「このレバーを下ろすのね・・・よいしょっと!」

ピーチは1番のレバーを下ろす。

No.1封印 No.2切り替え可能 残り8体

ピーチ「よしっ!1体封印!・・・ん・・・?いやあー!」

迫り来るハンターに気付き、一目散に逃げるピーチ。しかし、気付くのが遅過ぎた。最早、逃走不可能・・・

ピーチ「イヤッ!ヤダッ!キヤー!」 ポンッ

1stステージ残り時間43分12秒 ピーチ確保 残り15人

ピーチ「嘘・・・!?いたの、ハンター・・・!?暗くて全然見えなかった・・・!」

メタナイト「おっ、切り替わった。下ろすか・・・よいしょっ！」

メタナイトは2番のレバーを下ろす。

NO・2封印 NO・3切り替え可能 残り7体

プルル プルルルルル

メタナイト「わっ！タイミング悪過ぎ・・・！何だよ・・・？」

オリマー「『東門駐車場にてピーチ確保、残り15人』・・・！」

マリオ「うわぁ！ピーチ捕まった！」

ファルコン「東門駐車場って・・・1番がある所じゃねえか！封印して捕まったのか・・・？」

ナナ「今何番まで封印したんだろう？それが分かんないと、動きたくても動けない」

偶然にも、4番のハンターボックスが設置されている留学生センタ―近くにいますナナ。しかし情報が少ない為、思う様に動けない。

ルイージ「あと7分ぐらい・・・不味いぞ・・・どうしよう？6番辺りに先回りしとこうかな？」

先回りを試みるルイージ。果敢にもミッションに挑む様だ。

一方、この男は・・・

マリオ「いや・・・動いて捕まるのが1番最悪だからな・・・」

このミッションには無関心の様だ・・・

漸くファルコンが、3番のハンターボックスに到着。

ファルコン「よしっ！切り替え可能になってる！下ろすぞ！」

ファルコンは3番のレバーを下ろす。

No.3封印 No.4切り替え可能 残り6体

その時、体育館の陰からハンターが現れた。

ファルコン「よしっ・・・！うぉあー！マジかよー！」

一目散に逃げるファルコン。彼が逃げた先に、ガノンドロフの姿が・・・

ガノンドロフ「誰も動いてないのか・・・？ん・・・？何だ、この絶叫に近い声は・・・？」

ファルコン「ガノン逃げる！ハンター来たぞ！」

ガノンドロフ「何！？て言うか、こっち来るなー！」

ファルコンはガノンドロフを追い抜いて逃げ続ける。一方のガノンドロフも曲がり角を利用して一目散に逃げる。しかし、ファルコンが追い抜いて行ったせいで、ハンターの標的がガノンドロフに変わってしまった。

ガノンドロフ「くそー！何故だー！何故俺だ〜！」

一目散に逃げ続けるガノンドロフ。しかし、その差はどんどん縮まる。最早、逃走不可能・・・

ガノンドロフ「ぐおおー！」 ポンッ

1stステージ残り時間41分49秒 ガノンドロフ確保 残り
14人

ガノンドロフ「くそ〜・・・ファルコンめ〜・・・！」

その間に、ファルコンは上手く逃げ切った様だ。

ファルコン「ヤバイ・・・！ガノン捕まったか・・・？」

ブルル プルルルルル

マリオ「また確保情報か？」

ウォッチ「『理学部棟2号館付近にてガノンドロフ確保』・・・」

ファルコン「『残り14人』・・・うわぁ・・・ガノン済まない・・・！」

4番のハンターボックス近くにいるナナ。恐る恐る近付いてみる。

ナナ「あれ・・・？切り替え可能になってるじゃん・・・なんだ・・・迷う事無かったんだ・・・よいしょっと」

ナナは4番のレバーを下ろす。

No.4封印 No.5切り替え可能 残り5体

ミッションに向かうサ姆斯。そこへ、ゼルダが合流。

サ姆斯「あつ、ゼルダ」

ゼルダ「今何番まで出来てると思う？」

サ姆斯「4番くらいじゃないかしら？」

ゼルダ「ここ何処？」

2人で作戦を考える。その近くにハンター・・・

サ姆斯「ここは恐らく・・・ここじゃない？就職センター・・・」

ゼルダ「なるほど・・・じゃあ、サ姆斯は5番がある南門付近の売店の方をお願い。私6番の会館の方に先回りしとくから」

サ姆斯「OK・・・！あつ、ハンター来た！ハンター来た！」

見つかった・・・

ゼルダ「不味い、不味い、不味い！」

サ姆斯「何でこんな時に！？」

一目散に逃げる2人。建物の角を利用し、上手く撒いた様だ。

サムスが逃げた先には、偶然にも5番のハンターボックス。

サムス「あつた・・・これを下ろせばいいのね・・・」

プルル　プルルルルル

サムス「えっ、何・・・!？」

スネーク「途中経過だ・・・!『残るハンターボックスは5つ。このままでは5体のハンターが放出されてしまう』・・・おい、何だよこのザマは・・・!」

リンク「あと5分切ってるのに、ハンターは半分も封印されてないんですか？」

ファルコ「ヘタレだな、あいつら・・・!」

ルカリオ「これ、良くて1体放出されるんじゃないのか？」

アイク「そんなの許すかよ!冗談じゃねえよ、ハンター増えたら!」

ロボット「メンバー的二モ、果敢ニミッションヤル人少ナイデスカ
ラネ、向コウハ」

ネス「でも、ボク達はミッションの結果がいい事をただ祈る事しか
出来ないからね・・・」

ピカチュウ「そうだよね・・・」

サムス「不味い・・・！兎に角下ろしとかないと・・・！」

サムスは5番のレバーを下ろす。

No・5封印 No・6切り替え可能 残り4体

残るボックスはあと4つ

ハンター放出まで4分

全てのハンターボックスを封印する事は出来るのか！？

ハンター放出阻止へ！（後書き）

8月の放送も楽しみだけど、10月・11月に出るDVDも楽しみです

どんな未公開シーンが入っているのか、期待大です！

ミッション1終了！（前書き）

毎日の猛暑で思考が衰えそうです・・・

明日からまたテストが始まるというのに・・・

ミッション1終了！

6番のハンターボックス付近にやってきたルイージ。

ルイージ「あつ、あれか・・・ゲッ・・・！」

ルイージが向かう先に、ハンター・・・

ルイージ「何でいるんだよ・・・くそ、向こう行け・・・！」

しかし、彼の思いと反する様にハンターは近付いてくる。

ルイージ「ダメだ・・・」

来た道を引き返し、一旦^{いったん}理学部棟3号館内に身を隠す。

ルイージ「あと3分半だよ・・・ヤバイ・・・！」

マリオ「あと5つくらい誰かやってくれるでしょ」

人任せなマリオ。理学部棟1号館の階段に腰掛けて休んでいる。

ハンター放出まで 3分30秒

そこへ近付く黒い影・・・

マリオ「絶対ミッションの近くにハンターっているから、危険なんだよね・・・ん・・・？ヤバイ！」

見つかった・・・

マリオ「こんなところで・・・捕まってたまるか・・・！」

一目散に逃げるマリオ。

茂みを利用し、ハンターの視界から消えた様だ。

マリオ「やっぱり・・・ハンター4体って多いな・・・！」

ハンターに追われ、思う様に休めない。

ゲーム開始から、理学部棟駐車場から殆ど動いていないウォッチ。ほとんど

ウォッチ「離レタクナイデス・・・コンナ絶好ノ隠レ場カラ・・・」

動く気は無さそうだ・・・

ワリオ「残り3分になりそうだ・・・あれから誰も動いてねえのか？」

動きたくないメタボな社長。

ワリオ「ん・・・？ハンターだ・・・！信号待ちしてるな・・・」

近くにいたハンターに気付き、その場を離れる。

しかし、逃げた先に別のハンター・・・

ワリオ「これで見つかったら最悪だな・・・って言った傍そばからかよ

「!?」

見つかった・・・

一目散に逃げるワリオ。彼が逃げる法文学部3号館には、階段の陰に隠れているトウーンリンク・・・

ワリオ「ヤバい！近過ぎる！」

トウーンリンク「何、この声・・・？」

ハンター放出まで 3分

ワリオは法文学部3号館の中へ。

ワリオ「うおおー！」

トウーンリンク「ゲツ・・・！ワリオ、ハンターを連れて来てる・・・！何でこつち入って来るんだよ・・・！？」

ハンターはトウーンリンクには気付いていない。

トウーンリンク「最悪だ・・・！ハンター入ってきちゃったよ・・・！離れよう・・・」

法文学部3号館を出る小柄な勇者。

その間、ハンターとワリオとの差が無くなっていく。最早、逃走不可能・・・

ワリオ「がああゝ！」 ポンッ

1st ステージ残り時間37分26秒 ワリオ確保 残り13人

ワリオ「鉢合わせかよゝゝゝ最悪過ぎるゝゝゝ！」

プルル プルルルルル

プリン「だからゝゝゝ！携帯うるさいでしゅゝゝゝ！」

リュカ「ワリオが捕まったゝゝゝ」

オリマー「あの身体じゃゝゝゝ遠くから追い掛けられても捕まりますよねゝゝゝ」

理学部棟3号館内に身を隠すルイージ。

ルイージ「もうハンターいない筈だよねゝゝゝ？よしっ、行くか」

漸く動き出す。

ハンター放出まで 2分

ルイージ「兎に角ハンターが増えるのだけは避けないとゝゝゝ急げゝゝゝうわっ！」

マリオ「うおっ！」

マリオだゝゝゝ

ルイージ「に・・・兄さん!？」

マリオ「そんな驚く事無いだろうよ・・・」

ルイージ「兄さん、ハンター食い止めようよ。このままじゃ逃げ切れる確率がどんどん低くなっちゃうよ?」

マリオ「そんな事言ったって無理だろ。何番まで封印出来て、今は何処がレバーを動かせるのか分からないんだぞ?」

ルイージ「そうだけど・・・でも増えるよりはマシだよ」

マリオ「まあな・・・」

ハンター放出まで 1分30秒

ゼルダ「あれね・・・!」

双子の兄弟が話し合っている間、ゼルダが6番のハンターボックスを発見。

ゼルダ「これを下ろせばいいのね・・・!せーの・・・」

ゼルダは6番のレバーを下ろす。

No.6封印 No.7切り替え可能 残り3体

ゼルダ「あと3つ・・・誰か向かってないのかしら?」

メタナイト「嘘だろ・・・?最後の3つ、全部見晴らしの良過ぎる

所だ・・・」

地図を見て嘆く仮面の騎士。

残る3つのハンターボックスは、全てループ道路上にあり、周りには建物や茂みが全くない所なのだ。

メタナイト「この3つは無理かな・・・？」

ハンター放出まで 1分

このままでは、3体が放出され合計7体となる。

ファルコン「ちくしょう・・・！ハンターがいるじゃねえか・・・！」

7番のハンターボックス付近にいたファルコン。しかし、ハンターを目撃し、ボックスに近付けない。

ファルコン「さっさと退^どけよ、ハンター・・・！」

マリオ「おい。そうこうしてる間に、残り40秒切ったぞ」

ルイーダ「ええ？もう無理じゃん・・・！」

マリオ「この近くにハンターボックスある・・・離れといた方がいいぞ」

ルイーダ「うん・・・そうだね」

諦めた双子・・・

ハンター放出まで 30秒

サムス「ボックスが見つからない・・・！どうすれば・・・でももう時間無い・・・！」

ファルコン「これヤバいな・・・！」

ハンター放出まで 20秒

ゼルダ「離れよう・・・！」

メタナイト「無理だ・・・！」

ハンター放出まで 10秒

オリマー「何も出来なかったのが、正直悔しい・・・！次のミッシヨンぐらいは何とかやり遂げよう・・・！」

そして、ハンター3体放出。その数は7体となった。

ナナ「『ミッシヨン失敗。3体のハンターが放出され、その数は合計7体となった』・・・！嘘・・・！ハンター増えちゃった・・・！」

デイディー「ええ・・・！？増えちゃったよ。どうすんの、これ？」

ウルフ「何してんだよ！？」

ファルコ「何してんだ、あいつら！」

ソニック「ドン臭えと言うか、勇気無えというか・・・」

クッパ「ホントに何してんだよ!？」

デデデ「奴ら、ホント情けないぞい!」

アイク「ぶつ殺すぞ、お前ら!」

北エリアの逃走者達も、この結果に大激怒。

しかし・・・

スネーク「一寸待て!」
『が』って書いてあるぞ!」

ヨッシー「が!？」

ピカチュウ「何」
『が』って!？」

スネーク「『・・・が、これだけでは終わらない』・・・」

カービィ「えっ?」

リンク「どういう事?」

スネーク「『現在、エリア内の進入可能な建物内全てにハンターボックスが設置されている』・・・」

マリオ「『建物内全てにハンターボックスが設置されている』って・
・何だよそれ!？」

リユカ「『残り25分までに、それぞれのボックスの左右のレバー
を2人同時に下げて封印しなければならない』・・・」

メタナイト「『急ぎたまえ!』・・・今度は2人同時か・・・!き
つ過ぎる・・・!」

MISSION? 再びハンター放出を阻止せよ!

現在、エリア内の進入可能な建物内全てにハンターボックスが設置
されている。残り25分になると、それぞれのボックスの扉が開き、
最大12体のハンターがエリアに解き放たれる。阻止するには、そ
れぞれのボックスの左右に付いているレバーを2人同時に下げ、封
印しなければならない。全てのボックスを封印しなければ、ハンタ
ーは最大19体となり、無論ハンターの数に2ndステージにも引
き継がれる。

プリン「えっ?という事は、この建物の中にハンターボックスがあ
るという事でしゅか?」

ナナ「これ、1分に1体ペースじゃ間に合わないじゃん・・・!」

このミッションは、2人同時でなければ阻止できない。

ハンター放出まで、およそ9分。

再び襲い掛かる、ハンター放出の恐怖!

ミッション1終了！（後書き）

1日2作品以上も上げると、楽しみが半減してしまうのでしょうか？
出来れば、上げるペースなんかもアドバイスしてくれれば嬉しいで
す

再びハンター放出阻止へ！（前書き）

明日は1日限りのテスト休み

今日と明日で、出来る限りのアイデアを出して上げていきます！

それと、ワグナーさん・リアルルイージさん、感想有難う御座います

これからも頑張って参ります！

再びハンター放出阻止へ！

残り25分までに、ボックスの左右にあるレバーを2人で同時に下るさなければ、最大12体のハンターが放出。既に2ndステージ進出が決まっている北エリアの逃走者にとつても、他人事ひんごとではない。

クツパ「これ以上ハンター増やしたら、あいつら抹殺確定だな！」

ウルフ「そうだな。奴等のヘタレ加減には飽き飽きだ！」

ハンターの数は、2ndステージにも引き継がれてしまう。

ロボット「早く食イ止メテクダサイ！」

リンク「誰でもいいから行ってくれ！」

マルス「頼む！」

ウォッチ「私ハ絶対行キマセン。足ノ速イ人ガヤレバイインデス。
アンナたぐさんニ沢山イルンデスカラ」

トウーンリンク「建物から離れてるもん。無理だよ、こんなの」

ディディー「2人同時なんて無理だよ。誰か呼ばなきゃいけないし・
・今ハンター7体だし・・・」

ウォッチ・トウーンリンク・ディディーの3人は、ミッションには動かない。

現在、エリアには7体のハンター。動けば遭遇する危険が高まる。しかし、残り25分になると、更に12体増えてしまう。

「マリオ「さっきルイージと一緒に逃げれば良かったんだ・・・うわ、何というミス・・・」

弟と別れてしまった兄。

マリオ「しょうがない・・・呼び寄せるか・・・」

プルルルルル

ルイージ「ん・・・？あつ、兄さん。もしもし？」

マリオ「今何処だ？」

ルイージ「今ね・・・理学部棟の3号館と4号館の間の道端辺りなんだよ」

マリオ「おお、近い近い。じゃあ、そのまま1号館前に来てくれ。そこにいるから」

ルイージ「兄さん、ミッションやるの？」

マリオ「当たり前だろ。このままじゃ全滅になり兼ねないし・・・」

ルイージ「OK・・・じゃあ向かうね」

マリオ「おお、頼むぞ」

2人は電話を切った。

マリオ「少なくとも、この理学部棟からのハンターは全部封印しないと・・・」

プリン「ハンターボックスって何処でしゅか？」

長椅子の下から出てきて、ハンターボックスを探すプリン。

プリン「ハンター・・・あつ、あつたでしゅ・・・！これで、誰かに来てもらえばいいんでしゅね？」

プリンは誰かに電話を掛ける。掛けた相手は・・・

プルルルルル

オリマー「プリンさんから・・・何でしょうか？」

プリン「オリマーちゃん。私、教育学部棟2号館のハンターボックスを見つけて、目の前で待機してるんでしゅ・・・」

オリマー「それで、私に来いと・・・」

プリン「はい。お願いしましゅ・・・」

オリマー「じゃあ、行きますね・・・」

2人は電話を切った。

オリマー「了承したのはいいけど・・・教育学部棟って結構な距離

ある・・・」

トウーリンク「どうしよう・・・？あそこにずっと隠れてれば良かったのに・・・」

法文学部3号館から離れてしまった小柄な勇者。

その近くに2体のハンター・・・

トウーリンク「ここから戻れるかな・・・？でも、戻っても誰かといないと封印出来ないし・・・どうすれば・・・ん・・・？来たー！」

見つかった・・・

一目散に逃げるトウーリンク。しかし、逃げた先にもう1体・・・

トウーリンク「わああー！こっちからもー！？」

ピーーーーーー

逃げ続ける小柄な勇者。しかし、その差は徐々に無くなっていく。最早、逃走不可能・・・

トウーリンク「あぁっ！」 ポンッ

1stステージ残り時間3分11秒 トウーリンク確保残り12人

トウーリンク「2体で来た・・・！なんて不運なんだ・・・！」

メタナイト「『法文学部棟4号館付近にてトゥーンリンク確保』・・
」

サムス「不味いわ。法文学部棟よ」

ファルコン「でも、開き直っていくしか無えよ」

法文学部棟に向かっていたサムスとファルコン。

ルイージ「兄さん！」

マリオ「おお、来たか」

双子の兄弟が合流。

マリオ「早く行くぞ」

ルイージ「この中でしょう？」

2人は理学部棟1号館の中へ。

マリオ「1階だけとはいえ、結構広いな」

ルイージ「あつ！あつたよ、兄さん！」

マリオ「ホントか！？」

ルイージ「こっち、こっち！」

2人は非常階段前のハンターボックスを発見。

マリオ「じゃあ、そっち頼むぞ！」

ルイージ「うん！」

マリオ・ルイージ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り11体

ルイージ「よしっ！」

マリオ「次2号館だ！行くぞ！」

ルイージ「OK！」

リュカ「怖いよ・・・」

7体のハンターに怯え、しどろもどろになっている超能力少年。そこへナナの姿・・・

ナナ「リュカ。何してるの、こんな所で？」

リュカ「何って・・・怖くて動けないんだよ・・・」

ナナ「男のくせにだらしないわね。あつ、そう言えばミッションどつするの？」

リュカ「誰かやるでしょ、そんなの・・・ボクは行かないよ・・・」

ナナ「それが女を目の前にした男が言うセリフ？教育学部近いから、一緒に行こう」

リュカ「ええ？」

ナナ「ガタガタ言わない！早く！」

リュカ「はあゝい・・・」

教育学部棟へと向かう2人。その近くに黒い影・・・

ナナ「リュカ・・・ビビリ過ぎ。走ってよ、時間無いんだから」

リュカ「そんな事言われたって・・・あれ？」

ナナ「何？」

リュカ「一寸待って・・・あれハンターだ・・・！」

ナナ「嘘・・・！？」

リュカが逸早くハンターを見つけた。2人は茂みに身を隠す。

ハンターは2人に気付いていない。上手くやり過ごした様だ。

その頃、マリオとルイージが早くも理学部棟2号館の階段前のハンターボックスを発見。

マリオ・ルイージ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り10体

ルイージ「次は3号館だね！」

マリオ「おお！」

サムスとファルコンも、ハンターに見つかる危険を冒し、法文学部棟1号館の中へ。

ファルコン「広いな・・・何処だ、ハンターボックス？」

サムス「ファルコン！こっち！」

ファルコン「あつたか？」

サムスがフロアの隅に設置されたハンターボックスを発見。

サムス・ファルコン「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り9体

ファルコン「早くしねえと！あと6分くらいだぞ！」

サムス「ペース上げていかない！」

プリン「オリマーちゃん・・・遅いでしゅ・・・」

オリマーと待ち合わせをしているプリン。そのオリマーは・・・

オリマー「ハンターいる・・・！」

向かう先にハンターを見つけ、思う様に近付けないでいた。

しかし、背後からも別のハンター・・・

ピーーーーーー

そして、見つかった・・・

オリマー「ん・・・？うわっ、来た！」

一目散に逃げるオリマー。しかし、逃げた先に別のハンター・・・

オリマー「うわぁー！」

方向転換しようとして、オリマーは足を滑らせて転倒。最早、逃走不可能・・・

オリマー「うわー・・・」 ポンッ

1stステージ残り時間30分53秒 オリマー確保 残り11人

オリマー「プリンさん・・・ゴメンなさい・・・何の役にも立たなくて・・・」

活躍できずに散った・・・

プルル プルルルルル

ディディー「何だ、何だ？」

プリン「ええ〜！？オリマーしゃん捕まった〜！どうすればいいんでしゅか〜！？」

オリマーが確保され、パニックになる風船ポケモン。

そこへ、メタナイトがやって来た。

メタナイト「プリン・・・騒がしいぞ・・・」

プリン「あつ・・・メタナイトしゃん・・・」

メタナイト「こんな所にハンターボックス・・・プリン、そっちのレバーを」

プリン「は・・・はいでしゅ・・・」

プリン・メタナイト「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り8体

メタナイト「ここからは2人で行動だ・・・決して離れるんじゃない

いぞ」

プリン「はいでしゅ……」

ハンター放出まで 5分

その間、マリオとルイージが理学部棟3号館の無機化学実験室前のハンターボックスを発見。

マリオ・ルイージ「せーの……」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り7体

サ姆斯・ファルコンも法文学部棟2号館のエレベータ前に設置されたハンターボックスを発見。

サ姆斯・ファルコン「せーの……」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り6体

サ姆斯「あれハンターじゃない？」

サ姆斯がこちらに向かって歩いてくるハンターを発見。

ファルコン「ホントだ……中に入ってきてそうだな……大回りして3号館に行くか……」

サムス「それしか無さそうね・・・」

2人は2号館から出て、建物の影を利用して3号館を目指す。

ハンター放出まで 4分30秒

現在、封印されていないハンターボックスは6つ。

このままでは6体のハンターが放出され、合計13体となってしまう。

果たして逃走者は、残るハンターボックスを封印する事が出来るのか！？

再びハンター放出阻止へ！（後書き）

夏休みに入ったら入ったで、アルバイトしないとな〜・・・

その前に実家に帰省しなきゃいけないし、ましてやダイエットも・・・
・（え？）

ミッション2終了！（前書き）

残る逃走者は、ウォッチ・マリオ・ルイーダ・ディディー・サムス・ゼルダ・ナナ・ファルコン・プリン・メタナイト・リュカの11人

何人が2ndステージに進めるのか！？

ミッション2終了！

ナナ「リュカ、走ってよ」

リュカ「ハンターと鉢合わせになるのヤダよ・・・？」

一緒に行動する、エスキモーの少女と超能力を使う少年。

リュカ「・・・わっ！」

ナナ「何！？」

2人の目の前に、黒い人影が・・・

ゼルダ「何でそんなに驚くの？」

ゼルダだ・・・

ナナ「吃驚^{びっくり}した・・・リュカ、あんまり大声出さないでよ」

リュカ「だって、怖いもんは怖いんだもん。仕方ないじゃん・・・」

ナナ「あつ、そうだ。ゼルダ、教育学部棟の方行かない？多分そこがまだ封印出来てないと思うんだけど・・・」

ゼルダ「奇遇ね。私もそう思ってたところ」

ナナ「ホントに？じゃあ、行きましょう」

ハンター放出まで 4分

リュカ「じゃあ2人とも、頑張つて・・・」

ゼルダ「え・・・？」

ナナ「ちょ・・・一寸リュカ・・・！行っちゃった・・・」

2人にミッションを任せ、リュカは立ち去ってしまった。

ナナ「全くリュカ^{まった}たら・・・！」

ゼルダ「しょうがないわね。時間無いし、行きましょう」

ナナ「う・・・うん・・・」

2人は教育学部を目指す。

一方、2人に託したリュカは・・・

リュカ「ゼルダが来てくれて良かったよ・・・嫌だもん、そんな・・・折角^{せうかく}ここまで生きてきたのに、パーになるの・・・」

ミッションには動きたくない様だ・・・

しかし、彼が向かう先にハンター・・・

リュカ「とりあえず、隠れ場所を探さないと・・・この先は・・・付属中学校が見える道だね・・・ここ行こう・・・え・・・？わああゝ！」

見つかった・・・

リュカ「ヤダ！嫌だ！やあゝ！」

絶叫に近い悲鳴を上げながら、一目散に逃げるリュカ。しかし、その差は縮まっていく一方。最早、逃走不可能・・・

リュカ「いやゝっ！」 ポンツ

1stステージ残り時間28分18秒 リュカ確保 残り10人

リュカ「そりゃ無いよゝ・・・！」

自業自得だ・・・

その頃、マリオとルイージが理学部棟4号館の大演習室前のハンターボックスを発見。

マリオ・ルイージ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り5体

ルイージ「これで、理学部棟のボックスは全部封印したね」

マリオ「何回かハンターに見つかりそうだったけど・・・良かった」

ハンター放出まで 3分

プリンとメタナイトも教育学部棟3号館のパソコン演習室前に設置されたハンターボックスを発見。

プリン・メタナイト「セーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り4体

プリン「メタナイトちゃん、あと3分切ってましゅよ?」

メタナイト「急ごう!」

プリン「はいでしゅ」

サムスとファルコンは、漸く法文学部3号館^{みんがくぶ}に到着。

サムス「ここ・・・今まで以上に広い・・・!」

ファルコン「探すの大変だな・・・」

2人は手分けして、ハンターボックスを探す。

ウォッチ「誰も動イテイナインデシヨウカ?」

理学部棟駐車場に身を隠し続ける、黒い2次元。

ハンター放出まで 2分30秒

ウォッチ「残り27分30秒デ13万5千円・・・！コレ、自首モアリデスカネ？」

南門か東門に掛かっているダイヤルキーを外して門を開け、エリア外へ脱出すれば、その時点までの賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

ウォッチ「13万アレバ、何カ買エルジャナイデスカ？」

ウォッチが自首に心が揺れる中、プリンとメタナイトが教育学部棟4号館の研究室前に設置されたハンターボックスを発見。

プリン・メタナイト「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り3体

メタナイト「・・・！ハンター来たぞ！」

プリン「ひゃー！」

4号館内に入って来たハンターに見つかった・・・

ピーーーーーー

ハンターの視界には・・・メタナイト・・・

メタナイト「来た・・・！こっち来た！」

一目散に逃げるメタナイト。何度も曲がり角を利用して建物から去り、近くにあつた茂みに身を隠す。

ハンターはメタナイトを見失つた様だ・・・

ハンター放出まで 2分

メタナイト「危なかった・・・！しかし・・・プリンは大丈夫なのだろうか・・・？」

ハンターからの追跡を逃れた風船ポケモン。

プリン「私の場所に戻らないと・・・！私の場所に・・・！」

自分の事で精一杯の様だ・・・

その頃、サムスとファルコンは、漸く法文学部3号館（よ）の展示物の前に設置されたハンターボックスを発見。

サムス・ファルコン「セーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り2体

ファルコン「あとは4号館だけだな」

サムス「ファルコン、あと1分半ぐらいしか無いわ！」

ファルコン「マジか！？よしっ！急ぐぞ！」

サムス「ええ！」

メタナイト「あれ・・・？」

何かを思い出した仮面の騎士。

ハンター放出まで 1分30秒

メタナイト「確か・・・最初にプリンと会ったのは2号館で・・・そこから3号館と4号館に・・・あっ・・・！1号館の事をすっかり忘れていた・・・！不味い・・・！もう1回プリンを呼ばないと・・・！」

メタナイトはプリンに電話を掛ける。しかし、当の本人は・・・

プリン「私の場所・・・！何処でしゅか、私の場所・・・！」

着信音が、全く耳に入っていない・・・

メタナイト「プリン・・・！どうしたんだ・・・？電話に出ないという事は、追われてるのか・・・？」

違う・・・

メタナイト「こうなったら・・・せめて自分だけでも1号館に・・・うっ・・・ダメだ・・・ハンターが・・・」

遠くにハンターを見つけ、思う様に動けない。

メタナイト「どうするんだ・・・？このままじゃ、また増えてしま
う・・・！」

焦りが混乱を呼ぶ・・・

ハンター放出まで 1分

このままでは、ハンターが2体増え、合計9体となってしまう。間
に合うのか。

サムスとファルコンは、法文学部4号館の階段近くに設置されてい
るハンターボックスを発見。

サムス・ファルコン「セーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 残り1体

ファルコン「これで法文学部棟のハンターボックスは、全部封印出
来たな」

サムス「でも、他の建物はどうなのかしら？」

メタナイト「くそ・・・！やはり諦めるしかないのか・・・？」

絶望に浸るメタナイト。しかし、その教育学部棟1号館では・・・

ナナ「ゼルダ、そっちは？」

ゼルダ「まだ見つからない・・・！」

ナナとゼルダがハンターボックスを探していた。

ハンター放出まで 30秒

ナナ「どうしよう？あと30秒切ったよ？」

ゼルダ「諦めちゃダメ！何としても見つけないと！」

ナナ「う・・・うん！」

必死に探す2人。間に合うのか。

ハンター放出まで 20秒

ゼルダ「あつた！」

ナナ「えっ？何処？」

ゼルダが掲示板前のハンターボックスを発見。

ゼルダ「こつち、こつち！早く！」

ハンター放出まで 10秒

ナナ「あっ！これか！」

ゼルダ「そつちお願い！」

ナナ「OK!」

ハンター放出まで 5秒

ナナ・ゼルダ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター封印 ミッションクリア

ゼルダ「よしっ・・・!封印・・・!」

ナナ「ギリギリ・・・危なかった・・・!」

プルル プルルルルル

デイディー「もうっ・・・うるさいな。何だよ?」

スネーク「『ミッション?結果 ミッション成功。全てのハンターボックスは封印された』!」

ドンキー「おー!」

ポポ「良かった〜!」

ヨッシー「嬉しいです〜!」

北エリアの逃走者達も、この結果に大喜び。

マリオ「よっしゃ・・・！ミッション成功だ・・・！」

ルイージ「良かった・・・これ以上増えたら堪^{たま}ったもんじゃないもんね・・・！」

サムス「これで一先^{ひと}ず安心ね」

ウォッチ「モウ一寸頑張^{ちよつと}ッテミマシヨウ・・・」

残る逃走者は10人。対するハンターは7体。

そして・・・図書館内には、無数のハンターが仕掛けられている・・・

逃走者達を待ち受ける運命とは！？

ミッション2終了！（後書き）

夏休みに、父親の許でアルバイト& a m p・ダイエットをする事になった私・・・

夏休みに入ったら、更新が滞^{おそ}るかも・・・

大学生の夏休みも、決して楽ではないのです（泣）

ミッション3発動！（前書き）

1stステージも残り半分を切った。

逃走者は、無事逃げ切る事が出来るのか！？

ミッション3発動！

ウォッチ「コレカラノミッションモ、誰カヤツテクレマスヨ」

ミッションを邪道としか捉えていないウォッチ。彼は25分間以上、理学部棟駐車場から殆ど動いていない。

ウォッチ「ハンターモ7体二増エテマスシ・・・動イタラ、マズ間違イナク捕マリマスネ」

デイディー「行かない方がいいよね、ミッション。絶対見つかるもん」

こちらも、ミッションには後ろ向きなチンパンジー。彼はエリアを彷徨っているが、今のところハンターには遭遇していない。

デイディー「ただの鬼ごっこなのに、何でミッションなんて物があるのか、こっちが聞きたいよ」

一方、漸く『私の場所』に辿り着いたプリン。長椅子の下に再び隠れる。

プリン「これで暫くは安心でしゅね・・・もう・・・疲れた・・・」

先程のミッションで、かなりの体力を消耗してしまった様だ。最後まで体力は持つのか。

ファルコン「おっ・・・マリオじゃねえか」

マリオ「ファルコン・・・」

マリオとファルコンが合流。

ファルコン「そっちハンターいたか？」

マリオ「こっちはいなかったけど・・・そっちはどうだ？」

ファルコン「こっちは数体いたよ・・・でも、残り23分ぐらいだし・・・絶対逃げ切ってやろうな」

マリオ「当たり前だ。ここまで生き延びて、今更捕まる訳には・・・」

ファルコン「おい！来たぞ、ハンター！」

マリオ「マジかよ!？」

見つかった・・・逃走者に安息の時間など存在しない・・・

別方向に逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーーー

マリオ「うおーい！こっちかよー!？」

マリオだ・・・

マリオ「ヤバい！マジでヤバい！」

一目散に逃げるマリオ。しかし、ハンターにその距離を詰められていく。最早、逃走不可能・・・

マリオ「あぁっ！」 ポンッ

1stステージ残り時間23分1秒 マリオ確保 残り9人

マリオ「最悪・・・！マジでっ？」

ファルコン「危ねえ・・・！やっぱ不味いよな、ハンター7体は・・・！」

ファルコンは、上手く逃げ延びた様だ。

プルル プルルルルル

サムス「何もう・・・！突然鳴るんじゃないわよ、この携帯・・・！メール・・・？」

ゼルダ「『中央会館付近にてマリオ確保』・・・」

ルイーダ「ええっ！？兄さん捕まったっ！」

ファルコン「『残り9人』・・・うわぁ・・・マリオ捕まったのか・・・！悪い・・・ガノンに続きマリオまで・・・俺最低だな・・・他人を犠牲にして生き延びて・・・そんなんばっかりだ・・・」

メタナイト「ここにいれば、何処からハンターが来ても逃げ切れるな・・・！」

留学生センターの前で、ハンターを警戒する仮面の騎士。

そこへハンター・・・

メタナイト「あの人影は・・・？黒のスーツという事は・・・ハンターだ・・・！」

見つかった・・・

メタナイト「この脇道を使うか・・・！」

脇道を使って一目散に逃げるメタナイト。しかし、その逃げた先は・・・

メタナイト「うわぁー！何だこれは！？行き止まりか！？最悪だ！」

行き止まりに逃げ込んでしまった仮面の騎士。最早、逃走不可能・・・

メタナイト「許してくれ！ほら、仮面やるから！」 ポンッ

1stステージ残り時間21分15秒 メタナイト確保 残り8人

メタナイト「許してくれ・・・！」

ウォッチ「エ？マタ確保情報デス力？」

ナナ「『留学生センター付近にてメタナイト確保』・・・」

プリン「メタナイトじゃん・・・！捕まっちゃったんでしゅか・・・

！？ええゝ・・・？」

残る逃走者は、ウォッチ・ルイージ・デイディー・サムス・ゼルダ・ナナ・ファルコン・プリンの8人。

ルイージ「早く朝来ないかなゝ・・・？トラウマになりそうだよ、この暗闇が・・・」

ブルル　ブルルルルル

ルイージ「あつ・・・何か来た」

メールだ・・・

ファルコン「来た・・・！ミッション3」

ゼルダ「これより、図書館を進入可能とする」・・・」

サムス「『君達が持っている栞しおりに書かれているジャンルの本を』・・・」

ナナ「『エリア内の学部棟内から探し出し栞しおりを挟んで、残り5分までに』・・・」

デイディー「『図書館内の指定された本棚に返却しなければ強制失格となる。急ぎたまえ！』ってええー！？」

ルイージ「栞しおりって・・・これの事？『郷土』って書いてある・・・」

ウォッチ「『法律』ト書カレテマス・・・」

プリン「何でしゅか、これ？『国際』ってどういう事でしゅか？」

MISSION？ 指定本を図書館に返却せよ！

これより図書館の中が進入可能となる。逃走者は、エリア内の学部棟内からそれぞれが持つ栞しおに書かれたジャンルの本を見つけ出し、その本に栞しおを挟み、残り5分までに指定された本棚に返却できなければ強制失格。

ウォッチ「一寸待ッテ下サイヨ！強制失格トイウ事ハ、絶対動力ナキヤイケナイジャナイデスカ！？酷過ギマスゝ・・・！」

デイデー「嘘ゝ！これやらなかったら、オイラダメになっちゃうって事！？ええゝ！？」

ミッションを他人任せにしていた2人。逃走中を甘く見ていた罰だ・

ファルコン「探すって言っても、何処にあるのか分からねえんだろ？」

そう・・・各々（おのおの）の逃走者が探すべき本は、エリア内の何処に置かれているか分からない。

プリン「動かないといけないんでしゅね？強制失格になんかなってられましえん！」

隠れていたプリンも動き出す。

逃走者が持っている^{しおり}栞に書かれている言葉は次の通り。

ウォッチ「法律」・ルイージ「郷土」・ディディー「自然」・サム
ス「地学」・ゼルダ「実験書」・ナナ「数学」・ファルコン「仏語」
・プリン「国際」

強制失格まで、およそ14分。

残る逃走者に迫る強制失格の恐怖！

ミッション3発動！（後書き）

図書館内に仕掛けられた無数のハンターの意味は！？

それは次回明らかとなるだろう！

栞と本と図書館とハンター（前書き）

図書館に仕掛けられたハンターの謎が明らかに！

栞と本と図書館とハンター

逃走者は残り5分までに、それぞれが持つ栞しおりに書かれたジャンルの本を見つけ出し、図書館内の指定された本棚に返却できなければ強制失格となる。

ファルコン「フランス語と言う事は・・・多分、法文学部棟だろうな」

ゼルダ「実験書って、殆どある場所の答え言ってるじゃない。理学部棟ね」

ルイーダ「郷土って何処だろう？とりあえず、教育学部棟から探してみるかな？」

続々と本を探し始める逃走者達。

しかし、探すには動くしかない。動けばハンターに見つかる危険が高まる。

ウォッチ「法文学部棟って、ズット向コウジャンイデスカ・・・コレハ相当ナリスクデス・・・」

デイディー「自然ってだけじゃ分かんないよ・・・教育学部棟なのか、理学部棟なのか」

嫌々にミッションを行う、2次元とチンパンジー。

プリン「国際という事は、恐らく法文学部棟でしゅね。でも間に合

うかな？間に合わないみたいだったら、自首するしか無いでしゅね」

教育学部棟の中を通りながら、法文学部棟を目指す風船ポケモン。

サムス「地学ね〜・・・とりあえず、理学部棟から調べてみましょうかね？」

地学関連の本を探しに、理学部棟へと向かうバウンティハンター。

郷土の本を探しに、教育学部棟へやって来たルイージ。

ルイージ「あつ・・・！ハンターいた・・・！ハンターいた・・・！怖い・・・！」

建物の中に入ると、曲がり角の陰からハンターを見つけた。彼はすぐさま建物を出て、階段の陰に隠れる。

ルイージ「ハンターいるじゃん・・・！」

ハンターを目撃し、思う様に探せない。

ウォッチ「コレハシンドイ・・・！」

周囲を警戒し、暗闇に溶け込みながら移動するウォッチ。

ウォッチ「ハンター来ナイデクダサイ・・・！冗談抜きデ・・・！」

ナナ「数学・・・！何処？数学の本ってどんな本？」

教育学部棟で数学関連の本を探す、エスキモーの少女。

しかし、曲がり角の先からハンター・・・

ナナ「3号館と4号館は無かったし・・・あと1号館と2号館だけ・・・まさか、教育学部棟には無いって事は・・・って来たー！」

本を見つける前に、ハンターを見つけてしまった・・・

ナナ「ヤダー！来ないでー！」

一目散に逃げるナナ。しかし、その距離が縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

ナナ「やゝ！」 ポンツ

1stステージ残り時間16分54秒 ナナ確保 残り7人

ナナ「ああゝ・・・何で？」

体力も運も尽きた・・・

ゼルダ「実験書、実験書・・・」

理学部棟1号館内を探している姫。

ゼルダ「無いみたいね・・・」

ファルコン「フランス語・・・どれだ、フランス語？」

法文学部棟1号館を探しているレーサー。

ファルコン「流石に1号館には置かれてないか……英語だった
らあったのにな……」

下らない独り言を言っている間も、制限時間は減っていく。

ウォッチ「モウ……イツニナッタラ、法文学部棟二辿り着クンデ
ス力……?」

まだ法文学部棟まで、かなりの距離を残すウォッチ。

ウォッチ「早くシナイト……時間が無クナルトイウノ……建
物八見エテモ……距離ガアリ過ギデス……!」

ゲームの間、殆ど動いていないのが災いしたのか、体力の限界を感
じている様だ。

サムス「地学の本、何処いるの?」

地学の本を探しに、理学部棟1号館を探すサムス。

サムス「あつ、あった。これに、この槩しあひを挟むのね」

地学本 獲得

これを図書館内の指定されて本棚に返却すれば、強制失格を免れる。

ファルコン「おつ、あったぞ!」

ファルコンもお目当ての本を見つけた様だ。

仏語本 獲得

ファルコン「よしっ、急げ！」

ディディー「何処だよ、自然の本……」

まだ自分が探すべき本を見つけないでいるディディー。

ディディー「大体、教育学部棟で合ってるのかな？もう全然分かんない、何処行ったらいいのか……」

すっかりパニック状態に陥っている。

ディディー「もう全然見つからないじゃん……！どうしよう？やっぱり理学部棟なのかな？そっち行ってみ……え……？」

建物から出ようとして、近くを通り掛かったハンターと目が合い、その場に立ち往生。最早、逃走不可能……

ディディー「……」 ポンッ

1stステージ残り時間14分27秒 ディディーコング確保
残り6人

ディディー「悔しい……！一寸待^{ちよつと}って、何これ！？こんな呆^{あっけ}気なく終わるのってアリ！？ハンターと3秒くらい目が合^あって……そのまま何の抵抗も無く捕まるって……そんな事、この逃走中であつていいの！？最悪過ぎる……！」

ゼルダ「あつた！」

その間に、ゼルダが目的の本を発見。

実験書本 獲得

ゼルダ「これで、図書館に返せばいいのね？」

その頃、漸くサムスが図書館に到着。しかし・・・

サムス「え・・・？ハンターが図書館の中に入って行くじゃない・・・！嘘でしょ・・・？」

ハンターは進入可能な建物内も搜索する。図書館も例外ではない。

サムス「どうしましょう・・・？強行突破するべきか、ハンターが出て来るまで待つべきか・・・」

そこへ、ファルコンが通り掛かる。

ファルコン「おお、サムス。どうした、図書館の前で悩んじゃって・・・」

サムス「ハンター1体が図書館の中に入って行ったのよ。だから、このまま中に入って本棚を探し回ってたら、ハンターの格好の標的になるし・・・かと言って、ずっとここでハンターが出て来るのを待っていれば、エリアを彷徨^{さまよ}ってるハンターに見つかるし・・・」

ファルコン「何だよ、そんな事か。そんな小さな事でウジウジすんな。ミッションやるには、それなりのリスクを冒さなきゃいけない

事は、お前も十分承知だろ？」

サマス「それはそうだけど・・・」

ファルコン「俺は入る！何と言われようと入る！」

サマス「あんたがそう言うのなら、私も入るしかないわね」

2人は危険を顧みず、図書館の中へ。

プリン「あつたでしゅ！」

プリンも探すべき本を発見。

国際本 獲得

プリン「急がないと！あと7分半しかないでしゅ！」

ウォッチ「ヤット・・・着キマシタ・・・」

ウォッチは、漸く法文学部棟前にやって来た。

ウォッチ「モウダメデス・・・足ガ動キマセン・・・デモ・・・強制失格ニナラナイ為ニモ・・・諦メラレマセン・・・！」

氣力を振り絞り、法律関連の本を探す。

ルイージ「ええ？何処だよ、郷土の本・・・！？」

まだ、郷土関連の本を見つけれないでいるルイージ。

ルイージ「見過ごしたのかな？もう1回見て来よう」

教育学部棟全てを回ったが見つからず、再び探す事に。

一方、サムスとファルコンは、図書館内の案内表示に書かれている指定場所に向かっていた。

ファルコン「この筈なんだけどな・・・フランス語の本が並べられてるのは・・・」

サムス「地学の本棚・・・あつ、ここね」

ファルコン「おつ、見つけた。ここか」

2人は本を返却する。

サムス・ファルコン ミッションクリア

ファルコン「よしっ・・・！とりあえず出るか・・・」

サムス「ここにいても危険だし・・・やる事は済んだし・・・さつさと出ましょう」

2人は図書館を去る。

プリン「もう・・・図書館が遠いでしゅ・・・！」

ゼルダ「やっと着いた・・・」

ルイージ「あれ〜？やっぱり違うのかな〜？」

ウオッチ「何処デスカ〜？」

ゼルダは図書館に到着し、プリンは図書館に向かっている。ルイージとウオッチは、まだ自分の本を見つけれられていない。

その時・・・

ブルル　ブルルルルル

プリン「あつ、メールでしゅ・・・確保情報でしゅか・・・？えっ・・・？通達１・・・？」

ウオッチ「『残り5分になると図書館が閉鎖され、中に書庫から24体のハンターを放出する』・・・エエ〜！？」

ルイージ「ええ〜！？嘘でしょ！？ギリギリで返したとしても、安心出来ないって事！？」

サムス「『それと同時に、エリア内の建物全てを立ち入り禁止となる』・・・これはきつい・・・！」

ファルコン「マジで・・・！？となると、残り5分で逃げ道が殆ど無くなるな・・・！」

ミッション終了と同時に、図書館の出入口が閉鎖される。その直後、図書館の書庫から24体のハンターが解き放たれる。図書館内に残っていたら、最後まで逃げ切るのは粗不可能となる。また、ゲーム残り5分にエリア内の学部棟全てが進入不可能となる。

ウォッチ「アト5分ジャナイデスカ！？」

ルイージ「いくらなんでも酷過ぎる！」

2人は当然パニック状態に。

プリン「急がないと・・・24体はきつ過ぎましゅ！」

ゼルダ「早く戻さないと！」

この2人も焦りを隠せない。

サムス「酷い話・・・！もう建物に潜む事も出来ないなんて・・・！」

ファルコン「最後の追い込みって奴か、これが・・・！？」

既にミッションをクリアした2人も不安を露にする。

1stステージ残りおよそ10分。

生き残れるのか！？

栞と本と図書館とハンター（後書き）

次回、1stステージが終了！

2ndステージ行きの切符を手にするのは誰だ！？

1stステージ終了！（前書き）

ずっと続いていたテスト地獄も、たった今終了しました

ここから、一気にスパート掛けて上げていききたいと思います！

残る逃走者は、ウォッチ・ルイージ・サムス・ゼルダ・ファルコン・
プリンの6人

このまま1stステージを逃げ切れるのか！？

1stステージ終了！

現在本を返せていないのは、ウォッチ・ルイージ・ゼルダ・プリン
の4人。このままでは、およそ4分で強制失格となってしまう。

しかし、図書館の書庫の中には24体のハンター。ミッション終了
と同時に、図書館内に解放たれてしまう。更に、エリア内の建物
の中にも進入できなくなる。

ウォッチ「ドウシマシヨウ・・・！？全然見ツカリマセン・・・！」

ルイージ「ヤバい・・・！時間が・・・！時間が無くなる・・・
」

未だに目当ての本を見つけれられない、黒い2次元と配管工の双子の
弟。

プリン「やつと・・・やつと見えたでしゅ・・・！図書館・・・」

漸く^{ちゆうす}図書館に辿り着いたプリン。

プリン「中にハンターいるかも知れましえんけど・・・腹を括^くつて
行くしか無いでしゅ・・・！」

意を決して図書館内に進入。

ゼルダ「ハンターいた・・・！嘘・・・？図書館の中にまでいるの
・・・？」

階段を下っているハンターを発見した姫。

ゼルダ「兎に角・・・強制失格と24体だけは避けたい・・・！何処・・・？」

ウォッチ「アリマシタ！アリマシタ・・・ケド・・・何故ヨリニヨッテ『六法全書』5冊ナンデスカ？」

ウォッチ、探していた本を発見。

法律本 獲得

ウォッチ「オ・・・重過ギマス・・・！コレヲ図書館マデ・・・！？間二合イマセンヨ、多分・・・！」

ミッションの過酷さが、彼をネガティブにしてしまう・・・

強制失格まで 4分

一方ルイージは、手掛かり無しで郷土の本を探し回っている。

ルイージ「何処にも無い！誰か！一緒に探して！誰か助けてよー！」

このミッションは己おのれとの戦い。助けてくれる者など存在しない・・・

ゼルダ「あった・・・！ここね・・・！」

ゼルダは本を返却する。

ゼルダ ミッションクリア

ゼルダ「よしっ……！後はここを出るだけ……でもさっきハンターいたから……どうやって出るか……」

ウォッチ「ツ……辛過ぎマス……！コレデハンター二見ツカタラ……間違イナク捕マリマスネ……」

重い六法全書を抱えて歩き続けるウォッチ。ハンターに見つかれば、その本は手放すしかない。

ウォッチ「コ……コンナ重イ物ヲ持ツテ、長距離ヲ歩クノハ……初メテデス……モウ……両足ニ乳酸ガ溜マツテシマツテルカモシレマセンネ、コレ……」

かなり重労働の様だ……

強制失格まで 3分

プリン「何処でしゅか、この本が置かれていた本棚は？何処でしゅか？」

閲覧室を右往左往する風船ポケモン。

プリン「何処でしゅ……あっ！あつたでしゅ！」

プリンは本を返却する。

プリン ミッションクリア

プリン「見つかって良かったでしゅ」

これで本を返せていないのは、ウォッチとルイージの2人だけ。

強制失格まで　2分30秒

ゼルダ「やつと出れた・・・！」

その間に、ゼルダは図書館を脱出。

ウォッチ「アッ・・・ゼルダサン・・・」

ゼルダ「ウォッチ・・・？何それ！？すごい重そうじゃない！」

ウォッチ「モウ・・・尋常ジャナイデスヨ、コノ重サハ・・・」

ゼルダ「見る限り、それ全部六法全書ね？」

ウォッチ「ソウナンデスヨ・・・」

ゼルダ「法律関係の本棚は、入ってすぐ目の前の階段を上がった左の閲覧室にあるわ。案内表示にも書いてあるから。ただ、中に1体ハンターいるから、それだけ気を付けて」

ウォッチ「有難ウ御座イマス・・・助力リマシタ・・・」

ゼルダ「じゃあ、頑張つて」

ウォッチ「ハイ・・・」

2人は別れる。

ウォッチ「ゼルダサン・・・優シイデスネ・・・ハンターガイル
事マデ教エテクレテ・・・恩ニ着マス・・・！」

強制失格まで　2分

ルイージ「あつた！やつとあつたよ・・・！ヤバい！あと2分切つ
てる！急げ！強制失格になんかなりたくない！」

やつとの思いで目当ての本を見つけたルイージ。

郷土本　獲得

ウォッチはゼルダの助言を頼りに本棚を目指す。一方ルイージは、
今から図書館へ向かわなければならない。

ウォッチ「落トサナイ様二・・・慎重二・・・焦ッテ落トシテ、片
付ケテル間ニ見ツカタラ最悪デス・・・！」

早歩きをしながらも、積み上げた六法全書を落とさない様に、用心
深く動くウォッチ。

ウォッチ「コノ階段・・・何デモナイ筈^{はず}ナノ二・・・結構キツク感
ジラレマス・・・！」

ルイージ「ハンターいるじゃん・・・！ヤバい・・・！相当遠回り
しないと・・・！」

遠くにハンターを見つけ、遠回りを強いられるルイージ。

ルイージ「どうすんだよう！あと1分ぐらいしか無いじゃん！」

ウォッチ「ココデスネ・・・」

ゼルダに教えてもらった閲覧室に辿り着いた2次元。目的の本棚を探す。

強制失格まで 1分

ルイージ「着いた！やつとだ！何処だ！？郷土の本棚何処！？」

ウォッチ「何処デスカ？法律関連ノ本棚・・・！」

焦る2人。間に合うのか。

ウォッチ「アリマシタ！」

最初に見つけたのはウォッチ。彼は1冊ずつ本を返却する。

ウォッチ「3・・・4・・・5！全部返シマシタ！」

ウォッチ ミッションクリア

強制失格まで 30秒

ウォッチ「時間無イデス・・・！一刻も早く脱出シナケレバ・・・！」

ルイージ「何処だよー！？」

強制失格まで 20秒

ルイージ「もう・・・何処なんだ・・・あつ、あつた!」

郷土関連の本棚を見つけ、ルイージは本を返却する。

ルイージ ミッションクリア

ルイージ「不味い!早く脱出しないと!」

図書館閉鎖まで 10秒

ウォッチ「間二合工!」

ルイージ「間に合え!」

図書館閉鎖まで 5秒

出入口に現われたのは・・・

ウォッチ「ソノ扉、マダ閉メチャダメデス!」

ウォッチだ・・・

ウォッチ「ワァー!」

ギリギリで図書館を脱出。そのまま彼は転がる様に、図書館の許を
去っていく。最早、ハンターに見つかる事などお構い無しの様だ・・・

そして・・・図書館が閉鎖・・・取り残された・・・

ルイージ「ヤバイ・・・！今ガチャンって音したよね・・・？まさか閉まっちゃった・・・？」

ルイージ・・・

更に、書庫内から24体のハンターが続々と解き放たれていく・・・

ルイージ「嘘・・・！？ドドドドドって音も・・・！これ、24体のハンターだね・・・？どうしよう・・・？隠れるしか無いよね・・・？」

ルイージは、閲覧室内の机の下に隠れる。

しかし・・・24体のうち6体のハンターが、ルイージが潜む閲覧室に入ってきた・・・

ルイージ「ヤバ過ぎる・・・！もうダメだ・・・！確実に見つかる・・・！」

ハンターの恐怖に慄き、机の下でガタガタと震えている・・・

ハンターは椅子を退かして、机の下を探し始める・・・

そして・・・

ルイージ「うわぁー！」

見つかった・・・

ルイージ「来るなー！」

一目散に逃げるルイージ。しかし、ルイージの絶叫に近い悲鳴を聞き、近くのハンターが続々と確保に向かう。

ルイージ「だから来るなってばー！」

遂にルイージは、全てのハンターによって、階段の踊り場に追い詰められてしまった。最早、逃走不可能・・・

ルイージ「いやだ〜！」 ポンッ

1stステージ残り時間4分2秒 ルイージ確保 残り5人

ルイージ「やめてくれ〜！」

哀愁漂^{あじしゆう}う彼の姿は、黒い波の中へ消えていった・・・

牢獄

レッド「あつ。『図書館内にてルイージ確保』だって」

ピット「あ〜・・・」

ガノンドロフ「図書館から脱出できなかったのか・・・」

ワリオ「これで、このエリアの俺様達の世界の者達は全滅してしま

ったな・・・」

ピット「でも、あと5人も残ってるよ？7体相手にしている割には、結構な数だよ？」

レッド「全員残るかな？」

1stステージ終了まで 3分

ファルコン「あと3分切った・・・！もうハンター来るな・・・！」

サムス「これ行けるかもしれないわ・・・！」

プリン「建物内に入れないのが辛いでしゅ・・・何処かに隠れないと・・・」

新たな隠れ場所を探すプリン。

ウォッチ「モウココニイマシヨウ・・・」

理学部棟駐車場に身を潜めるウォッチ。ここは彼のお気に入りだ。

ゼルダ「もう少し・・・もう誰も捕まらないで・・・！そしてハンター来ないで・・・！お願い、お願い、お願い・・・！」

逃走者5人に対し、ハンターは7体。このまま、逃げ切る事が出来るのか！？

ウォッチ「ハンターイタ・・・！」

ウォッチの目の前をハンターが通り過ぎていく。これまで、さいさんさ再三再四いし暗闇に助けられている。今回も助けられた様だ。

ウォッチ「目立たナイトイウノモ、捨テタモンジャアリマセンネ・・
・！」

1stステージ終了まで 2分

その頃、生協前のスロープの陰に隠れるプリン。

プリン「もう疲れた・・・ここにいてしゅ・・・これで見つかったらアウトでしゅね・・・ハンター来ないでくだしい・・・」

ひろつこんばい疲労困憊の風船ポケモン。

しかし、彼女の近くにハンター・・・

プリン「もう賭けでしゅ・・・これで来られたら、私の運が無いって事になるでしゅ・・・」

ハンターが急接近・・・

プリン「絶対来ない筈はずでしゅ・・・やつ！やあ！」

見つかった・・・

プリン「止めてくだしい！来ないでくだしい！」

一目散に逃げるプリン。しかし、疲労が溜まっていたせいでその場に転倒。最早、逃走不可能・・・

プリン「ひゃー！」 ポンッ

1stステージ残り時間1分13秒 プリン確保 残り4人

プリン「狡^{ずる}いでしゅよ、ハンター！あんな所からひょっこり出て来るなんて！もう一寸で逃げ切れたのにー！」

赤ん坊の様に泣きじゃくる風船ポケモン・・・

ファルコン「『中央食堂付近にてプリン確保』・・・」

サムス「嘘・・・！？プリン捕まった・・・！あんなに上手く隠れるプリンが・・・！」

1stステージ終了まで 1分

ゼルダ「あと1分・・・！もう捕まりたくない・・・！1stステージくらい逃げ切りたい・・・！お願い・・・！逃げ切らせて・・・！」

ウォッチ「モウ少シデス、悲願ノ1stステージ突破マデ・・・！」

残り1分を切り、逃走者達は不安を募らせる。

サムス「ハンター追い込み掛けてきそうね・・・ここから少し離れたときましよう・・・！」

ファルコン「来そうだな、ハンター・・・あと30秒か・・・！よしっ・・・！ここ集中だ・・・！」

1stステージ終了まで 30秒

ウォッチ「アト25秒デスネ・・・早く終わってクダサイ、1stステージ・・・！」

1stステージ終了まで 20秒

ゼルダ「ん・・・？来た！ハンター来た！」

見つかった・・・

1stステージ終了まで 10秒

一目散に逃げるゼルダ。そして・・・

ゼルダ「4・・・3・・・2・・・1・・・やった〜！」

ゼルダ キャプテン・ファルコン サムス・アラン Mr.ゲーム
& amp・ウォッチ 1stステージ逃走成功 2ndステージ進出

ゼルダ「逃げ切った・・・！50分逃げた・・・！嬉しい〜！」

ファルコン「ヨッシャー！逃げ切ったぜ！しんどかった〜、50分・・・！」

サムス「でもまだ第1段階だからね・・・次こそが本番ね！気を引き締めなくちゃ！」

ウォッチ「ホントデスカ！？逃げ切りマシタカ！？ヤリマシタ〜！」

ピカチュウ「4人逃げ切った？」

スネーク「みたいだな・・・いやあ、4人ともおめでとう！」

北エリアの18人は、逃げ切った4人を拍手で称^{たた}える。

ソニック「ハンター7体の中、よく逃げ切ったな〜」

フォックス「いやあ、改めて感心するな〜」

リンク「そうですね〜」

クッパ「それはそうと、1stステージが終わったという事は？」

デデデ「ワシ達に30万円入ったぞい！」

ロボット「オ〜！」

カービィ「嬉しい！30万円も！」

1stステージを免除された18人に、賞金30万円が加算された。

1stステージ終了！（後書き）

次回から、愈々（いよいよ）北エリアの18人を加えて2ndステージが始まる！

逃走者22人の活躍に乞うご期待！

2ndステージ開始！（前書き）

逃走者22人による2ndステージの幕が切って落とされる！

90分間ハンターから逃げ切れる者は現れるのか！？

2ndステージ開始！

1stステージを逃げ切ったのは、ウォッチ・サマス・ファルコン・ゼルダの4人。

これより、北エリアの18人と共に90分間の2ndステージに挑む。そして、最後まで逃げ切れれば84万円を獲得できる。

22人の逃走者は、自分で決めたスタート地点でゲーム開始を待つ。そして、北食堂前から7体のハンターが放出され、2ndステージが始まった。

2ndステージとなる北エリアは、工学部・農学部などの建物を含み、広さは東京ドームおよそ7個分。建物内は、工学部・農学部の1～4号館の1階のみ進入可能。

ネス「いやあ、怖い・・・！こんな怖い初めてだよ・・・！」

ファルコ「空での狙撃戦より、こっちの方が全然スリルあるな・・・！」

マルス「捕まりたくない・・・！捕まったら、屈辱的だな・・・とりあえず、アイクよりは長く生きないと・・・」

アイク「怖過ぎる・・・！何これ・・・？これが見えない恐怖って奴か？」

ヨッシー「もう逃げ切る事以外は、全く眼中に無いですね。自首は

有り得ないです」

カービィ「目標は、始まる前は50万円ぐらいだけど、欲掻いて満額84万円まで。そのお金で、世界中の美味しい物いっぱい食べたい！」

賞金は1秒100円ずつ上昇。既に1ステージ分の30万円が加算されており、90分間逃げ切れれば合計84万円を獲得できる。

更に逃走者は自首も可能。北門か西門に掛かっているダイヤルキーを外して門を開け、エリア外へ脱出すれば、その時点までの賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

ソニック「Come on, Hunter. 何処からでも掛かって来い」

逃走成功の大本命のソニック・ザ・ヘッジホッグ。余裕の表情だ。

ソニック「でも怖えな〜・・・ハンターの速さってどんなものか分からねえし・・・」

自信過剰にはならないハリネズミ。

リンク「この坂道危ないな〜」

エリアの南端へと繋がる、アップダウンの激しい坂道にやって来たハイラルの勇者。

リンク「ここでハンターに出くわしたら、確実に逃げられないな〜・・・離れとくか」

クツパ「最悪だな〜・・・」

何故か暗い表情をしている亀。その理由は・・・

クツパ「吾輩の身体では、何処の建物の中にも入れん・・・これじゃ、隠れる事も出来まい・・・」

図体が大きいことが、ここにまで影響していた・・・

ドンキー「茂みに隠れとこうかな？」

初代スマツシュブラザーズでは1番の身体の大きさを誇っていた、ジャングルの王者。

ドンキー「自然の中だったら、ボクが1番得意だもんね〜」

その得意顔は、いつまで見れるのだろうか。

デデデ「建物の中は電気が点いているから、逆に危ないぞい」

独自の理論を展開する大王。

デデデ「ワシら全員派手な色の服を着ているが、暗闇だったら多少は目立たなくな・・・ん・・・？あれは・・・ハンターだぞい・・・！ハンターだぞい・・・！こっち来とるぞい・・・！」

デデデの視線の先にハンター・・・

デデデ「不味いぞい、不味いぞい・・・！」

しかし、彼が逃げた先は・・・

デデデ「あれ？行き止まりだぞい・・・こんな所は危ない。移動するぞい」

移動を試みる大王。しかし、その近くに別のハンター・・・

デデデ「こんな所に居座ってたら、ハンターの格好の標的ぞい。移動せねば・・・はあ？何でこうなるぞい！？」

見つかった・・・

デデデ「ま・・・待つぞい・・・！ワシはそこまで・・・速く走れんぞい・・・！」

息を切らしながら一目散に逃げるデデデ。

スネーク「あれデデデか・・・？ん・・・？ハンターに追われてるじゃないか・・・！こっち来てる・・・！」

近くにいたスネークも釣られて逃げる。

その間に、デデデとハンターとの距離が縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

デデデ「ぎゃー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間 8分36秒 デデデ確保 残り21人

デデデ「こ……こんな^{はず}筈じゃ無かつたんだぞい……こんな^{あつけ}呆気なく終わる筈じゃ……」

ブルル　ブルルルルル

ルカリオ「メールか……？」

フォックス「確保情報だ……！『工学部棟3号館付近にてデデデ確保、残り21人』……！早くねえか！？」

カービー「ええ！？デデデいきなり！？」

ウルフ「何してんの、あいつ！？マジで……何してんだよ、あいつ！？」

ロボット「ヤッパリ、ウォッチ二八負ケタクナイデス……！」

ウォッチと同じ様に片言を話すロボット。

ロボット「2ndステージノ人達ハ、皆1stステージノ連中トハ違ウンダゾトイウノヲ、見セテイキタイデス」

ポポ「建物が少ない分小道が多いな、このエリア……」

地図を見ながら独り言を^{つぶや}く、エスキモーの少年。

……とその時、彼の身体が突如赤色に発光し始めた……

ポポ「この小道をどう上手く使うかが、逃げ切る為の鍵になりそうだね。それにしても、深夜つてすごい恐怖に駆られ……え……」

？えっ、何これ！？何で光ってんの！？すごい目がチカチカするぐらい光ってるじゃん！」

ファルコン「何だこれ！？急に何だよ！？」

しかし、彼の身体は緑色に・・・

ヨッシー「ばれるじゃん、こんなに強く光ってたらさー！」

彼は^{だいだい}橙色に・・・

ゼルダ「背中も！？嘘でしょ！？」

彼女は青色に光っている・・・

逃走者から発せられる光の色は、確認出来るだけでも8つある。

赤色 ポポ・クツパ

青色 ウルフ・ロボット・ゼルダ

黄色 ファルコ・リンク・サムス

緑色 ソニック・カービィ・ファルコン

桃^{ピンク}色 マルス・ルカリオ

紫色 フォックス・ピカチュウ・ネス

^{だいだい}橙色 ヨッシー・スネーク

黄緑 アイク・ドンキー・ウォッチ

プルル プルルルルル

ファルコ「うるせえな！光ってる最中に鳴るんじゃないよ！何だよ！？」

メールだ・・・

マルス「えっ・・・？ミッション4・・・！」

ロボット「『君達が身に付けているのは発光ベスト』・・・サツキカラ光ッテルコレノ事デスカ？」

スネーク「『残り70分から60分までの10分間、エリア内の全ての照明が落とされる』・・・何！？」

リンク「『暗闇になれば、ハンターから逃れる事は容易ではない』・・・そりゃそうだろ・・・」

ネス「『阻止するには、エリア内の進入可能な建物の掲示板に掲示されている4桁の暗証番号を』・・・」

サムス「『君達の腕に付いている装置に入力し、発光を止めなければならぬ』・・・え？これの事、装置って？」

MISSION？ 発光を停止せよ！

逃走者が身に付けているのは発光ベスト。残り70分から60分ま

での10分間、エリア内の全ての照明が落とされてしまう。このまま身体が発光し続ければ、ハンターの格好の的となってしまう。それを阻止するには、エリア内の進入可能な建物の中にある掲示板に掲示されている8つの4桁の暗証番号のうち1つを、それぞれの腕に付けられている装置に入力し、発光を停止させなければならぬ。止められなければ、逃走者の身体はゲーム終了まで発光し続ける。

ピカチュウ「という事は、移動しなきゃいけないんだ！」

マルス「これ・・・かなりのリスクだな」

暗証番号の確認の為に動けば、ハンターに遭遇する危険が高まる。

また、深夜のエリアの中で光っている為、その姿はよく目立つ。光ったまま移動するのは、更なるリスクを伴う事になる。

果たして、逃走者達は発光を止める事が出来るのか!?

2ndステージ開始！（後書き）

なかなかアイデアって出てこないもんなんですね・・・（泣）

誰か、オリジナリティのあるミッションを考え出す為の秘訣を教えてください。

宜しくお願いします！

発行停止へ！（前書き）

i k k iさん・ジエッペルスさん・さきぽんさん、そしていつも感想をくれるワーグナーさん、感想本当に有難う御座います

これを糧^{かて}にして、頑張^かって参ります！

発光を始めた逃走者達。その運命は！？

発行停止へ！

ウォッチ「コレジャア、折角ノ『闇夜ニ溶ケ込ム作戦』ガ出来ナイ
ジヤナイデスカ・・・」

ドンキー「あっちこっち光ってる・・・隠れてる意味無いじゃん・
・！」

発光している逃走者の身体。残り70分になると、エリア内全ての
照明が落とされ、その姿は一段と目立ってしまう。

それを防ぐ為に逃走者達は、エリア内の進入可能な建物の中の掲示
板に掲示されている4桁の暗証番号を、腕に付けられた装置に入力
しなければならない。

カービィ「あつ・・・工学部棟2号館、そこじゃん・・・」

偶然、工学部棟2号館の近くにいたピンク玉。

カービィ「あつ・・・！ハンターいた・・・！」

工学部棟1号館付近にハンターを見つけ、すぐさま2号館の中へ。

カービィ「掲示板、掲示板・・・あつた・・・！えつと・・・07
05・・・」

カービィは暗証番号を入力する。しかし・・・

カービィ「あれ？発光止まんないよ？何で！？暗証番号入れたのに

！？間違つても無いのに！？」

発光している色は逃走者により異なる。その為、その色に合った正しい暗証番号を入れなければ、発光を止める事は出来ない。どの建物の暗証番号がどの色と繋がっているのかは、暗証番号を入力するまで分からない。

カービィ「緑はこれじゃないの？ええ？また移動しないと・・・！」

再び移動を始めるカービィ。

アイク「くそ・・・！ハンターが多過ぎて移動できない・・・！でも、このままずっとここにいても目立つし・・・」

小道の藪やぶの中に身を隠すビビリな青年。

アイク「ハンターいなくなるまで、一寸待つかちよつとな・・・？」

ウルフ「この中にある筈はずだが・・・」

農学部棟3号館にやって来たウルフ。

ウルフ「おつ、これが・・・！1205・・・」

ウルフは暗証番号を入力する。

ウルフ「ん？止まんないぞ？これじゃねえのか？くそ・・・」

悔しさを滲ませながら建物を去る。

リンク「ヤバイ・・・！ウロウロしてたら、確実に見つかる・・・！」

地図を頼りに、近くの建物を目指すリンク。

しかし、向かう先にハンター・・・

リンク「黄色って1番目立つ色なんだよ・・・！早めに解除しねえと・・・！あ・・・？マジかよ！？」

見つかった・・・

リンク「ヤベエ！」

一目散に逃げるリンク。しかし・・・

リンク「ウワッ！こっちからも来た！」

前からも別のハンター・・・2体に挟まれた・・・

リンク「来てる・・・！何だよ、これ！？」

逃げ続けるリンク。しかし、挟まれた彼に逃げ場は無い。最早、逃走不可能・・・

リンク「わあゝ！」 ポンッ

2ndステージ残り時間83分9秒 リンク確保 残り20人

リンク「最悪だ・・・！だから黄色は嫌なんだよ・・・！目立つか

ら2体で来られたじゃねえか・・・！あゝあ・・・」

プルル　プルルルルル

ファルコ「だからうるせえつつつてんだろ、携帯！少しは黙れ！」

ヨッシー「『工学部棟駐車場付近にてリンク確保、残り20人』・・・」

ポポ「やっぱり目立つし、ハンターいっぱいいるし・・・捕まりやすくなってるよ・・・」

ネス「絶対きつい・・・どうしよう・・・？」

ファルコン「手当たり次第入力していかなきゃな・・・手始めに、ここのをしてみるか」

農学部棟1号館の暗証番号を探すレーサー。

ファルコン「あつた、これだ・・・！1523・・・頼む・・・！」

ファルコンは暗証番号を入力する。

ファルコン「ダメか・・・1発で当てるなんて、そう簡単にはいかねえとは思ってたけど・・・やっぱりハズレだと悔しいな・・・！」

顔を顰^{しか}め、ファルコンは建物を去る。

スネーク「ここか・・・」

工学部棟4号館にやって来たスネーク。

カービィ「あつ、スネーク」

カービィも合流。

スネーク「カービィか・・・おい。こんな所に暗証番号があるぞ・・・！」

カービィ「ホントだ。えつと・・・1411・・・」

2人は暗証番号を入力する。

スネーク「何！？解除されていないだど！？」

カービィ「ええ！？ここも違うの～！？何処だよ、緑の暗証番号～！？」

スネーク「くそ・・・！やられたか・・・」

2人はすごすごと建物を去っていく。

クッパ「吾輩は建物の中には入れないが、ガラス越しには見れるから、手間が省けるな・・・」

工学部棟1号館の掲示板をガラス越しに見る亀。

クッパ「ん・・・？0514・・・」

そこに忍び寄る、黒い影……

クツパ「これをこの装置に……」

クツパは暗証番号を入力する。

クツパ「ああ！？違うのか！？参ったな……ってぐわー！」

ファルコン「そんな大声で驚くなよ……！俺だよ……！」

ファルコンだ……

クツパ「あの速さであの曲がり角から現れたら、誰だって吃驚^{びっくり}するだろうが……！」

ファルコン「悪かったよ……おつ、暗証番号だ……！0514……」

ファルコンは暗証番号を入力する。

クツパ「ああ！？」

ファルコン「おつ！光が消えたぞ！」

ファルコン ミッションクリア

クツパ「あれは緑の暗証番号だったのか……！また探さなきゃいけない……」

ファルコン「ドンマイ、クツパ……ってハンター来たぞ！」

クツパ「何を!？」

見つかった・・・

二手に分かれて逃げる亀とレーサー。ハンターが狙いを定めたのは・
・

ピーーーーーー

クツパ「吾輩だとー!？」

クツパだ・・・

クツパ「来るな!来るんじゃない!」

一目散に逃げるクツパ。しかし、その差は縮まっていく一方。最早、
逃走不可能・・・

クツパ「ぐああゝ!」 ポンツ

2ndステージ残り時間80分17秒 クツパ確保 残り19人

クツパ「発光したままだったから、吾輩が狙われたのか・・・?結局何処だったんだ、赤の暗証番号は・・・?」

本当に『ドンマイ』になっちゃった・・・

ロボット「『工学部棟駐車場にてクツパ確保』・・・」

ヨッシー「どんどん捕まっています・・・」

ファルコン「何なんだ？俺に関わった奴は捕まる運命なのか？俺、完全に疫病神じゃねえかよ・・・！」

既に3人の逃走者を巻き添えにしてしまったファルコン。彼は、逃走者の仮面を被^{かぶ}った悪魔なのか・・・？

エリア消灯まで 10分

マルス「何処だ、暗証番号？」

農学部棟2号館の暗証番号を探す王子。

マルス「あつた、あつた・・・！2105・・・」

マルスは暗証番号を入力する。

マルス「消えない・・・不味いぞ・・・！」

ネス「ここかな？」

農学部棟3号館の中を探すネス。ここは先程、青色に発光しているウルフが失敗した場所。彼の光の色は紫・・・

そこへ、フォックスが通り掛かった。

フォックス「ネスじゃねえか？」

ネス「フォックス。あれ？フォックスも紫なの？」

フォックス「みたいだな。おつ、あつたぞ暗証番号……！」

ネス「これか。えつと……1205……」

2人は暗証番号を入力する。

ネス「あつ！」

フォックス「消えたぞ！」

ネス「やったー！」

フォックス・ネス ミッションクリア

フォックス「やったな、ネス！」

ネス「うん！すごい偶然だね！」

フォックス「だな！ヨッシャー！」

サムス「何処よ、黄色の暗証番号？」

エリアを彷徨^{さまよ}うバウンティハンター。

その近くに、本物のハンター……

サムス「黄色って嫌ね。暗闇ですごい目立ってるじゃない。これじゃあ、灯りが点いてもハンターの格好の的よ……！えっ……？嘘！？やっぱり来た！」

見つかった・・・

一目散に逃げるサ姆斯。彼女が逃げる先に、ソニック・・・

ソニック「急がねえと・・・このままじゃ・・・ん・・・？サ姆斯、ハンター連れて来てるじゃねえか！Oh my god！何でこっち来るんだ！？」

彼も一目散に逃げる。しかし、ハンターが視界に捉えているのはサ姆斯のみ。

ピーーーーーー

サ姆斯「全然撒けない！目立ち過ぎ！」

逃げ続けるサ姆斯。しかし、徐々にその差を詰められていく。最早、逃走不可能・・・

サ姆斯「もうヤダ〜！」 ポンッ

2ndステージ残り時間7分33秒 サ姆斯・アラン確保 残り18人

サ姆斯「もう・・・！こんな目立つ色なんだもん・・・！これじゃ撒き切れる訳が無いわ・・・！」

黄色が発光している事による犠牲者は、これで2人・・・

唯一の黄色が発光している逃走者。それは・・・

ファルコ「ちくしょう・・・！早くしねえと、ハンターが俺に集中してくるぞ・・・！」

ファルコだ・・・

ファルコ「とりあえず、ここ入るか・・・！」

農学部棟1号館に入る隼^{はやぶさ}もどきの青雉^{あおきじ}。

ファルコ「これ入れるか・・・1523・・・！」

ファルコは暗証番号を入力する。

ファルコ「おっ！消えた！ヨッシャ！これで随分^{ずいぶん}楽になった！」

ファルコ ミッションクリア

一方、工学部棟3号館に足を運んだピカチュウ。

ピカチュウ「これか・・・0504・・・」

ピカチュウは暗証番号を入力する。

ピカチュウ「あれ？消えないや。ここじゃないの？」

ピカチュウは建物を去る。とそこへ、ネスが通り掛かった。

ピカチュウ「あつ、ネス。あれ？もう解除したの？」

ネス「見れば分かるでしょ？したよ、とつくに」

ピカチュウ「何色だったの？」

ネス「ボクもピカチュウと同じ紫だったけど・・・」

ピカチュウ「ホントに！？何処！？何処にあったの！？」

ネス「いや、教えてあげるよ。1205」

ピカチュウ「1205ね」

ピカチュウは教えてもらった暗証番号を入力する。

ピカチュウ「消えた、消えた！」

ピカチュウ ミッションクリア

ピカチュウ「有難う、ネス！」

ネス「いやいや、それほどでもないよ」

アイク「よし・・・もう大丈夫だろう・・・」

隠れていたアイク。漸く動き出す。

アイク「黄緑は目立って・・・！風景から浮いてるもんな・・・」

アイクと同じく、黄緑を発光している2次元。

ウォッチ「コウイウ難シイ色ハ、結構遠クニアルモンナデスヨネ」

果たして、その読みは的中するのか。

桃色^{ピンク}に発光する波導の使い手・ルカリオ。

ルカリオ「なんか恥ずかしいな、ピンクって・・・昔はピンク」男が当たり前だったと聞くが・・・」

それは、何からの情報なのだろうか・・・？

マルス「不味い・・・！全然分らない・・・！」

同じく桃色^{ピンク}を発光しているマルス。向かう先にハンター・・・

マルス「赤系のこれは、結構早くしないと・・・ん・・・？いたな、ハンター・・・！来てる・・・！」

見つかった・・・

マルス「これは不味い・・・！」

一目散に逃げるマルス。鍛え抜かれた脚力を生かし、建物の中へ逃げ込む。上手く撒いた様だ。

彼が逃げ込んだのは工学部棟4号館。スネークとカービーが失敗した所だ。

マルス「これは・・・！1411・・・」

マルスは暗証番号を入力する。

マルス「あっ！消えてる・・・！」

マルス ミッションクリア

マルス「運がいいな・・・！」

これで、未だ発光を止められていない逃走者は次の通り。

赤色 ポポ

青色 ウルフ・ロボット・ゼルダ

緑色 ソニック・カービィ

桃色^{ピンク} ルカリオ

橙色^{だいだい} ヨッシー・スネーク

黄緑 アイク・ドンキー・ウオッチ

このままでは、あとおよそ7分でエリア内の全ての照明が落とされ、ハンターに目視されやすくなってしまふ。

それまでに発光を止められるか！？

発行停止へ！（後書き）

22人を仕切るのって、大変ですね（汗）

次回、エリアが暗闇に包まれる！

発光したままの逃走者の運命やいかに！？

光と闇が渦巻くキャンパス（前書き）

自分でも驚くほどのペースで上げてます。

これが、皆さんからの感想による影響なのでしょう？

エリア消灯までおよそ6分半！発光を止める事は出来るのか！？

光と闇が渦巻くキャンパス

ウォッチ「多分ココダト思ウンデスガネ・・・」

農学部棟4号館にやって来たウォッチ。しかし、建物の中にハンタ
ー・・・

ウォッチ「・・・！ハンターイルジャナイデスカ・・・！」

一旦、^{いったん}近くの喫煙所らしき所に避難する。思う様に入れない。

ポポ「ここ入ってみようかな？」

工学部棟3号館の中に入るポポ。

ポポ「ん・・・？0504・・・」

ポポは暗証番号を入力する。

ポポ「あっ！消えた・・・！」

ポポ ミッションクリア

ポポ「良かった〜。見つからなかったらどうしようかと思った」

胸を撫で下ろすエスキモーの少年。しかし・・・

ポポ「へ・・・？」

建物を出た直後、近くを通り掛かったハンターと目が合った。最早、逃走不可能・・・

ポポ「・・・」 ポンッ

2ndステージ残り時間75分40秒 ポポ確保 残り17人

ポポ「嘘・・・？あんな目の前に・・・ええ・・・？」

運の無かったポポ。秒殺だ・・・

スネーク「『工学部棟3号館内にてポポ確保』・・・」

アイク「3号館・・・！？今向かうとしてる所じゃねえか・・・！危ねえ・・・！」

カービィ「確保情報とかどうでもいいよ・・・！緑の暗証番号何処だよ？」

既に2回解除に失敗しているピンク玉。完全に取り乱している。

ヨッシー「ここですね」

工学部棟2号館の中に入る恐竜。

ヨッシー「ありました。0705・・・」

ヨッシーは暗証番号を入力する。

ヨッシー「あっ！消えましたー！」

ヨッシー ミッションクリア

ヨッシー「これで暫くは安全ですね〜・・・ってわっ！」

スネーク「バカ・・・！俺だよ、俺・・・！」

スネークだ・・・

ヨッシー「あれ？スネークさん、ボクと同じ橙ですね〜」

スネーク「何！？お前も橙だったのか！？」

ヨッシー「はい。この暗証番号が正解みたいですよ」

スネーク「忝い、ヨッシー」

スネークは暗証番号を入力する。

エリア消灯まで 5分

スネーク「おお・・・！確かに消えた・・・！」

スネーク ミッションクリア

スネーク「これなら、暗闇でも安心だ・・・！」

ヨッシー「ですね？」

ウルフ「ちくしょう・・・！何処だよ、暗証番号・・・！」

まだ発光を止める事が出来ない狼。

工学部棟へと移動している。しかし、向かう先にハンター……

ウルフ「暗くなったら最悪だな……！あと4分半ぐらいか……！間に合うか……？ん……？あれハンターだな……！？」

ハンターを目撃し、引き返すウルフ。しかし、ハンターは気付いていない。

ウルフ「ちくしょう……！遠回りしねえといけねえのか……？」

ハンターを目撃し、思う様に動けない。

ウォッチ「ヤット着キマシタカ……」

ハンターが立ち去り、やっとの思いで中に入る事が出来た2次元。

ウォッチ「掲示板ハ……何処デスカ……？アツ、コレミタイデスネ。1305……」

ウォッチは暗証番号を入力する。

ウォッチ「アツ！消エマシタ！消エマシタ！」

ウォッチ ミッションクリア

ウォッチ「黄緑ハ意外ト厄介^{やっかい}デスカラネ。解除出来テ良カッタデス」

その厄^{やっかい}介な黄緑を解除出来ていない・・・

アイク「ヤバいぞ・・・！行き当たりバッタリで解除するしか・・・」

クールな青年・アイクと・・・

ドンキー「こんなに光って・・・確実に目付けられる・・・！早く暗証番号を見つけないと・・・！」

ジャングルの王者・ドンキー・・・

ゼルダ「時間無い・・・！このままじゃ・・・！とりあえずここのを・・・！」

農学部棟2号館にやって来た姫。

ゼルダ「掲示板って何処・・・？あつた。えっと・・・」

エリア消灯まで 4分

そこへ、同じ色に発光しているロボットが入って来た。

ロボット「ゼルダサン！」

ゼルダ「ロボット。こっち、こっち」

しかし・・・2人の近くにハンター・・・

ゼルダ「これ・・・多分これだと思っただけど・・・」

ロボット「ジャア、早く入力シマシヨウ・・・」

2人は暗証番号を入力しようとする。

しかし、ハンターに見つかった・・・

ゼルダ「210・・・あつ、ハンター来た!」

ロボット「何デスト!?!」

一目散に逃げる2人。その間に、ゼルダは最後の1つの番号を入力。

ゼルダ「あつ、消えた!消えた!」

ゼルダ ミッションクリア

しかし、ロボットは逃げるのに精一杯で、まだ解除出来ていない。

ハンターの標的になったのは・・・

ピーーーーーー

ロボット「不味イデスー!」

解除出来ていないロボットだ・・・

ロボット「ハ・・・早く解除シナケレバ!」

走る時に振動が起きないロボット。逃げながら腕に付けられた装置に暗証番号を入力する。

ロボット「解除出来マシタ！」

ロボット ミッションクリア

ロボット「ソナナ事言ッテ、安心シテル場合ジャアリマセンデシタ
ー！」

ハンターは追跡を続ける。そして、その差はどんどん縮まる。最早、逃走不可能……

ロボット「ハハハハハ！」 ポンッ

2ndステージ残り時間7分6秒 ロボット確保 残り16人

ロボット「アゝ……！逃げ始めタラ、スグニ入力シトクベキデシ
タゝ……」

エリア消灯まで 3分

後悔先に立たずだ……

ネス「また確保情報だ……！早いな、これが来るペース……！」

ゼルダ「『北食堂付近にてロボット確保』……ええ！？あのまま
追われたの！？」

カービィ「何処ゝ！？」

緑の暗証番号が見つからず、すっかりパニック状態に陥っているピンク玉。

そこへ、自称・疫病神のファルコン・・・

ファルコン「おい、カービィ！静かにしろ！」

カービィ「だつて〜！」

ファルコン「お前も緑か？」

カービィ「『も』ってどういう事！？」

ファルコン「工学部棟1号館に行け。そこにある暗証番号が緑に繋がってるみたいだ」

カービィ「ホントに！？有難う！」

そう言うと、カービィは本物のボールの様に、転がる様に工学部棟1号館を目指す。

ファルコン「あいつを巻き添えにしない為には、この場で教える訳にはいかねんだよ・・・！教えたくても教えられない・・・最低だな、俺・・・！完全に悪者だよ・・・！カービィ済まない・・・！」

彼から疫病神のレッテルが剥がれる事は、当分無いだろう・・・

緑に発光している逃走者が、別の場所にもう1人・・・

ソニック「Oh no. 这也違うのか」

農学部棟の暗証番号を、手当たり次第入力している。しかし、彼が目指すべき暗証番号は工学部棟1号館・・・

エリア消灯まで 2分

ソニック「あとは4号館だけか・・・」

それでもなお、農学部棟に拘るハリネズミ。^{こたわ}

桃色^{ピンク}に発光しているルカリオ。

ルカリオ「ここか・・・？」

彼は工学部棟4号館へと入る。ご名答だ・・・

ルカリオ「これが・・・！1411・・・」

ルカリオは暗証番号を入力する。

ルカリオ「よしっ・・・！消えた・・・！」

ルカリオ ミッションクリア

ルカリオ「ここまで辿り着くのに、相当時間掛かったな」^{たど}

カービィ「ここだ〜！」

漸く工学部棟1号館に辿り着いたカービィ。

カービィ「何処だ？暗証番号・・・掲示板・・・あっ、これだね。えっと・・・0514・・・」

カービィは暗証番号を入力する。

カービィ「消えた！やったー！」

カービィ ミッションクリア

カービィ「有難う、ファルコン！」

感謝されるファルコン。しかし・・・

ファルコン「カービィ・・・捕まらないでくれよ・・・捕まったら、完全に俺は疫病神だからな・・・」

ネガティブ思考になるレーサー・・・

エリア消灯まで 1分

ドンキー「あと1分だ！不味い！早く解除しないと！」

焦るドンキー。

アイク「着いた・・・！」

やっとの思いで、農学部棟4号館に到着したアイク。

アイク「これだな、暗証番号は・・・頼む・・・！当たっててくれ・・・！これでハズレだったら、確実に終わる・・・！1305・・・」

アイクは暗証番号を入力する。

アイク「おっ！やった、消えた！助かった・・・！」

アイク ミッションクリア

そこへ、ソニックが到着。

ソニック「おっ、アイク。解除したのか？」

アイク「ソニック。あれ？お前緑なのか？」

ソニック「Huh？何だ、その怪訝な顔は？」

アイク「ここに掲示されてるのは、緑の暗証番号じゃないぞ」

ソニック「What！？って事は、農学部棟全滅かよ！？マジかー！？今までこの辺を回ってた意味は何だったんだー！？」

エリア消灯まで 30秒

アイク「その口は、工学部棟の方には行っていないな？」

ソニック「そ・・・そうだ・・・」

アイク「じゃあ、早く行けよ。もうあと20秒だぞ？」

ソニック「Huh!? だったら、ここでお前と話してる時間は無えぞ! Hurry up!」

ソニックは、持ち前のフットワークで工学部棟を目指す。

アイク「ハリーアップって・・・それお前だろうがよ・・・」

ウルフ「くそっ! 何処だ!？」

農学部棟2号館に入って来たウルフ。

エリア消灯まで 10秒

ウルフ「これだな・・・! これでダメだったら、もう終わりだ・・・! 2105・・・!」

ウルフは暗証番号を入力する。

ウルフ「ん? 消えた・・・! ヨッシャー! 危ねえ、ギリギリだ・・・!」

ウルフ ミッションクリア

そして、エリアの照明が落とされた・・・

ヨッシー「わっ!」

ゼルダ「きゃっ!」

フォックス「おつ、吃驚した・・・！」

ウルフ「建物の中も暗くなったぞ？」

エリアは漆黒の闇に包まれた・・・

ソニック「ヤバいぜ・・・！これ相当目立つな・・・！」

ドンキー「消えちゃった・・・！不味い・・・！完全にピンチだ・・・！」

発光を止められていないのは、ソニックとドンキーの2人。闇に浮かぶ緑と黄緑の光・・・2人はハンターの搜索を掻い潜り、暗証番号を探さなければならない。無事解除できるのか！？

光と闇が渦巻くキャンパス（後書き）

暗闇に包まれ、安堵の表情を浮かべる14人。

漆黒のキャンパス内で、彼等はここからの10分間どう動く！？

そして次回、発光し続ける2人の運命は！？

緊迫と安息の10分間（前書き）

リアルルイーダさん・アマガエルさん、感想有難う御座います

発光したまま移動するソニックとドンキー。

ハンターに見つかると解除する事は出来るのか！？

そして、絶好の隠れ場となった暗闇に溶け込む14人は！？

緊迫と安息の10分間

ソニック「Oh no・・・！信号まで消えてるぜ・・・？これじやまるで停電だ・・・！」

ドンキー「前が全然見えない・・・！暗過ぎる・・・！」

緑色に光るハリネズミと、黄緑に光るゴリラ。ハンターに見つかる危険性が非常に高い中、目的の暗証番号を探し続けている。

その時・・・

ブルル　ブルルルルル

ドンキー「うるさいな・・・！何・・・？」

ソニック「通達2・・・？『これより、どの色が何処の暗証番号と繋つながっていたかを公表する』・・・助け舟だ・・・！」

ドンキー「黄緑は・・・えっ！？農学部棟4号館！？まだ結構な距離あるじゃん・・・！」

ソニック「緑、緑・・・おっ、工学部棟1号館・・・！近いぞ・・・！ Lucky・・・！」

工学部棟1号館付近の小道にいたソニック。一方ドンキーは、工学部棟4号館付近にいた為、まだかなりの距離がある。

ドンキー「遠いけど・・・開き直っていくしかない・・・！」

ソニック「もう少しだな・・・！」

その頃、既に発光を止めた逃走者達は・・・

スネーク「この闇はいいな・・・隠れるのに最適だ・・・ハンターは近くに来ようと、俺の事など見つけれまい・・・」

ウォッチ「10分間・・・本心トシテハ、コノ状態ガズツト続イテホシイデス・・・」

ファルコ「ハンターは、多分俺の姿は見てない筈だ・・・少し休むか・・・」

ゼルダ「解除しといて、ホントに良かったわ・・・光り続けてたら、相当きつかった筈・・・」

カービィ「楽だ・・・ハンターは明かりにしか集中してないから、すごい楽・・・」

アイク「こんな安全な時間なんて、今まであったか・・・？」

ウルフ「この暗闇・・・光ってたら絶対動けねえよな・・・」

楽観的な口調で、明かりが戻るその時を待っている。

ソニック「OK・・・！」

漸く工学部棟1号館に辿り着いたハリネズミ。

ソニック「うわぁ・・・完全に停電だな・・・中の電気も消えちまってる・・・」

ソニックは中に入り、自分から発せられる光で掲示板を照らす。

ソニック「点滅してるから、読みにくいな・・・何、何？0514・・・」

ソニックは暗証番号を入力しようとする。

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

しかし、近くにいたハンターが、ソニックの姿を捉えた・・・そのまま確保へと向かう。

ソニック「0514・・・よしっ！OK！」

ソニック ミッションクリア

ソニック「ん・・・？この足音・・・ハンターか！？」

近付いてくる足音に気付き、ハンターを確認した後、一目散に逃げるソニック。

発光を停止させた事が功を奏し、ハンターの視界から消えた様だ。

ソニック「ほぉ・・・ハンターいた・・・あと1秒でも解除するのが遅かったら、確実に捕まってたな・・・Safe・・・」

これこそ正に、九死に一生だ・・・

これで発光を止められていないのは、ドンキーただ1人。間に合うのか。

ドンキー「もう・・・4号館が遠い・・・!」

あと少しで農学部棟4号館に辿り着く。

ピーーーーーーーー

しかし・・・ハンターに見つかった・・・

ドンキー「あっ・・・!ハンターだ・・・!何で寄りによって、こんな所で・・・!?!」

一目散に逃げるドンキー。

ドンキー「ヤバい・・・!このまま普通に逃げてたら、絶対捕まる・・・!こうなったら・・・」

ドンキーは近くにあった小道とそこにあった多くの曲がり角を利用し、逃げ続ける。

間一髪撒いた様だ。

ドンキー「もう・・・辛い・・・!」

しかしハンターに追われて、農学部棟4号館から離れてしまった。

その姿を見たのは・・・

ヨッシー「なんか・・・黄緑色の光が・・・人魂みたいに、あそこをスーッと通って行きましたけど・・・」

ヨッシーだ・・・

ヨッシー「でも点滅してたんで・・・恐らく、発光を止められていない誰かでしょうね・・・」

発光を止めた今の彼にとって、このミッションは他人事だ・・・

フォックス「あと5分で明かりが戻るな・・・」

マルス「すぐ走れる準備をしよう・・・明かりが戻った時に、ハンターが目の前にいたら堪らないからね・・・」

ピカチュウ「逃走中って言うてる割には、今のボク全然逃走してないね・・・」

ネス「45万3千円・・・！すごい金額・・・！でも、目標は逃げ切りだもん・・・！自首なんかしない・・・！誰か自首したら、その人の気が知れないよ・・・！」

ドンキー「早く行かないと・・・！」

未だに安堵の表情を浮かべる、発光を止めた逃走者達。彼らとは裏腹に、更に焦燥感を増すゴリラ。

ドンキー「こんなところで、くたばって堪るか・・・！」

歯を食い縛って農学部棟4号館を目指す。

ピーーーーー

しかし、またしてもハンター・・・

ドンキー「早く解除しないと・・・見つかったらうよ、このままじゃ・・・！あ・・・？嘘だー！」

見つかった・・・

ドンキー「もう・・・何で行こうとすればするほど、ハンターと出くわすの・・・！？」

一目散に逃げるドンキー。しかし、前から別のハンター・・・

ドンキー「な・・・！？こっちからも・・・！？」

逃げ続けるドンキー。しかし、次々と集まって来るハンターに成す術無し。最早、逃走不可能・・・

ドンキー「うごぉー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間62分15秒 ドンキーコング確保残り15人

ドンキー「くそ・・・暗証番号・・・！」

牢獄

レッド「『北門駐車場付近にてドンキーコング確保』・・・」

ルイージ「この時間に捕まるという事は・・・」

ポポ「間違い無い。光ったままだったんだよ」

サムス「それにしても最悪だわ・・・寄りによって黄色の発光ベストだったなんて・・・」

リンク「ホントですね。黄色は明るくても暗くても目立つ色ですからね」

クッパ「吾輩はもつと最悪だ・・・赤色だったし、ファルコンの身代わりになって捕まったし・・・」

ガノンドロフ「クッパ・・・お前もか・・・」

クッパ「『もか』って・・・どういう事だ？」

ガノンドロフ「俺も逃げてるファルコンに抜かれて、身代わりにされたんだ・・・」

マリオ「ボクも、ハンターを見つけてファルコンと二手に分かれた時に標的にされたし・・・」

クッパ「そつか・・・まあ、ファルコンも悪気があった訳じゃないからな・・・」

ガノンドロフ「当たり前だろ。悪気があつたら、俺やクツパよりも質^{たち}悪いぞ・・・！」

ロボット「サッキ私ガココニ来ル時ニ、ファルコンサンニ会ツタンデスガ、彼自分ノ事ヲ疫病神ダト言ツテ、カナリ落ち込ンデマシタ・・・」

マリオ「疫病神か・・・3人も巻き添えにしたからね・・・落ち込むのも無理ないか・・・」

ナナ「それにしても、女の人で残ってるのゼルダだけだね？」

ピーチ「そうね・・・彼女は、私達女性の最後の望みね・・・」

プリン「頑張つてほしいでしゅ・・・というか、逃げ切つてほしいでしゅ・・・」

そして、エリア内に再び照明が灯^{とも}された・・・

ファルコン「戻った、戻った・・・！さあここからだ・・・！」

ファルコン、疫病神のレッテルを剥^はがせるのか。

フォックス「よしっ・・・！この60分が勝負だな・・・！ん・・・？」

フォックスがある異変に気付いた。そして、左の手首に付けられたタイマーを指で叩いたり、左手を振ったりしているではないか。一

体、どうしたというのか？

フォックス「何だこれ！？止まっちゃったぞ、タイマーが！」

なんと、タイマーが残り60分を表示したまま止まってしまったのだ。

カービィ「えっ！？何で、何で、何で！？」

ルカリオ「どういう事だ！？」

マルス「まさか、壊れた訳じゃないよね！？」

他の逃走者も、動揺を隠せない。

・・・と、その時・・・

ブルル　ブルルルルル

ファルコ「うるせえな！毎回、毎回！何だっつうんだよ！？」

ヨッシー「通達3・・・？」

ネス「『これより、ゲームを一時中断し』・・・」

スネーク「『ハンターの数減らすゲームを行う』・・・何！？」

ソニック「Wow！これはまたとないチャンスだ！」

ピカチュウ「ここで何体かは減らさないと・・・！7体なんてどう

考えたって多過ぎだもんね・・・！」

逃走者に与えられた、ハンター消滅のチャンス。

果たして、そのゲームとは！？

緊迫と安息の10分間（後書き）

次回、ハンター消滅ゲームが行われる！

その内容とは！？そして、逃走者達は何体のハンターを消滅させられるのか！？

ハンター消滅ゲーム開始！（前書き）

逃走者に与えられたかつてないチャンス。

彼等はこのを生かし、何体のハンターを消滅させられるのか！？

ハンター消滅ゲーム開始！

逃走者に通達された、ハンターを消滅させるチャンス。

それは・・・

『逆逃走中』

逆逃走中とは、逃走者とハンターの立場が逆になる。要するに、逃走者がハンターを捕まえるものだ。

逃走者がハンターを確保すれば、確保されたハンターは消滅。最大6体を減らす事が出来る。

制限時間は10分。6体確保するか制限時間が過ぎたら、ゲームは終了となる。

但し、自身が持つ小道具や必殺技でハンターを倒したり捕まえたりしたら、その逃走者は強制失格となる。

フォックス「今までにない形だな、俺達がハンターを追うって・・・」

ソニック「俺の自慢の足をハンターに見せつけるチャンスだな・・・」

ルカリオ「6体捕まえるつもりでやるか・・・！」

逃走者達も、立場が逆転するという事で、今まで以上に身体を奮い立たせる。

アイク「最低でも2体は減らしたいな・・・！」

ビビリのアイクも、やる気満々だ。

そして、逆逃走中がスタート。

ヨッシー「ハンター何処にいるんでしょうか？」

カービィ「出て来い、ハンター・・・！」

ハンターを搜索する逃走者達。

ウルフ「いたぞ！」

ウルフがハンターを発見。確保へと向かう。

ウルフに気付いたハンターは、通常の逃走中で逃走者を追う時と同じスピードで、一目散に逃げていく。

ハンターも手加減はしない。

ウルフ「逃げるのも速えな、ハンター・・・！簡単に逃げられた・・・

・!
」

マルス「いた!」

別の場所で、マルスがハンターを発見。確保へと向かう。

しかし、マルスに気付き一目散に逃げていく。

マルス「待てー! 逃げるなー!」

そんな事を言っても、ハンターは止まってくれない。

マルス「ダメだ・・・! 追いつけない・・・!」

ピカチュウ「いた、いた!」

更にピカチュウもハンターを発見。確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

しかし、逃げた先にカービィの姿・・・

カービィ「あつ!」

視界にハンターを捉え、確保しようとする。しかし・・・

カービィ「ああ!？」

身体が小さい事が災いしたのか、そのまますり抜けられてしまった。

ピカチュウ「何やってんの、カービィ！折角せっかくのチャンスを！」

カービィ「ゴメン。でも、やっぱり速いよ。普通に追い掛けても、絶対捕まえないよ？」

ピカチュウ「そうだよね・・・」

ソニック「おっ！いたぞ！」

ソニックもハンターを発見。確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

ソニック「逃げるんじゃないぜ！」

ハンターと粗ほろ一定の距離を保ちながら追い掛け続けるハリネズミ。その近くに、自称・疫病神のファルコン・・・

ソニック「全然縮まらねえじゃないか！これじゃあ、埒明らうちかねえ！」

ファルコン「ん？ハンターだ！」

向かってくるハンターを視界に捉えた疫病神レーザー。確保へと向かう。挟み撃ちだ・・・

2人の俊足な逃走者に挟まれたハンター。フェイントを利用し、脱出を試みた。しかし・・・

ファルコン「甘いぜ！」

そのままファルコンに確保され、電子音と共に消滅。

消滅ゲーム残り時間6分41秒　ハンター1体目確保　残り6体

ソニック「Yes！よくやったぜ、ファルコン！」

ファルコン「この調子で、他のハンターも捕まえるぞ！」

ソニック「当たり前だ！」

ファルコン、これで疫病神のレッテルは、少しは剥^はがれたか？

ファルコン「ちくしょう・・・！ハンターが見つからねえ・・・！」

スネーク「いくら明かりがあるとはいえ、あの黒ずくめの姿じゃ目視するのも困難だ・・・！」

ウォッチ「何処デスカ、ハンターって？」

ファルコン・スネーク・ウォッチの3人は、ハンターを見つけられないでいる。

アイク「いたな、ハンター・・・！」

ハンターを見つけたアイク。確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

アイク「あっ！待てコラー！」

必死に追い続けるアイク。しかし、ハンターとの距離はどんどん広がっていく。

アイク「やっぱり・・・そう簡単には捕まえられるか・・・！」

ヨッシー「いましたね、ハンター・・・！」

別の場所で、ヨッシーもハンターを発見。確保へと向かう。

しかし、気付かれた・・・ハンターはヨッシーから一目散に逃げていく。

ヨッシー「絶対逃がしませんよー！」

執念を見せるヨッシー。しかし、ハンターとの距離は広がっていき、曲がり角を使われて見失ってしまった。

ヨッシー「何なんですか、あの速さは・・・！1人じゃ無理ですね・・・！」

消滅ゲーム終了まで 5分

ネス「超能力でハンターの動きを封じればいいのに・・・それも禁止だからな・・・」

通常の逃走中でも禁止されている事である為、当然この消滅ゲームでも使ってはならない。

ネス「何処か行き止まりに追い込むしかないかな？」

ルカリオ「見つけたぞ、ハンター！」

遠くにハンターを見つけたルカリオ。確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

ルカリオ「逃がすか！」

追いつけるルカリオ。しかし、ハンターに撒かれた・・・

ルカリオ「くそ・・・！これじゃあ消滅させられない・・・！どうすればいいんだ・・・？」

一緒に行動するピンク玉と黄色いネズミ。2人で協力して、ハンターを捕まえる作戦の様だ。

ピカチュウ「カービィ、今度こそちゃんと頼むよ。あの失敗だけはもう止めてよ」

カービィ「何回も言われなくても分かっているって」

ゼルダ「あつ、ネス」

超能力少年と会った姫。

ネス「ゼルダ？」

ゼルダ「ネス。2人でハンター追いましょう」

ネス「追いつてどうするの？ハンター滅茶苦茶速いんだよ？」

消滅ゲーム終了まで 4分

ゼルダ「おとり罠を使って、ハンターをおび誘き寄せろのよ」

ネス「ああなるほどね。OK！じゃあ、ボクが近くのハンター探し
てくるよ。見つけたら、ここに連れて来るから。頼むよ？」

ゼルダ「任しといて！」

この2人も協力する作戦だ。

ファルコ「おつ。のこのこと現れやがったな、ハンター！」

ファルコが近くに現れたハンターを見つけ、確保へと向かう。

それに気付いたハンター。一目散に逃げていく。

ファルコ「お前は俺の獲物だ！逃げんじゃねえ！」

獣のような目でハンターを追い掛けるあおきじ青雉。しかし、茂みの中に逃げ
込まれ見失ってしまった・・・

ファルコ「チツ・・・！さすが流石ハンターだな・・・！」

感心している場合ではない・・・

ゼルダとの作戦で、近くを探すネス。そこに近付くきつね狐。

フォックス「ネス。ハンターいたか？」

ネス「探してるんだけど、見つからないんだよ」

フォックス「まあ、ハンターが俺達みたいにピリピリする事なんて無いもんな？」

ネス「確かに・・・あれ？あつ、ハンターだ！」

フォックス「マジか！？ヨッシャー！捕まえてやるぜ！」

ネス「そのまま北食堂の方へ追い込んで！そこにゼルダがいるから！」

消滅ゲーム終了まで 3分

フォックス「ゼルダ・・・？なるほど、挟み撃ち作戦か・・・！了解だ！」

俊足のフォックスに追われ、一目散に逃げるハンター。

ネス「ボクは万が一に備えて、こっち行っところ」

ソニック「ハンターが見つからねえぜ・・・！」

ファルコンと協力してハンターを消滅させたハリネズミ。次なる標的を探している様だ。

マルス「あれから全然ハンター見ないな・・・」

俊足を生かせない王子。エリアを彷徨^{さまよ}う・・・

フォックス「逃げる、逃げるー！その先には・・・！」

ハンターを追い続ける狐^{きつね}。ネスに言われた通り、ゼルダの待つ北食堂へ。

フォックス「ゼルダ！」

ゼルダ「えっ？あつ、ハンター！」

視界にハンターが現れ、確保しようとする。しかし・・・

ゼルダ「あつ！」

フォックス「何！？」

ハンターはゼルダに突進せず、近くの脇道へ逃げて行ってしまった。

フォックス「くそ・・・！」

その時・・・

ネス「早く誰か来て！」

ゼルダ「今の声って・・・」

フォックス「ネスだ！さっきハンターが逃げて行った所からだ！」

2人は声のした方へ急ぐ。

カービィ「いたね、ハンター・・・！」

カービィが遠くにハンターを発見。

ピカチュウ「ホントだ・・・！じゃあ、作戦開始・・・！」

カービィ「OK・・・！」

消滅ゲーム終了まで　2分

2人が企む作戦とは？

その頃、ネスの声がした所に辿り着いた狐と姫。

フォックス「あれ？ネスがいねえぞ？」

ゼルダ「何処行つたのかしら？」

ネス「あつ！フォックス！ゼルダ！こつちだよ！」

フォックス「あつちか！？」

再び声のした方へ向かう2人。そこには、行き止まりにハンターを追いついたネスの姿・・・

ゼルダ「ネス。どうやってここに？」

ネス「万が一2人が取り逃がした時に備えて待ってたら、いい追いつき場所を見つけてね。そこへ現れたハンターをここまで追いついてだつて訳！」

ゼルダ「すごいわね、ネス」

ネス「そんな事無いって」

フォックス「談笑するのはそのぐらいにしておけ・・・おい、ハンター！観念しろ！」

鋭い視線でハンターを睨むフォックス。

しかし、ここで怖気付くハンターでは無い。フェイントを利用し、強行突破を試みた。しかし・・・

フォックス「諦めの悪い奴だな！」

そのままフォックスに確保され、電子音と共に消滅。

消滅ゲーム残り時間1分27秒　ハンター2体目確保　残り5体

フォックス「よしっ！1体消滅したな！」

ネス「でも・・・ボク達が仕事出来るのは、ここまでみたいだね」

ゼルダ「ホント・・・もうあと1分ぐらいね・・・」

フォックス「まあ、1体減らせただけでも十分な仕事したと思うんだけどな」

ネス「それもそうだね」

ピカチュウ「待てー！」

ハンターを追う黄色いネズミ。一目散に逃げるハンター。その逃げる先に、息を殺して待ち構えるピンク玉・・・

消滅ゲーム終了まで 2分

ピカチュウ「今だ！」

カービィ「やあー！」

ピカチュウの合図で、茂みから飛び出したカービィ。

しかし・・・

カービィ「あれ？」

ハンターは、まだ少し遠めのところだった・・・

ピカチュウ「うわー！タイミング間違えたー！」

そのままカービィは地面に倒れた。その直後、何者かに蹴飛ばされた。

カービィ「あゝれゝ」

危機感の無い叫び声と共に飛ばされるピンク玉・・・

その後、何回かバウンドした後その場に尻餅を着いた。

消滅ゲーム終了まで 1分

カービィ「痛たたたたた・・・酷い目に遭った・・・あれ？ハンターは？」

カービィは辺りを見渡すが、ハンターの姿は疎か足音も聞こえない。

カービィ「ピカチュウ。ハンターは？」

そう言いながら、カービィはピカチュウに近付く。ところが・・・

カービィ「ピカチュウ？ピカチュウ？」

ピカチュウは、呆氣あつけに取られた表情をしている。

ピカチュウ「あ・・・あんな捕まり方ってアリ・・・？」

カービィ「ほえ？」

ピカチュウ「さっきハンターが、カービィが視界に現れたから止まろうとしたんだけど・・・止まれずに勢い余って、カービィの事を蹴飛ばして・・・そしたらハンター・・・消えちゃった・・・」

カービィ「えっ？」

何と言う事か、カービィを蹴飛ばしたのはハンターだった。そしてこのゲーム、ハンターは逃走者に「触れられたら」消滅するもの。つまり、カービィに触れた事でハンターは消滅してしまったのだ。

消滅ゲーム残り時間12秒 ハンター3体目確保 残り4体

カービィ「まあ・・・結果オーライと言う事でいいんじゃない？」

ピカチュウ「いいのか悪いのか・・・分かんなくなっちゃった・・・」

そして、消滅ゲーム・逆逃走中が終了。

ブルル　ブルルルルル

ファルコ「メール来た・・・！」

ルカリオ「結果か・・・！」『ソニック・ザ・ヘッジホッグ、キャプテン・ファルコン、ネス、ゼルダ、フォックス・マクラウド、ピカチュウ、カービィの活躍によりハンター3体消滅。その数は4体に減少した』・・・おお、3体も・・・！」

ヨッシー「これは随分ずいぶんと楽になりました」

ウオッチ「4体デス力・・・！逃ゲ切レル気ガシテキマシタ・・・！」

アイク「ハンター減ると、気持ち的にもスッキリするな」

他の逃走者も、歓喜の声を上げる。

ハンターが3体消滅し、その数は4体となった。

これより、再び逃走劇がスタートする！

ハンター消滅ゲーム開始！（後書き）

現在生き残っている逃走者は、フォックス・ファルコ・ウルフ・マ
ルス・アイク・ソニック・ピカチュウ・ルカリオ・ネス・ヨッシー・
カービィ・スネーク・ウオッチ・ゼルダ・ファルコンの15人。

ハンターが4体となり、かなり楽になった逃走者達！

次回、60分間の逃走劇がスタート！

果たして、生き残るのは！？

ゲーム再開！（前書き）

ハンターが4体に減少し、俄然^{がぜん}有利になった逃走者達！

しかし・・・逃走者に新たななる危機が迫る！？

ゲーム再開！

2ndステージ残り時間60分――ゲーム再開

再び逃走者を確保するべく起動した、4体のハンター。

ピカチュウ「最低でも60万円までは行きたいな。60万円あれば、いい温泉に行けるもんな。」

賞金の使い道は、温泉旅行だというピカチュウ。賞金を獲得し、伝統の湯に浸かる事が出来るのか。

ゼルダ「絶対自首はしない……！私はいろんな意味での唯一の生き残りだし……こんなところで捕まりたくない……！」

彼女の世界、そして女性逃走者唯一の生き残りの姫。逃げ切りなるか。

アイク「隠れてた方がいいな……」

ハンターが4体に減っても、ゲームが再開した途端、ビビリ丸出しの青年。

アイク「もうヤダ……！さっきハンター消滅ゲームに参加したんだから、もうこれから絶対ミッションなんかやらねえ……！来たって絶対動かねえ……！足速い奴があんなにいるんだからさ……！そいつ等がやればいいじゃん……！」

もう、ミッションには無関心の様だ……

工学部棟4号館の長椅子の下に隠れる隠密潜入のエキスパート。

スネーク「俺は隠れる事が生き甲斐がみたいなもんだ・・・！動くのは性に合わん・・・！」

フォックス「動いてた方がいいな、これ」

スネークとは裏腹に、ゲーム開始から殆ど動きつ放しのフォックス。

ソニック「OK・・・ハンターいないな・・・」

ハンター消滅に貢献したソニック。

ソニック「ハンターって、俺と大体同じくらいの速さだったな・・・！遠くからだったら逃げ切れるけど・・・油断したら絶対捕まるな・・・！」

ルカリオ「4体に減ったから、多少なりとも動きやすくなったな・・・」

何やら作戦を考えている波導の使い手。

ルカリオ「ループ道路の方に行くかな？この農学部棟付近の道路は、脇道も多いし・・・」

ウルフ「その辺から来そうだな、ハンター・・・」

周囲を警戒するウルフ。ここまでかなりの距離を移動しているが、全く息を切らしていない。これが、底知れぬ持久力そなを具える彼の实

力なのか。

その彼に近付く、黒い影・・・

ウルフ「いくら4体に減ったとはいえ、いなくなった訳じゃないから・・・ん・・・？あれハンターか・・・！？ヤバい・・・！」

すぐさま工学部棟2号館の中に避難する。気付かれていない様だ。

そのまま別の出入口から建物の外へ。しかし、その先に・・・またしてもファルコン・・・

ウルフ「ファルコンか・・・」

ファルコン「ああウルフ・・・」

何気なく話し掛けたが、ファルコンは内心、ウルフの許もとから離れたがっている。しかし・・・

ウルフ「そっちハンターいたか？向こうに1体見たからこっち来たんだが・・・」

ファルコン「い・・・いや、あんな・・・」

ウルフが執拗しつように話し掛けてくる為、思う様に離れられない。

そこへ・・・やはりハンターの影・・・

ウルフ「お前、ハンター消滅に貢献したらしいな。メールに名前載ってただろ？」

ファルコン「あ．．．あのさ．．．あんまり．．．」

ウルフ「やっぱり、伊達^{だて}に1stステージ逃げ切つてねえな。ホント見直すよ、お前には」

ファルコン「一寸^{ちよつと}．．．ホントにもう．．．」

ウルフ「俺、次のミッション必ずやるからな。お前も参加しろよ？」

ファルコン「そう言う事は．．．ほら、やっぱり来たじゃねえか！」

見つかった．．．

ウルフ「うおおー！」

別方向へ逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは．．．

ピーーーーーーーー

ウルフ「くそっ！」

ウルフだ．．．

ファルコン「最悪だー！」

しかし、叫んでいるのは自称・疫病神のファルコン．．．

ウルフ「何であいつが叫んでんだよ!? 叫びたいのは俺の方だ！」

そう言いながら一目散に逃げるウルフ。

持久力では、ハンターに勝るとも劣らないウルフ。しかし、ハンターとの距離が徐々に詰められる。最早、逃走不可能・・・

ピーーーーー

ウルフ「がぁー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間5分57秒 ウルフ・オドネル確保
残り14人

ウルフ「もう終わりかよ・・・！？速え・・・！速過ぎるだろ、ハンター・・・！」

瞬発力ではハンターの方が上だった・・・

またしても、他の逃走者を犠牲にしたファルコン・・・

ファルコン「どうすんだよ・・・？これであいつが捕まったら・・・！」

ウルフ「それにしても・・・ファルコンの奴・・・やけにそわそわしてたな・・・？どうしたつつうんだ・・・？」

ファルコンが疫病神と自責している事を彼は知らない。

プルル プルルルルル

ピカチュウ「あっ・・・！メール来た・・・！」

ウォッチ「『北食堂付近にてウルフ・オドネル確保』・・・北食堂
スグ近クジャナイデスカ・・・!？」

ファルコン「だから嫌だったんだよ、一緒にいるのが・・・!はあ
く・・・これで疫病神にまた近付いた・・・!」

これで、彼の巻き添えに遭ったのはガノンドロフ・マリオ・クツパ・
ウルフの4人となった。やはり、彼から疫病神のレッテルが剥がれ
る事は無いのだろうか。

ファルコ「何だったんだ、さっきの叫び声・・・?確実にウルフの
じゃなかったよな・・・?あれ・・・?ファルコンじゃねえか・・・
ん・・・?すげえ落ち込んで・・・どうしたんだ・・・?」

疫病神に更に近付いたレーサーに近付く青雫。
あおきし。

ファルコ「おい、ファルコン。どうしたんだよ?捕まった訳でもね
えのに、何で落ち込んでんだよ?」

ファルコン「話し掛けるな・・・」

ファルコ「は・・・?」

ファルコン「俺と長い事関わると・・・ハンターに捕まるぞ・・・
?」

ファルコ「な・・・何言ってるんだよ?サッパリ分かんねえんだけど・
・・・」

ファルコン「俺は疫病神だ・・・」

ファルコ「は・・・？」

ファルコン「俺に関わった奴は・・・確実に捕まる・・・もう俺に付き纏^{まと}うな・・・」

そう呟くと、疫病神と自称するファルコンはフラフラとファルコの許^{もと}を離れる。

ファルコ「おい待てよ！」

青雉^{あおぎじ}の怒鳴り声にも、レーサーは振り向きもせず去っていく。

ファルコ「何言ってたんだよ、あいつ・・・疫病神だの付き纏^{まと}うなどの・・・て言うか、そんな風にフラフラ動いてたら、お前に疫病神が舞い降りるぞ・・・？たく・・・」

吹っ切れたファルコは、ファルコンの許^{もと}へ駆け寄る。そして・・・

バシンッ！

彼はファルコンの頬^{ほお}を思いつ切り引つ叩く。

ファルコ「おいファルコン！いい加減にしろよ！何があつたのか知らねえが、自分を責めてんじゃねえよ！落ち込む前に、お前にはやる事があるだろうが！この逃走中で逃げ切るんだろ！？」

ファルコン「・・・！」

ファルコンは叩かれた頬を押さえて、呆氣に取られた表情をしている。

ファルコ「お前らしくねえぞ。折角ハンターも4体に減ったんだ。全員でゴールを目指して・・・兎に角今は、逃げ切る事を考える」

ファルコン「す・・・済まないな、ファルコ。どうかしてたよ、俺」

漸く立ち直ったレーサー。しかし、ファルコの怒鳴り声に反応したハンターが2人に近付く・・・

ファルコン「おい・・・！ハンター来たぞ・・・！」

ファルコ「マジかよ！？」

見つかった・・・

二手に分かれて逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーーー

ファルコン「とうとう俺が狙われる時か！？」

自称・疫病神のファルコンだ・・・

ファルコン「こっち行か・・・！」

一目散に逃げるファルコン。逃げた先にあった茂みを利用し、上手く撒いた様だ。

ファルコン「本当だったら、捕まるべきなのかもしれねえが・・・俺にとっては、逃げ切る事があいつ等への償いだ・・・!」

ファルコンを追ったハンターが向かう先には、ルカリオ・・・

そして、見つかった・・・

ルカリオ「ん・・・? わあゝ!」

一目散に逃げるルカリオ。しかし、ハンターに気付くのが遅過ぎた。最早、逃走不可能・・・

ピーーーーーー

ルカリオ「ぎょえゝ!」 ポンッ

2ndステージ残り時間51分33秒 ルカリオ確保 残り13人

ルカリオ「捕まった・・・! 何でだゝ?」

自分の作戦が仇^{あだ}となった・・・

ピカチュウ「うわあゝ! ルカリオ捕まったゝ!」

ゼルダ「『残り13人』・・・どんどん減ってるわ・・・」

マルス「困ったなゝ・・・どうすれば・・・あれ・・・?」

何かを見つけた王子。

マルス「あれって・・・ロイ!?」

遠くに、DXに参戦したロイを見つけた。

マルス「あれ?ロイだけじゃない・・・!ドクターマリオに子供リンクに・・・ピチューにミュウツー・・・!何で大学キャンパスに・・・!?でも・・・何か様子がおかしいぞ・・・?」

元スマブラに参戦した5人。しかし、その動きは何処かゾンビを彷彿させるものだった・・・

・・・と、その時・・・

ブルル　ブルルルルル

スネーク「何だ・・・?」

メールだ・・・

カービィ「来た・・・!ミッション5・・・!」

ネス「『エリア内にロイ・ミュウツー・子供リンク・ピチュー・ドクターマリオが現れた』・・・え?何で?」

アイク「『彼等は霊に憑依された状態でエリアを縦断している』・・・はあ!?幽霊に取り憑かれたのか!?」

ソニック「『残り40分になり、彼等が第1体育館前の賞金減額装置のスイッチを押すと』・・・」

ゼルダ「『それ以降の賞金単価が1秒10円となる』・・・！？今1秒100円なのに、10円って・・・！ものすごい損じゃない・・・！」

ファルコ「『阻止するには、それぞれのキャラ専用のお守りで霊を身体から追い出さなければならない』・・・」

フォックス「『急ぎたまえ！』・・・お守りって何処だ？」

MISSION？ 取り憑かれた元スマブラメンバーを正気に戻せ！

エリアのループ道路に現れた、元スマブラメンバーの5人。彼等は幽霊に憑依され、エリアを縦断。残り40分に、向かう先にある第1体育館前に設置されている賞金減額装置に到着しスイッチを押すと、それ以降の賞金単価が100円から10円に減額される。阻止するには、保健管理センター内に置かれている、それぞれのキャラ専用のお守りを使って、彼等の身体から霊を追い出し、正気に戻さなければならない。1人でも正気に戻せなければ、賞金は一気に減額してしまう。

逃走者に訪れた新たな危機！

果たして、賞金減額を阻止する事は出来るのか！？

ゲーム再開！（後書き）

次回、取り憑かれた元メンバーと対面！

その時、逃走者達はどうなってしまうのか！？

そしてファルコンは、これを機に疫病神のレッテルを剥^はがせるのか！？

賞金減額阻止へ！（前書き）

ワグナーさん・ジエッペルスさん、感想有難う御座います！

評価も沢山^{たくさん}頂いて嬉しい限りです

賞金減額装置へと近付く、憑依された元スマブラメンバー達！

その運命は！？

賞金減額阻止へ！

残り40分までにお守りを使って、憑依された元スマブラメンバーを全員正気に戻さなければ、それ以降の賞金単価が10分の1の10円に減額されてしまう。

ヨッシー「誰もいない深夜だから、百鬼夜行に相応しいって事ですか？」
ひゃっきやこう ふさわ

カービィ「このミッションはやらないと！今まで頑張ってきた意味が無いもん！」

ゼルダ「行こう・・・！ダメダメ、賞金減ったら・・・！」

アイク「さっきも言った通り、絶対行かねえ・・・！そんな・・・映る映らないの問題じゃねえよ、こんなの・・・！」

スネーク「金が絡んでるミッションは、変に欲を出すと捕まる可能性が高くなるかな・・・動かん・・・！」

エリアには4体のハンター。ミッションに動けば、遭遇する危険も高まる。

ピカチュウ「一寸行ってみようかな・・・？」
ちよつと

ミッションに動く黄色いネズミ。彼が向かう先に・・・

ピカチュウ「あっ・・・！あれピチューとかじゃない？」

幽霊に憑依された元スマブラメンバー。ピカチュウは5人の許に駆け寄る。

ピカチュウ「うゝわゝっ！滅茶苦茶怖い！」

ゾンビ化した5人に慄くピカチュウ。

ピカチュウ「えっと・・・お守りは確か、保護管理センターだね？よしっ、急げ！」

フォックス「いるな、ハンター・・・！」

遠くにハンターを見つけたフォックス。近くにあった工学部棟1号館の中に身を潜める。

フォックス「早く向こう行け・・・！」

ネス「怖いよ・・・でも、行くっきゃない・・・！」

工学部棟2号館の近くにある脇道を使い、保護管理センターに近づくネス。しかし、そこにも・・・

ネス「いた・・・！いた・・・！」

ハンター・・・

ネス「何でいるんだよ・・・？これじゃあ、近付けないよ・・・！」

ウォッチ「モウ動ケナイデスヨ、1回隠レテシマウト・・・」

工学部棟駐車場から殆ど動いていないウォッチ。彼の視線の先には・
・

ウォッチ「アレ・・・元スマブラメンバーデスカ・・・？」

ゾンビ化した元スマブラメンバー。その近くに、ハンター・・・

ウォッチ「怖いデスネ、アノ容姿・・・ココカラ八離レタ方ガイ
イデスネ・・・」

そう言つて動いた瞬間、ハンターに見つかった・・・

ウォッチ「ギャアー！」

一目散に逃げるウォッチ。しかし、その距離は徐々に縮まってい
く。最早、逃走不可能・・・

ウォッチ「ガアッ！」 ポンッ

2ndステージ残り時間47分43秒 Mr.ゲーム&amp; ;
ウォッチ確保 残り12人

ウォッチ「アリヤリヤ・・・アノママ隠レテレバ良カッタデス・
・」

ブルル プルルルルル

アイク「うるせえな、いつもいつも・・・！」

ヨッシー「あつ・・・！」「工学部棟駐車場にてMr.ゲーム&amp;p.ウォッチ確保」・・・！」

ゼルダ「ウォッチまで捕まった・・・！」

ファルコン「これで1stステージからの生き残りは、俺とゼルダだけだな・・・」

ソニック「ヨッシャ」。着いたぜ」

ハンターの搜索を掻い潜り、保護管理センターに辿り着いたソニック。中に入ってお守りを手に入れようとする。しかし・・・

ソニック「ん？何でこんな大きな透明の箱に入ってるんだ？あれ・・・？あれ！？何だこれ！？開かねえぞ！？」

お守りを入れている箱が開かない。一体これはどういう事なのか。

すると彼は、箱の近くに1枚の紙が置かれているのに気付いた。

ソニック「Uh？」「このお守りを手に入れたければ、情報処理センターに置かれている鍵を使って箱を開けたまえ」・・・Huh！？情報処理センター！？一寸待てよ！情報処理センターって結構距離あるぞ！？」

お守りを保管している箱には錠前が掛けられていた。これを外す為には、情報処理センター内に置かれている鍵が必要となる。

ソニック「何だよそれ！？メールには書いてなかったじゃねえか！ふざけんなよ！でも、ここから行っても相当時間掛かるし・・・誰

か近くの人に頼むか・・・！」

ソニックは情報処理センターに向かう様に電話を掛けまくる事に。

ブルルルルル

フォックス「何だ、何だ、何だ・・・？ソニックから・・・！どうした？」

ソニック「フォックスか？ソニックだが・・・」

フォックス「何だよ？」

ソニック「今すぐ情報処理センターに向かってくれ」

フォックス「何でだよ？そんな所に用なんか無えだろ？」

ソニック「俺な、今保護管理センターに来てるんだが、お守りが箱の中に入ってて、その箱に鍵が掛かってるんだよ」

フォックス「何！？そんな事メールに書いてなかっただろ！？？」

ソニック「そうだろ？それで、その鍵が情報処理センターにあるって近くにあった紙に書いてあったから頼むぜ！」

フォックス「分かった！」

2人は電話を切った。

フォックス「有り得ねえだろ、メールに書いてない事をミッション

にするなんて・・・！」

ソニック「よしっ・・・！次は・・・」

ブルルルルル

ネス「何、何？あっ・・・ソニック・・・！はい、ネスだけど？」

ソニック「ネス？保護管理センターには来るな。情報処理センターに向かつてくれ」

ネス「えっ、何で？保護管理センターにお守りがあるんでしょ？」

ソニック「そうなんだけど、お守りが箱の中に入っで、その箱に鍵が掛かって、お守りが取れねんだよ」

ネス「ええ！？聞いてないよそんな事！」

ソニック「俺も保護管理センターに来て初めて分かったんだよ。いか、まずは情報処理センターで鍵を取れ。それからこっち来い。いいな？」

ネス「OK！」

2人は電話を切った。

ネス「酷い話だよ・・・！全部メールで教えてくれるのかと思ったら、そんな意地悪いじわるだったなんて・・・！」

ソニック「どんどん掛けねえと・・・！」

賞金減額まで 5分

そこへ、ピカチュウがやって来た。

ピカチュウ「あれ？ソニック、どうしてそんなに焦ってるの？」

ソニック「どうしてもこうしても無えよ！お守りが取れねえんだよ！」

ピカチュウ「ええ？何で？」

ソニック「Look！お守りが箱に入ってて、その箱に鍵が掛かってるんだよ！」

ピカチュウ「ええ！？じゃあ、ボクがここに来た意味は何！？」

ソニック「I don't know！兎に角、今俺は生きてる奴らに情報処理センターに向かう様に指示を出してるんだよ！」

ピカチュウ「ボクも手伝うよ！」

ソニック「ああ頼む！」

2人は情報処理センターに向かう様に指示を出す事に。

しかし、その近くに2体のハンター……

ピカチュウ「誰に掛けたらいい？」

ソニック「俺はさっきフォックスとネスに掛けた」

ピカチュウ「分かった」

ピーーーーー

そして、見つかった・・・

ピカチュウ「うわゝ!?!」

ソニック「うおゝ!?!」

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ソニック「Why!? 俺か!?!」

逃げ遅れたソニックだ・・・

ソニック「Oh no! 行き止まりだ!」

方向転換し、近くにある、現在は使われていない電話ボックスを使ってハンターを掻き回す。

そこへ、もう1体のハンター・・・

賞金減額まで 4分

ソニック「不味い! 完全にピンチだ!」

掻き回していたハンターを振り切り、逃げようとするソニック。し

かし、目の前に別のハンター。最早、逃走不可能・・・

ソニック「Nooooooooo!」 ポンッ

2ndステージ残り時間43分51秒 ソニック・ザ・ヘッジホッグ確保 残り11人

ソニック「2体相手かよ・・・!そりゃ無いぜ・・・!」

大本命、ここに散る・・・

プルル プルルルルル

ファルコ「何だよ、今度は・・・!?!」

ゼルダ「えっ・・・!?!」『第1体育館付近にてソニック・ザ・ヘッジホッグ確保』・・・!」

アイク「うわっ!本命捕まった!マジで!?!」

その頃、フォックスが情報処理センターに到着。

フォックス「この中に鍵があるのか?」

中に入り、鍵を探す。

フォックス「一寸待て・・・まさかこれじゃねえよな・・・?」
ちよつと

彼が見つけたのは、20本ほどの鍵の束。無論この中の1つが箱を開ける物だ。

フォックス「マジかよ・・・！開けてる間に絶対見つかるじゃねえかよ・・・！そんな事言ってる場合じゃねえ・・・！あと3分半だ・・・！急がねえと・・・！」

賞金減額まで 3分30秒

フォックス 鍵獲得

この鍵で箱を開け、中に入っているお守りで元スマブラメンバーを正気に戻さなければならぬ。

このままミッションをクリア出来なければ、1秒当たりの賞金が100円から10円になり、逃げ切った場合の賞金は84万円から6万4千円に減額されてしまう。

間に合うのか！？

賞金減額阻止へ！（後書き）

大本命も捕まり、波乱を迎える逃走中！

残る逃走者は、フォックス・ファルコ・マルス・アイク・ピカチュウ・ネス・ヨッシー・カービィ・スネーク・ゼルダ・ファルコンの
11人

迫るタイムリミット（前書き）

刻一刻と迫る賞金減額・・・

逃走者は無事、元スマブラメンバーを正気に戻せるのか!？

迫るタイムリミット

牢獄

デデデ「おつ。元大本命がやって来たぞい」

ソニック「はあゝ・・・最悪だぜ・・・」

マリオ「まあ、まあ・・・旅の話は牢獄の中で」

ソニック「屈辱だなゝ・・・」

入獄するハリネズミ。

ピット「残り人数が、全体の3分の1切っちゃったね」

リュカ「ハンター7体だった時から、捕まるペース早かったもんね」

ワリオ「こりゃあ、全滅有り得るかもなゝ・・・」

メタナイト「あんまり縁起でもない事を口にするんじゃない、ワリオ」

ワリオ「分かってるけどさ・・・」

ドンキー「でもさ・・・ホントに牢獄って、何もする事無いね」

デイディー「しょうがないよ・・・捕まったらそついう運命になるんだからさ・・・」

クツパ「しかし、1秒100円が10円と言うのは酷い話だな」

ソニック「それだけじゃねえぞ。何せ、お守りが取れなかったんだからな。箱の中に入れられて、尚なおか且つ鍵が掛かった訳だし・・・」

ルイージ「ええ！？酷過ぎじゃない！？」

ウォッチ「元スマブラメンバーモ、酷イ形相デシタヨ」

ロボット「ソレ、1番関係無い・・・」

漸く保護管理センターに辿り着いたカービィ。しかし彼は、お守りを手に入れる為に鍵が必要である事を知らない。

カービィ「着いた！あれ？誰もいない。ん？しかも何で箱が被かぶさってるの？あれ？あれ！？開かない！ええ！？」

やはり、予想だになかった事に少々取り乱している。

そこに忍び寄る黒い影・・・

賞金減額まで 3分

カービィ「ええ！？どうしたらいいの！？ホントにどうしたらいいの！？もう5人が目に見えるとこまで来てるし！ってギャー！」

見つかった・・・

ピーーーーーー

カービィ「止めてー！来ないでー！」

一目散に逃げるカービィ。彼が逃げる先にマルス・・・

マルス「あと3分切った・・・！これは行った方が・・・えっ・・・？カービィ？ハンターが後ろに・・・！？不味い！こっち来る！」

カービィに釣られてマルスも逃げる。しかし、彼が逃げる先にもハンター・・・

カービィ「嫌だ〜！いいや〜！」

マルス「大声出すなよ、カービィ・・・！余計見つかるだ・・・え？」

・ 曲がり角を曲がった先でハンターと鉢合わせ。最早、逃走不可能・・・

マルス「わぁー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間42分39秒 マルス確保 残り10人

マルス「鉢合わせ・・・！何でこうなるの〜？」

カービィ「ぎゃ〜！ひょえ〜！でゅお〜！」

尚も逃げ続けるカービィ。すると・・・

ポヨンッ

マルス「へ．．．？」

カービィ「あゝ．．．！」

賞金減額まで 2分30秒

逃げた先にいた、確保されたマルスの足元に激突し、そのまま工学部棟駐車場まで高く飛ばされてしまったのだ。

しかし、カービィを追い掛けていたハンターは、彼を見失った様だ。これこそが本当の塞翁^{さいおう}が馬．．．

カービィ「もうヤダゝ．．．！」

走り続けて、相当な体力を削ってしまったピンク玉。その場に倒れてしまった．．．

ゼルダ「えっ．．．！？あと2分．．．！？これじゃあ、間に合わない．．．！」

ファルコン「ヤバいな．．．！唯一の抜け道がハンターで塞^{ふさ}がれてる．．．！近付けねえ．．．！」

1stステージを逃げ切った2人。保護管理センターまでかなりの距離がある。更に、ハンターに行く手を阻まれ、思う様に近付けない。

その頃、情報処理センターに到着したネス。しかし、鍵はもうない。
ネス「あれ？鍵は？何処？」

賞金減額まで 2分

その鍵を持っているフォックス。漸く保護管理センターに到着。

フォックス「頼む・・・！ハンター来ないでくれ・・・！」

ハンターが来ない事を祈りながら、懸命に錠前の鍵穴に合う鍵を探
す狐。

ヨッシー「あれ・・・？カービィ？」

工学部棟駐車場に倒れているピンク玉を見つけた恐竜。

ヨッシー「いくら熱帯夜だからって、こんな所で寝てたら風邪引く
よ？」

カービィ「疲れたんだよ・・・！一寸は休ましてくれ・・・！」

寝言の様に不満を漏らすカービィ。

ヨッシー「もう・・・ハンター来ても知らないからね」

カービィを野放しにし、ミッションへ向かう。

ヨッシー「あつ、あの5人・・・！動きからも怖そうです・・・！
あつ・・・！あれが保護管理センターですね？」

賞金減額まで 1分30秒

ゾンビ化している元スマブラメンバーを横目に、ヨッシーは保護管理センターへ。そこでは、フォックスが懸命に鍵を探している。

フォックス「これでもねえ……！これも違う……！ヤバい……！
！こういう時こそ、落ち付け……！」

ヨッシー「フォックスさん！あれ？何してるんですか？」

フォックス「今……お守りを出そうとしてるんだが……鍵がどれ
れも合わなくて……！ハンター来るかも知れねえし……！」

ヨッシー「じゃあボク、この辺で見張ってますね？」

フォックス「ああ、頼む……！」

アイク「誰も動いてねえのか？ヤダな、1秒10円になったら……
・！」

スネーク「こういう時こそ、君子危うきに近寄らずという言葉が似
合うな……！」

ミッションに動かない2人。不安げなアイクとは裏腹に、スネーク
は何処か満足げだ。

賞金減額まで 1分

フォックス「開いた！」

漸く錠前が外された。フォックスは透明な箱を開け、中のお守りを取り出す。

フォックス「ヨッシー！お前も手伝ってくれ！」

ヨッシー「分かりました！でも・・・どうやって正気に戻すんですか？」

フォックス「分からねえ・・・！何処かに使い方が書いてある筈なんだが・・・！ん・・・？」

フォックスの目に留まったのは、ソニックが手にしていた1枚の紙。その裏面に・・・

フォックス「あつた！これだ！」

ヨッシー「ホントですか！？」

2人はその使用方法を読む。

5人を正気に戻すには、それぞれの背中に専用のお守りを貼り付け、背中を開く様に腕を動かし、霊の逃げ道を作ってやらなければならない。

賞金減額まで 30秒

フォックス「急ぐぞ！もう目の前まで来てるし！」

ヨッシー「了解です！」

2人はお守りを持って5人に近付く。

そして、まずフォックスはロイの、ヨッシーはピチューの身体から霊を逃がす。

賞金減額まで 20秒

次に、フォックスはドクターマリオの、ヨッシーは子供リンクの身体から霊を逃がす。

賞金減額まで 10秒

最後に、フォックスがミュウツールの身体から霊を逃がした。

ミッションクリア

5人の動きが止まった・・・

フォックス「ヨッシャ！止めた！」

ヨッシー「これは大きいですね！」

すると、5人は目覚めた様に辺りを見渡す。

ロイ「あれ・・・？お・・・俺達是一体・・・？」

子供リンク「ここ何処・・・？」

ミュウツール「全く見覚えが無い所だ・・・」

フォックス「正気に戻った様だな」

ピチュー「フォックスしゃん・・・！」

ドクターマリオ「ヨッシーまで・・・」

ロイ「どういう事だよ、『正気に戻った』って・・・？」

ヨッシー「皆さん、悪霊に取り憑かれてたんですよ？」

ピチュー「そ・・・そうなんでしゅか!？」

子供リンク「全然覚えてない・・・」

フォックス「無理もねえな・・・まあ兎に角、皆戻ったんだ。良かったじゃねえか」

ミュウツー「それもそうだな・・・」

ドクターマリオ「それじゃあ・・・私達は帰らしてもらおう・・・」

ロイ「そうだな・・・帰るか」

子供リンク「帰りましょう」

ミュウツー「そうさせてもらおう・・・」

ピチュー「帰るでしゅー!」

そして5人は、大学キャンパスを後にした・・・

プルル プルルルルル

ネス「メールだ・・・！ミッション5結果・・・！」

ファルコン「『フォックス・マクラウド、ヨッシーの活躍により賞金減額阻止成功』・・・！ヨッシャ・・・！」

ファルコ「止めたか・・・！やるな、フォックスも・・・！」

ピカチュウ「ヨッシーすごいね。ところで、カービィは？さっき近くにいた筈^{はず}んだけど・・・」

カービィ「はあ・・・ぶつかった所が痛い・・・」

まだ倒れていた・・・

しかし・・・そんな逃走者の姿を、建物の屋上から見下ろす無数のハンター・・・

彼等の目的とは・・・！？

迫るタイムリミット（後書き）

建物の屋上に現れた無数のハンター・・・

その正体とは！？

それは、次回明らかとなるだろう！

ミッション6発動！（前書き）

残る逃走者は、フォックス・ファルコ・アイク・ピカチュウ・ネス・ヨッシー・カービィ・スネーク・ゼルダ・ファルコンの10人

あと33分逃げ切れば、賞金84万円を獲得できる！

しかし、それを阻む驚異のミッションが・・・！？

ミッション6発動！

工学部棟2号館の螺旋階段らせんの陰に隠れるクールな青年。

アイク「残り時間32分20秒で・・・64万6千円！？ヤベエ・・・！これ、自首もありだな・・・！」

思いがけない大金に、自首へと心が揺れる。

北門か西門に掛かっているダイヤルキーを外して門を開け、エリア外へ脱出すれば自首が成立。その時点までの賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

ヨッシー「これからも、まだミッションあるんですかね？」

ゲームも後半となり、不安を募らせる恐竜。

彼の視線の先に、自称・疫病神のファルコン・・・

ヨッシー「ファルコンさんですね、あれは。一寸話ちよつとし掛けてみましょうかね？」

ファルコン「げっ・・・！ヨッシーがこっち来る・・・！逃げねえと・・・！」

これ以上巻き添えを増やしたくないレーサー。逃げる様にヨッシーから離れる。

ヨッシー「あれ・・・？どうしたんでしょうかね？」

ファルコン「もう嫌だ・・・！これ以上誰かを犠牲にして生きていたくねえ・・・っ！」

彼が向かった先に、何故か待っていたぞと言わんばかりに仁王立ちするファルコの姿・・・

ファルコ「また誰かを犠牲にしたくない故に、現実から逃げるつもりか？『疫病神』さんよ」

ファルコン「お・・・お前・・・何故それを・・・！」

ファルコ「さつき牢獄の奴らから聞いたぜ。お前、4人を巻き添えにしたらしいな？」

ファルコン「・・・」

ファルコ「だが安心しろ。奴らは、お前の事を恨んじやいねえ」

ファルコン「・・・？」

ファルコ「寧ろ心配してたぜ。お前がこのまま、精神的に病んじまうんじやねえかってな」

ファルコン「お前・・・」

ファルコ「だから、もう卑屈になるのは止める。皆、お前のやる気に満ちた顔を待ってるんだからよ！」

ファルコン「ファルコ・・・悪いな何か・・・情けねえ姿を曝しち

まっ たみたいで・・・」

ファルコ「何、大した事じゃねえよ。じゃっ、頑張れよ」

そう一言残し、ファルコは去っていく。まるで、何かの感動ドラマの様だ・・・

ファルコン「そう言えば・・・あいつ、結構長え事話してたのに・・・ハンターが来てねえ・・・」

疫病神のレッテルが剥^はがれるのは、目前か。

工学部棟4号館の長椅子の下に潜み続けるスネーク。

スネーク「果報は寝て待て・・・ここにいれば、ハンターも気付くまい・・・このままで逃げ切つてやる・・・!」

動く気は無い様だ。

カービィ「はゝあ、スッキリした」

漸^{おそ}く立ち上がるカービィ。

カービィ「今いくらだろう・・・? あっ! もう一寸^{ちよつと}で66万円だ! もう十分だ! もういい! 自首しよう!」

近くに北門がある為、自首へと動くピンク玉。

しかし、その近くにハンター・・・

カービィ「でも、ダイヤルキーなんだよね？番号が分からないからな．．．」

見通しのいい、北門へと繋がる道に足を踏み入れたカービィ。

ハンターに見つかった．．．

．．．が、カービィは気付かない．．．

カービィ「もう少し．．．もう少し．．．」

自首しか頭に無くなり、背後が隙だらけ。最早、逃走不可能．．

カービィ「へっ？」 ポンッ

2ndステージ残り時間30分6秒 カービィ確保 残り9人

カービィ「．．．」

コテンッ コロッン コロッン

あまりにも突然の出来事に、声も出ず頭は真っ白．．．そして、そのまま失神．．．

ネス「『北門付近にてカービィ確保』．．．」

フォックス「あいつやっぱり馬鹿だ．．．！自首しか考えてなかったから、意表を突かれたんだ．．．！」

ゼルダ「もうここまで来たら、やっぱり最後まで逃げ切りたい．．

！逃げ切って、女でも出来るんだってところを・・・運動がそんなに出来なくても、逃げ切れるんだって事を証明したい・・・！」

これまで、全てのミSSIONに積極的に参加してきた唯一の女性逃走者。狙うは、逃げ切りのみ。

一方、こちらの根性無しの男は・・・

アイク「70万円・・・！最低でも70万円までは頑張ってみるかな・・・？」

目標金額が定まらない・・・

ファルコン「絶対逃げ切る・・・！もうこれまでの事とか、全部リセットだ・・・！心を入れ替えて・・・今までの卑屈な自分とはもうおさらばだ・・・！」

ファルコに励まされ、身体を奮い立たせるファルコン。

しかし、そこへ近付く黒い影・・・

ファルコン「もう大丈夫だ・・・！よしっ・・・！ん・・・？来たな、ハンター・・・！」

見つかった・・・

ファルコン「絶対捕まらねえぞ・・・！」

一目散に逃げるファルコン。しかし、逃げた先にもう1体・・・

ファルコン「うわっ！こっちからも来やがった・・・！」

挟まれた・・・

2体のハンターに追われるレーサー。逃げ切れるのか。

ピーーーーーー

ファルコン「この脇道だ！」

近くにあった脇道を利用し、更に逃げる。

しかし・・・逃げた先に別のハンター・・・

そのハンターと出会い頭に。最早、逃走不可能・・・

ファルコン「わぁー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間27分20秒 キャプテン・ファルコン
確保 残り8人

ファルコン「くっそー！マジかよー！？」

ファルコン、疫病神のレッテルが完全に剥はがれる事は無かった・・・

ヨッシー「また確保情報です・・・！」『第1体育館付近にてキャプテン・ファルコン確保』・・・！」

ファルコン「嘘だろ・・・！？ファルコン捕まっちゃった・・・！」

ピカチュウ「あの速いファルコンが．．．！絶対にボク達ピンチだ．．．！」

ゼルダ「とうとう、1stステージからの生き残りが私だけに．．．サムス．．．ウォッチ．．．ファルコン．．．そして、1stステージで捕まった皆．．．待ってて．．．！あなた達の分も絶対逃げ切るから．．．！」

牢獄

レッド「『キャプテン・ファルコン確保』！」

全員「ええ〜!?」

マリオ「捕まったのかよ、ファルコン．．．！」

ガノンドロフ「もう少し頑張れよ．．．！」

ルイーダ「これで、南エリアの人達は全員捕まったのかな？」

サムス「いえ、まだゼルダが残ってるわ！彼女1人だけ！」

メタナイト「1人!?」

オリマー「すごいですよ、女性でここまで残れるなんて！」

ピット「うわ〜、逃げ切ってほしい！」

ウォッチ「私モソウ思イマス・・・！」

リュカ「でも、ネスも残ってるよ？」

ウルフ「フォックスとファルコもだ・・・！」

プリン「ピカチュウしゃんも残ってるでしゅ！」

ドンキー「ヨッシーもしぶとく残ってる・・・！」

クッパ「もうこうなったら、全員逃げ切ってほしいな！」

スネーク「さて・・・ハンターも追い込み掛けてきそうだな・・・
69万円行ってるしな・・・」

ブルル　ブルルルルル

スネーク「ん・・・？メールか・・・？」

アイク「来た・・・ミッション6・・・」

ファルコ「『現在、エリア内の進入可能な建物全ての屋上に』・・・

」

ネス「『ハンターが10体ずつ、合計80体』・・・は、は、は・・・
・はち・・・はちじゅ・・・80体！？」

ヨッシー「『80体のハンターが待機しており、残り10分になる

とエレベータを通じて、エリアに1体ずつ放出され続ける』・・・続ける!？」

ピカチュウ「『阻止するには、それぞれの建物の前にある高圧電流発生装置に、逃走者3人分の手形を同時に認証させ、エレベータを停止させなければならない』・・・」

ゼルダ「『但し、認証させる3人の組み合わせは、全て異なっていなければならない』・・・」

フォックス「『急ぎたまえ!』・・・きつくねえか、このミッション・・・?」

MISSION? ハンターエレベータを停止せよ!

現在、エリア内の進入可能な建物全ての屋上にハンターが10体ずつ、合計80体が待機している。残り10分になると、それぞれの建物のエレベータからハンターを1体、最大8体ずつエリアへ放出する。その後、それぞれの建物から1分に1体ずつハンターを放出ゲーム終了までそれは続く。ハンター放出を阻止するには、それぞれの建物の前に置かれた高圧電流発生装置に、逃走者3人分の手形を同時に認証させて停電を発生させ、エレベータを止めなければならない。但し、それぞれの装置に認証させる3人の逃走者の組み合わせは、全て違っていなければならない。

アイク「そのエレベータから、ハンターが出てくるのか!? ヤベエ! 捕まる! 外出ねえと!」

スネーク「建物内は危険って事か・・・! 出るしかないな・・・!」

隠れていた2人も、危険を察知して建物を去る。

エリアには4体のハンター。ミッションをクリア出来なければ、その数は最大84体が増えてしまう。

ハンターエレベータを止める事は出来るのか！？

ミッション6発動！（後書き）

残る逃走者は、フォックス・ファルコ・アイク・ピカチュウ・ネス・ヨッシー・スネーク・ゼルダの8人

ハンター大量放出ミッションが発動！

残された逃走者は、次回どう動く！？

逃走者に迫る最大のピンチ！（前書き）

ハンター80体投入の危機！

逃走者達は乗り越えられるのか！？

逃走者に迫る最大のピンチ！

残り10分になると、エリア内の進入可能な建物内のエレベータから、ハンターが1体ずつ放出。最大80体がエリアへ解き放たれてしまう。それを防ぐ為には、高圧電流発生装置に、逃走者3人が手形を同時に認証させなければならない。

フォックス「こんなのやるに決まってるだろ？80体とかシャレになんねえぞ？4体でも辛いのに・・・80体も出て来られたら、完全に終わりだよ・・・！」

ヨッシー「やりましょう・・・！被害はなるべく少なくしておかないと・・・！」

スネーク「80体も出て来られたら、隠れていても無駄だし・・・やるしかないな・・・！」

ピカチュウ「やる、やる・・・！こんなのやらないって言う方がおかしいじゃん・・・！」

アイク「誰かやるに決まってるだろ？俺1人がやらなくったって、別に支障は無い訳だし・・・」

殆どの者がミッシェンほとんに向かう中、動かないのはやはりアイク。

およそ13分後、最初のハンターがエリアに解き放たれる。

ネス「とりあえず、誰か探さないと。3人必要みたいだから・・・」

他の逃走者を探す超能力少年。

ネス「電話してみようかな？」

ブルルルルル

ピカチュウ「あつ、電話だ・・・！ネスから・・・もしもし？」

ネス「もしもし、ピカチュウ？ネスだけど・・・今どの辺？」

ピカチュウ「今ね・・・農学部棟4号館の近くにいるんだけど・・・」

「

ネス「農学部棟4号館・・・ああ、一寸遠いなちよっと・・・」

ピカチュウ「ネスは何処なの？」

ネス「ボクはね、工学部棟1号館の方なんだよ」

ピカチュウ「なるほどね・・・じゃあ、お互い近くの人を呼び合おう」

ネス「そうだね。それじゃ」

2人は電話を切った。

ネス「誰か近くにいないのかな？」

フォックス「人数が8人だから・・・ダブらない3人の組み合わせは56通り・・・でも捕まっていたら、どんどん少なくなるし・・・」

急がねえと・・・」

プルルルルル

フォックス「ん・・・？誰だ・・・？ファルコか・・・！はいよ」

ファルコ「フォックス。今何処だ？」

フォックス「今な、工学部棟3号館と4号館の間の道にいたんだが・・・」

ファルコ「おお近え、近え。じゃあ、俺そっち行くわ」

フォックス「おお。頼むぞ」

2人は電話を切った。

フォックス「これで2人は確保したな・・・あと1人・・・」

ピカチュウ「誰か近くにいないのかな？ん・・・？あれ誰？」

ピカチュウの視界に、1つの人影・・・

ヨッシー「この辺、1番来にくい場所だから早めにやっとかないと・・・」

ヨッシーだ・・・

ピカチュウ「ヨッシー・・・！こっち、こっち・・・！」

ヨッシー「あつ、いましたね・・・！」

ネズミと恐竜が合流。

ピカチュウ「良かった、近くにいて・・・！」

ヨッシー「でも、あと1人必要なんでしょ？」

ピカチュウ「そう、そう。誰がいるかな、近くに？」

2人はもう1人の逃走者を探す。

フォックス「来たな・・・！」

狐きつねと青雉あおきじも合流に成功。

ファルコ「おい。合流したのはいいが、あと1人どうするんだ？」

フォックス「それが問題なんだよ・・・誰か近くにいなえのかな？」

スネーク「そこで何してるんだ？獣の2人組」

そこへ、スネークが通り掛かる。

フォックス「おつ、スネーク！良かった・・・！」

ファルコ「これで役者は揃そろったな」

フォックス「ああ。それで、この装置に手を置けばいいんだな？しかも同時に」

スネーク「そうみたいだな」

フォックス・ファルコ・スネーク「せーの・・・」

3人は、工学部棟4号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。
認証にはおよそ7秒掛かる。

工学部棟4号館 認証成功

10体のハンター放出は免れた。

ファルコ「ヨッシャ！」

スネーク「この後どうするんだ？もう、この3人では認証できないんだろ？」

ファルコ「そうだよな？」

フォックス「じゃあ、お前らは2人で、俺は1人で行動する。3人集まり次第認証って事で」

ファルコ「気を付けろよ。捕まるんじゃないぞ」

フォックス「言ってくれるじゃないか。そっちもな！」

3人は別行動に移る。

あと1人の逃走者を探すピカチュウとヨッシー。

ヨッシー「ダメ？」

ピカチュウ「アイクはやらないって。どうしよう？」

そこへ通り掛かった、1人の女・・・

ゼルダ「あそこに2人いるかしら・・・？」

ゼルダだ・・・

ピカチュウ「あっ・・・あれそうじゃない？」

ヨッシー「えっ？ホントだ・・・！」

2人は手を振って、ゼルダに居場所を教える。

ゼルダ「あっ・・・！いる、いる・・・！」

ピカチュウ「良かった・・・！」

ヨッシー「じゃあ、認証させましょう」

ピカチュウ・ヨッシー・ゼルダ「せーの・・・」

3人は、工学部棟4号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

農学部棟4号館 認証成功

20体のハンター放出を免れた。

ピカチュウ「どうする、これから？」

ゼルダ「もう1人呼べれば、あと3通りの組み合わせが出来るから、農学部棟が一掃出来るわ」

ヨッシー「じゃあ、誰か呼んでみますね？」

その頃、一緒に行動するファルコとスネーク。

その向かう先に、工学部棟1号館前でほかの逃走者を探しているネスの姿・・・

スネーク「おい、誰がいるぞ？」

ファルコ「ハンターか？」

ネス「ん・・・？あつ、いた・・・！おい・・・！」

スネーク「ネスだ・・・！」

3人が合流。

しかし、その近くにハンター・・・

ファルコ「早く認証させるぞ！」

ファルコ・ネス・スネーク「せーの・・・」

3人は、工学部棟1号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

工学部棟1号館 認証成功

ピーーーーーー

しかし、認証し終わった直後に見つかった・・・

ファルコ「おい！来たぞ、ハンター！」

一目散に逃げる3人。ハンターに追われ、3人はバラバラに・・・

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーーー

ネス「来たー！」

ネスだ・・・

ネス「うわー！」

逃げ続けるネス。しかし、その距離は徐々に無くなっていく。最早、逃走不可能・・・

ネス「あうー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間16分1秒 ネス確保 残り7人

ネス「最悪だ・・・！あんな所から追い掛けて来た・・・！全然気付かなかった・・・」

ブルル　ブルルルルル

アイク「え．．．？誰か捕まったのか？」

フォックス「『工学部棟1号館付近にてネス確保、残り7人』．．．
うわあ、ネス捕まった．．．！」

離れてしまった2人。

ファルコ「ヤベエ．．．！スネークの野郎、何処行きやがった．．．
！？」

スネーク「不味い．．．！逸^{はぐ}れた．．．！早く合流せねば．．．！」

もう1人探し、農学部棟一掃を狙う3人。

ヨッシー「誰か来てくれないんでしょうか？」

ゼルダ「いればいいけど．．．」

ピカチュウ「近くに人影が無いもんね．．．」

そこに近付く黒い影．．．

ゼルダ「ん．．．？2人とも逃げるわよ．．．！」

ピカチュウ・ヨッシー「え．．．？」

見つかった．．．

ピカチュウ・ヨッシー「わっ！」

別方向へと逃げる3人。ハンターが狙いを定めたのは・・・

ピーーーーーー

ヨッシー「何でこっちに来るんですかー!?」

ヨッシーだ・・・

逃げる先にフォックスの姿・・・

フォックス「ヤベエ・・・！あと5分ぐらいじゃねえか・・・っ！
ヨッシー、何でハンター引き連れて来るんだ!?」

釣られて逃げる狐きつね。

ピーーーーーー

ヨッシー「ひえっっ！」

一目散に逃げるヨッシー。しかし、その差がどんどん無くなっていく。最早、逃走不可能・・・

ヨッシー「ぎゃぴー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間15分10秒 ヨッシー確保 残り6人

ヨッシー「あゝ、何でこうなるんですかー？」

フォックス「ヤベエ・・・！ヨッシー、目の前で捕まった・・・！
どうすんだよ・・・！？」

1体目ハンター放出まで 5分

ピカチュウ「ヨッシーが捕まった・・・！どうしよう・・・！？ど
んどん減ってる・・・！」

スネーク「絶体絶命だな・・・！」

アイク「不味いんじゃないか、これ・・・？」

現在、ハンターエレベータを停止出来ない建物は5つ。このま
までは、残り10分に5体のハンターが放出され、その数は9体に
増えてしまう。

残る逃走者は、フォックス・ファルコ・アイク・ピカチュウ・スネ
ーク・ゼルダの6人。ハンターエレベータを止める事は出来るのか
！？

逃走者に迫る最大のピンチ！（後書き）

次回、運命の残り10分に突入！

ハンター放出を阻止し、生き残る事は出来るのか！？

これから実家に帰省する為、更新が滞ります。とっくお

ご了承ください

ハンター放出！？（前書き）

長らくお待たせしました！

漸くようや休暇が出来たため、更新します！

但し、ただ休暇は今日と明日だけなので、その間に完結出来る様に頑張ります！

残る逃走者達は、ハンターエレベータを止め、大量ハンターの放出を防ぐ事が出来るのか！？

ハンター放出！？

ピカチュウ「どうしよう．．．！？ヨッシーも捕まっちゃったし、ゼルダとも逸れちゃったし、近くに誰もいないし．．．」

他の逃走者と合流出来ず、慌てふためく黄色のネズミ。

フォックス「ちくしょう．．．！何処なんだよ、封鎖出来てねえ建物は．．．！？それ以前に、他の奴ら何処にいるんだよ．．．！？」

こちらにも、逃走者と出会えない狐^{きつね}。

ファルコ「スネークの野郎．．．何処行きやがった．．．！？早く合流しねえと．．．！電話だ．．．！電話で呼び寄せるか．．．！」

ブルルルルル

スネーク「電話か．．．？ファルコ．．．！スネークだ．．．！」

ファルコ「おい、スネーク．．．！お前今何処にいるんだよ．．．！？」

スネーク「俺は今、北食堂の近くだ．．．そっちは何処にいる？」

ファルコ「俺は．．．第1体育館だ．．．かなり離れちゃったか．．．」

スネーク「不味いな．．．あと4分ほどしかない．．．お互い他の奴らを探すか」

ファルコ「それしか無さそうだな・・・じゃあな」

2人は電話を切った。

ファルコ「ちくしょう・・・あの時ハンターに見つからなければ、少しは楽にミッションを遂行出来てたのにな・・・」

顔を顰める青雩。
しかあおきじ

1体目ハンター放出まで 4分

その近くに、2体のハンター・・・

ファルコ「とりあえず、手当たり次第合流していかねえと・・・ん・・・？あれハンターだな・・・？ヤベエ、来てる・・・！」

見つかった・・・

ファルコ「捕まってたまるか！」

一目散に逃げるファルコ。茂みを利用し、ハンターの視界から消えた様だ。

ファルコ「うじゃうじゃいるな・・・迂闊に動けねえよ、これ・・・！」

しかし・・・近くにいた別のハンターに見つかった・・・

ファルコ「くそ、マジかよ!？」

一目散に逃げるファルコ。しかし、彼が逃げた先は・・・

ファルコ「おい待て！何だこれ！？北門だ！自首の所じゃねえかよ！嘘だろ！？行き止まりかよ！」

北門に逃げ込んでしまった^{おおきじ}青雩。ダイヤルキーを解除する番号など分かる筈もなく、事実上の行き止まりに追い込まれた。最早、逃走不可能・・・

ファルコ「があゝ！」 ポンツ

2ndステージ残り時間13分8秒 ファルコ・ランバルディ確保
残り5人

ファルコ「最悪過ぎだ・・・！何だよこれー！？」

1体目ハンター放出まで 3分

アイク「『ファルコ・ランバルディ確保』！？嘘だろ！？『残り5人』って・・・！」

ゼルダ「ホントに絶体絶命ね・・・！」

スネーク「ん・・・？誰だ、あれは・・・？」

スネークが誰かを見つけた。

ピカチュウ「誰かいないのかな？」

ピカチュウだ・・・

スネーク「おい・・・！ピカチュウ・・・！」

ピカチュウ「吃驚^{びっくり}した・・・！スネークか・・・」

そこへ、フォックスも合流。

フォックス「おつ、スネークいるな・・・」

ピカチュウ「あつ、フォックス君」

フォックス「おおピカチュウ」

スネーク「この3人の組み合わせでは、認証はしてないよな？」

フォックス「まだしてねえな」

ピカチュウ「じゃあ、早く探そうよ。時間無いよ？」

スネーク「そうだな。しかし、何処へ行けばいいのだろうか・・・？」

フォックス「おい2人とも！工学部棟3号館、まだ止まってねえみたいだぞ！」

ピカチュウ「いい所にあつたね！」

スネーク「よしっ！」

3人は、工学部棟3号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

工学部棟3号館 認証成功

1体目ハンター放出まで 2分

40体のハンター放出を免れた。

そこへ、ゼルダが現れた。

ゼルダ「認証した？」

ピカチュウ「今したよ！」

フォックス「4人いれば、あと3つは止められるな」

スネーク「工学部棟1号館は、ファルコとネスと共に既に終わらせた」

フォックス「工学部棟4号館も終わったな、確か」

ゼルダ「私は農学部棟4号館を、ピカチュウとヨッシーとで終わらせたわ」

ピカチュウ「農学部の方に行こうよ。あっち、まだ4号館しか認証出来てない筈だよ？」

スネーク「行くしかないな」

1体目ハンター放出まで 1分30秒

ゼルダ「でもハンターには注意しないと。あそこに結構固まってるのよ」

フォックス「そうか。でも行かなかったらハンターが増え続けて、いずれは全滅だ。そうならない為にも、意を決して行くしかねえよ！」

ピカチュウ「そうだね」

スネーク「よしっ……！行くぞ！」

4人は農学部棟のハンターエレベータを停止させに向かう。

一方、この男は……

アイク「1体は仕方ないかもな……でも、残ってる人達で何とかするだろ。俺は絶対やらねえ……！何体が増えようが、生き延びてやる……！」

生き残る事しか考えていないクールな青年。逃走者が減っても、ミッシヨンに参加する気は無さそうだ……

農学部棟を目指す4人。

その近くにハンター……

フォックス「おい、ハンターいたぞ……！」

ピカチュウ「嘘……！？」

4人は二手に分かれて逃げる。しかし、ハンターは気付いていない様だ。

フォックス「ヤベエ・・・！2人になっちまったよ・・・！」

ゼルダ「早く呼び寄せないと・・・！」

離れてしまった狐きつねと姫。

スネーク「あんな所にいるとはな・・・」

ピカチュウ「狡ずるいよ、ハンター・・・！」

そして、隠密潜入のエキスパートと黄色いネズミ。

1体目ハンター放出まで 1分

アイク「あと1分切った・・・！誰も止めてねえのか・・・！？」

残り1分を切っても、動こうとしないアイク。

ゼルダ「私達だけでも先回りした方が・・・」

フォックス「ダメだ・・・！万が一間に合わなかったら、確実に捕まる・・・！」

彼の言う通り、建物の前まで行きハンターエレベータを停止できなければ、放出直後のハンターの餌食となる。

ゼルダ「でもこのままじゃ・・・！」

フォックス「分かってる・・・！だが悔しいけど、最初のハンターには間に合いそうにない・・・」

ゼルダ「そんな・・・！」

ピカチュウ「どうしよう・・・あと40秒切ったよ・・・？」

スネーク「最初は仕方ないな・・・10分を切ってから合流するしか無さそうだな・・・」

1体目ハンター放出まで 30秒

ピカチュウ「でも、出来るだけ建物には近付いとかないと・・・！」

スネーク「それもそうだな・・・」

フォックス「ちくしょう・・・！せめてアイクも参加してくれれば・・・！」

ゼルダ「えっ・・・？」

1体目ハンター放出まで 20秒

フォックス「アイツ、本物のビビリだよ・・・！俺が諭さとしても、ちつとも動こうとしなかったし・・・」

ゼルダ「酷いわね・・・男のくせして・・・！」

フォックス「仕方ねえな。建物から出てきたハンターが離れていくのをみたら、一気に建物の前に行くぞ。いいな？」

ゼルダ「OK・・・！」

1体目ハンター放出まで 10秒

ピカチュウ「厳しくなるね・・・！」

スネーク「ああ・・・だが逃げ切るまでだ・・・！」

ピカチュウ「うん・・・！」

そして、この時点で手形が認証されていない工学部棟2号館・農学部棟1～3号館のハンターエレベータから1体目のハンターが放出。合計4体が放出され、その数は8体となった。

ゼルダ「ハンターが離れていくわ・・・！」

フォックス「よしっ、行くぞ！」

2人は一目散に農学部棟1号館へ向かう。

その姿を見たスネークとピカチュウも動き出す。

ピカチュウ「1号館！1号館の方だ！」

スネーク「急げ！あと50秒で2体目が出てくるぞ！」

そして4人が合流し、農学部棟1号館前に到着。

2体目ハンター放出まで 30秒

フォックス「俺がハンター見てるから、3人で認証しろ・・・！」

ピカチュウ・スネーク・ゼルダ「せーの・・・」

3人は、農学部棟1号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

2体目ハンター放出まで 20秒

農学部棟1号館 認証成功

ピカチュウ「認証したよ！」

スネーク「このまま2号館行くか？」

ゼルダ「無理そうね。あと15秒よ？」

フォックス「2号館近くの茂みに隠れよう」

3人はフォックスの提案に合意し、近くの茂みに身を隠す。

そして、この時点で手形が認証されていない工学部棟2号館・農学部棟2号館3号館のハンターエレベータから2体目のハンターが放出。合計3体が放出され、その数は11体となった。

ピカチュウ「ハンターいなくなった・・・！」

ピカチュウの合図と同時に、4人は農学部棟2号館前へ。

ピカチュウ「次はボクが見とくよ」

フォックス・スネーク・ゼルダ「せーの・・・」

3人は、農学部棟2号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

3体目ハンター放出まで 40秒

農学部棟2号館 認証成功

ピカチュウ「ハンター来たよ!」

ピカチュウが、遠くにハンターを見つけた。

フォックス「くそっ・・・!こんな時に・・・!」

一目散に逃げる4人。ハンターに追われ、4人の距離が離れていく。

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーー

スネーク「俺かー!?!」

スネークだ・・・

3体目ハンター放出まで 30秒

スネーク「来るな!来るんじゃないえー!」

一目散に逃げるスネーク。しかし、ハンターとの距離が徐々に詰められていく。最早、逃走不可能・・・

スネーク「ぐうおおー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間8分22秒 スネーク確保 残り4人

スネーク「逃げ切れなかった・・・くそ・・・はあ・・・草臥くたひれた・・・」

力尽きた隠密潜入のエキスパート・・・

ブルル プルルルルル

アイク「また確保か・・・？」

ゼルダ「スネークが捕まった・・・！」

フォックス「どうすんだよ・・・？あと4人しかいねえって・・・！」

ピカチュウ「このままじゃ、ホントに全滅だよ・・・！」

そして、この時点で手形が認証されていない工学部棟2号館・農学部棟3号館のハンターエレベータから3体目のハンターが放出。合計2体が放出され、その数は13体となった。

残された逃走者に、逃げ場は殆どほとんどない・・・ゲーム終了まで8分を切った。

生き残れるのか!?

ハンター放出！？（後書き）

次回、遂に最終回！

13体まで増えたハンター！

そして、4人の逃走者に待ち受ける衝撃的な結末とは！？

生き残るのは誰だ！？

ゲーム終了！（前書き）

遂に迎えた最終回！

現在生き残っている逃走者は、フォックス・アイク・ピカチュウ・ゼルダの4人

エリアには13体のハンター

この圧倒的不利な状況で生き残れる者は現れるのか！？

ゲーム終了！

フォックス「ハンターいるじゃねえかよ．．．！」

農学部棟3号館の近くの茂みに身を隠している狐^{きつね}。しかし、近くに3体のハンターを見つけ、思う様に近付く事が出来ない。

ピカチュウ「早くどっか行つてよ、ハンター．．．！」

ゼルダ「全然退かないじゃない．．．！」

2人も建物に近づけず、不安を募^{つの}らせる。

4体目ハンター放出まで 30秒

アイク「まだエレベータ止まってないのか．．．？」

ミッション成功をただ祈り続けているクールな青年。

アイク「何処が止められてないのか、メールで教えてくれてもいいんじゃないか？全然メール来ねえぞ？」

4体目ハンター放出まで 20秒

ピカチュウ「早くしないと、また放出されちゃう．．．！でも、ハンター多過ぎて全然動けない．．．！」

ゼルダ「諦めたくないけど．．．こんなに多くちゃ行き辛い．．．！」

4体目ハンター放出まで 10秒

フォックス「くそ……！このまま俺達は、ただハンターが放出され続けるのを見てる事しか出来ねえのかよ……？」

はがゆ
歯痒くなる3人。

そして、4体目のハンターが放出。更に2体増え、その数は15体に。

牢獄

オリマー「まだ全部止まってないんでしょうか？」

ネス「止まってないかも……」

ファルコン「向こうに4体いたしな」

ガノンドロフ「10体以上になってるんじゃないのか？」

プリン「だとしたら、ホントに不味いでしゅ！」

ワリオ「ヤバイ……！俺様の予言が当たってしまうのか……？」

マルス「全滅にはなってほしくないな……！」

ピット「誰かには生き残ってほしい！」

ルイーダ「そうだよね」

ウォッチ「何トシテデモ残ッテホシイデス・・・！」

ウルフ「誰でもいいから逃げ切れ！絶対だぞ！」

フォックス「おい・・・！ピカチュウ・・・！ゼルダ・・・！早く来い・・・！」

ハンターを警戒し、農学部棟3号館前に2人を呼び寄せるフォックス。それに気づき、2人も警戒しながらフォックスの許へ。もと

フォックス「早く認証を・・・！」

ゼルダ「分かってる・・・！」

5体目ハンター放出まで 30秒

フォックス・ピカチュウ・ゼルダ「せーの・・・」

3人は、農学部棟3号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

しかし、近くにハンター・・・

農学部棟3号館 認証成功

フォックス「OK・・・！」

ゼルダ「もうこれが限界ね・・・」

ピカチュウ「そうかもしれない・・・あっ！ハンターだ！」

ゼルダ「嘘でしょ！？」

フォックス「やっぱりハンター多過ぎるぜ！」

見つかった・・・

一目散に逃げる3人。

5体目ハンター放出まで 20秒

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーー

ピカチュウ「こっちに来た！うわぁー！」

ピカチュウだ・・・

逃げ続けるピカチュウ。何と言う事か、ハンターを振り切ってしまった。

ピカチュウ「しんどい・・・！きつ過ぎるよ・・・！」

しかし、別のハンターに見つかった・・・

ピカチュウ「うわっ！また来た！」

一目散に逃げるピカチュウ。

逃走者にとって、最早この大学キャンパスに安息の地など存在しない。

5体目ハンター放出まで 10秒

ピカチュウ「もう・・・声も出ない・・・！」

息切れ寸前の黄色いネズミ。彼が逃げる先は・・・

未だハンターエレベータを止められていない工学部棟2号館。

そこから5体目のハンターが放出。ハンターの数合計16体に。

そして、知らずに逃げ込んだピカチュウは、放出直後のハンターと鉢合わせに。最早、逃走不可能・・・

ピカチュウ「わああー！」 ポンッ

2ndステージ残り時間5分56秒 ピカチュウ確保 残り3人

ピカチュウ「中からハンター出てきた・・・最悪・・・ハンター多過ぎるよ・・・もうダメ・・・」

その場に倒れこむボロボロのネズミ・・・

ゼルダ「ピカチュウが・・・確保された・・・！」

フォックス「『残り3人』・・・もう無理だ・・・止まってない所があっても、もう止められねえ・・・」

ピカチュウの確保を遠くから見ていたアイクは・・・

アイク「あそこが止まってないのか・・・？だとしたら、あと2人を呼んで止めるしかないな・・・！」

工学部棟2号館のハンターエレベータが止まってないと確信し、フォックスとゼルダを呼び寄せる事に。急遽^{きふつぎょ}ミッシェンクリアへと動く。

プルルルルル

フォックス「ゼルダか・・・？えっ・・・？アイク・・・？どうした、アイク？」

アイク「フォックスか？工学部棟2号館に来てくれ」

フォックス「どういう意味だ？」

アイク「残ってる3人で、2号館のエレベータを止めよう！」

フォックス「参加してくれるのか？」

アイク「このままじゃ全滅だろ？だったら、やるっきゃねえよ！」

フォックス「助かるぜ！じゃあ、ゼルダを誘ってそっち行くぞ！」

アイク「頼む！」

2人は電話を切った。

フォックス「やっとミッションに参加してくれる気になったようだな・・・！」

そこへ、ゼルダが現れた。

フォックス「おつ、ゼルダ！工学部棟2号館に行くぞ！」

ゼルダ「えっ？」

フォックス「今アイクから電話があつて、2号館が怪しいって言ってたんだ。だから、ひよつとしたらハンターを食い止められるかもしれねえぞ」

ゼルダ「ホントに？だったら、善は急げね。急ぎましょう！」

フォックス「ああ！」

6体目ハンター放出まで 30秒

アイクの許^{もと}へ急ぐフォックスとゼルダ。間に合うのか。

アイク「これで誰か捕まったら、もう全滅は確定的だな・・・！」

不安を露^{あらわ}にするアイク。

6体目ハンター放出まで 20秒

ハンターの目を掻い潜り、工学部棟2号館へと急ぐ狐と姫きつね。

ゼルダ「あっちこっちにいるわね、ハンター・・・！」

フォックス「こりゃあ、止めても相当過酷なものになるな・・・！」

6体目ハンター放出まで 10秒

アイク「まだ来ねえのか・・・？ヤバイな・・・！一旦隠れるか」

タイムリミットが迫り、近くの物陰に身を隠す。

そして、工学部棟2号館から6体目のハンターが放出。ハンターの数は合計17体。

ゲーム終了まで 5分

アイク「ん・・・？あそこにいるのは・・・？」

2つの人影を見たクールな青年。その正体は・・・

アイク「来た・・・！おい・・・！こっちだ・・・！」

フォックス「アイクだ・・・！」

ゼルダ「良かった・・・！捕まっていきたいね・・・！」

そして3人は、工学部棟2号館前に到着。

フォックス・アイク・ゼルダ「せーの・・・」

3人は、工学部棟2号館前の高圧電流発生装置に手形を認証させる。

工学部棟2号館 認証成功 ミッションクリア

フォックス「ヨッシャ・・・！これで全部止めたぞ・・・！」

ゼルダ「しんどかった・・・！」

アイク「初めて仕事出来て良かった・・・」

ゼルダ「じゃあ、皆バラバラで・・・！」

アイク「ああ・・・絶対逃げ切るうな・・・！」

フォックス「当たり前だ・・・！」

牢獄

レッド「あつ！メール来た！ミッション結果だ！」

リュカ「どうなったの？」

レッド「『ミッションクリア。全てのハンターエレベータが停止。しかし、13体のハンターが放出され、その数は合計17体』！」

レッド以外「17体!？」

ファルコ「多過ぎだろ!？」

マリオ「過酷だな・・・!」

デデデ「だが、残り4分だぞい!」

ゲーム終了まで 4分

リンク「いや、逃げ切ってほしい!」

ヨッシー「皆さん、頑張ってください!」

フォックス「17体か・・・!絶対ヤバイ・・・!」

アイク「もう動かない方がいいな・・・!動いたら確実に見つかる・
・・・!」

ゼルダ「もう早く終わって・・・!捕まりたくない・・・!」

残る逃走者は3人。対するハンターは17体。

フォックス「このゲーム・・・スターフォックスの任務以上にきつ
いな・・・!」

持ち前のフットワークを生かし、積極的にミッションに参加してきたフォックス・マクラウド。

ゼルダ「完全逃走成功まで・・・あと少し・・・！」

唯一１stステージから勝ち上がり、ここまで生き延びてきたゼルダ。

アイク「絶対捕まりたくねえ・・・！捕まったら恥だよ・・・！」

ハンターに怯えながらも、最後のミッションに貢献したアイク。

ゲーム終了まで　２分

賞金は８３万円に届こうとしている。

エリアでは、１７体のハンターが逃走者を搜索。

アイク「もう建物の中には入れない・・・ここで見張ろう・・・！」

工学部棟駐車場に身を隠すアイク。

近くにハンター・・・

アイク「ヤバイ・・・！いるな・・・！」

ハンターを目撃し、その場を離れる。

しかし、ハンターは気付いていない。

尚も逃げ続けるアイク。

ゲーム終了まで 1分30秒

しかし・・・逃げる先に別のハンター・・・

アイク「こんなところで捕まってたまるか・・・！絶対に・・・！
って嘘だろー!？」

見つかった・・・

アイク「ヤバイ！絶対にヤバイ！」

一目散に逃げるアイク。しかし・・・

アイク「うわぁー！こっちからも2体来たー！」

方向転換し、脇道へと逃げる。

アイク「ヤベエ！逃げ道が無さ過ぎる！」

気が付けば、8体のハンターがアイクに狙いを定めていた。

ゲーム終了まで 1分

アイク「何だこれ！？こんなのアリかよ!？」

ゲーム終了目前で、大量ハンターに囲まれた・・・

めげずにハンターを掻き回すアイク。しかし多勢に無勢。最早、逃走不可能・・・

アイク「うおわっ！」 ポンッ

2ndステージ残り時間47秒 アイク確保 残り2人

アイク「くそ……！84万円目前だったのに……！あんなのナシだよ……！」

牢獄

レッド「『アイク確保。残るはフォックス・マクラウド、ゼルダのみ』！」

マルス「アイク……捕まったのか……」

ナナ「でもあと30秒よ！」

ゲーム終了まで 30秒

ポポ「もう捕まんないで！お願いだから！」

ゼルダ「ハンター来ないで……！逃げさせて……！」

フォックス「もう絶対捕まらねえ……！」

ゲーム終了まで 20秒

しかし、2人ともハンターに見つかった・・・

ゼルダ「来た！」

フォックス「ヤバイ！」

一目散に逃げる2人。逃げ切れるのか。

牢獄

全員「13!・・・12!・・・11!・・・10!」

フォックス「9!・・・8!・・・7!」

ゼルダ「6!・・・5!・・・4!」

牢獄

全員「3!・・・2!・・・1!」

ゲーム終了

フォックス・マクラウド、ゼルダ 逃走成功 84万円獲得

フォックス「ヨッシャー！逃げ切ったぞー！」

ゼルダ「ホントに！？逃げ切った！？ヤッタ・・・！スゴイ・・・！信じられない！」

レッド「『フォックス・マクラウド、ゼルダ逃走成功。賞金84万円獲得』！」

レッドからの報告で、牢獄の者達も大喝采。

そして、暫くしてフォックスとゼルダが牢獄に到着。

プリン「2人ともすごいでしゅ！」

ルカリオ「17体相手に良く逃げ切れたな！」

フォックス「ああ・・・！でもしんどかったよ・・・！」

サ姆斯「ゼルダなんか、140分間完全に逃げ切ったものね」

ファルコン「ホントだよな」

ゼルダ「自分でも吃驚よ・・・！」

そして、逃走成功した2人は牢獄前の箱の南京錠を解き、中の84万円の札束を手にとった。

フォックス「84万円獲ったぞー！」

ゼルダ「140分間逃げ切ったわ！」

牢獄の者達「おめでとー！」

ゲーム終了！（後書き）

いかがでしたでしょうか？

自分でも、良くここまで書けたなと思ってます（笑）

感想をどんどんお待ちしてます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9420m/>

スマブラ×逃走中in大学キャンパス

2011年9月1日13時54分発行